

第6部 資料

XII章 教員個人別データ：履歴・研究活動・社会活動等

第XII章では、経営学研究科所属教員（社会人教員を含む）について、その学歴・職歴や、研究活動・学会活動・社会活動などを示した個人別データを掲載している。

なお、この「教員個人別データ」については、2016（平成28）年3月31日時点のものを、以下に示す経営学研究科の教員一覧表の順に掲載している。

表XII-1 経営学研究科教員一覧表（2016（平成28）年3月31日現在）

職名	漢字氏名	ヨミガナ	職名	漢字氏名	ヨミガナ		
1	教授	中野 常男	ナノ ツネオ	32	教授	梶原 武久	カヅワラ タケヒサ
2	教授	櫻井 久勝	サクライ ヒサカツ	33	教授	松井 建二	マツイ ケンジ
3	教授	丸山 雅祥	マルヤマ マサヨシ	34	教授	清水 泰洋	シミズ テイエイ
4	教授	金井 壽宏	カイ シウヒロ	35	教授	尾崎 弘之	オザキ ヒロユキ
5	教授	正司 健一	ショウジ ケンイチ	36	准教授	久本 久男	ヒサモト ヒサオ
6	教授	後藤 雅敏	ゴトウ マサトシ	37	准教授	宮原 泰之	ミヤハラ ヤスユキ
7	教授	高嶋 克義	タカシマ カツヨシ	38	准教授	與三野 禎倫	ヨサノ タダノリ
8	教授	水谷 文俊	ミズタニ フミトシ	39	准教授	畠田 敬	ハタケタ ケイ
9	教授	國部 克彦	クニベ カツヒコ	40	准教授	松嶋 登	マツシマ トモル
10	教授	藤原 賢哉	フジワラ ケンヤ	41	准教授	三古 展弘	サンコ テンヒロ
11	教授	小川 進	オガワ スム	42	准教授	馬 岩	マ イシ
12	教授	黄 磷	コウ リン	43	准教授	山崎 尚志	ヤマザキ ナオシ
13	教授	松尾 博文	マツイ ヒロフミ	44	准教授	堀口 真司	ホリグチ シンジ
14	教授	三品 和広	ミナ カズヒロ	45	准教授	島田 智明	シマダ トモアキ
15	教授	原 拓志	ハラ タクジ	46	准教授	高田 知実	タカダ トモミ
16	教授	南 知恵子	ミナミ チエコ	47	准教授	平野 恭平	ヒラノ キウヘイ
17	教授	上林 憲雄	カバヤシ ノリオ	48	准教授	各務 和彦	カガム カズヒコ
18	教授	原田 勉	ハラダ ツトム	49	准教授	保田 隆明	ホウダ リュウメイ
19	教授	忽那 憲治	クツナ ケンジ	50	准教授	北川 教央	キタガワ ノリオ
20	教授	末廣 英生	スエヒロ ヒデオ	51	准教授	馬場 新一	ババ シンイチ
21	教授	平野 光俊	ヒラノ ミツトシ	52	准教授	宮尾 学	ミヤオ マナブ
22	教授	高橋 潔	タカハシ キヨシ	53	准教授	森村 文一	モリムラ フミカズ
23	教授	砂川 伸幸	イサガワ ノブユキ	54	准教授	中村 絵理	ナカムラ エリ
24	教授	得津 一郎	トクツ イチロウ	55	特命准教授	波田 芳治	ハタ ヨシハル
25	教授	三矢 裕	ミヤ ヒロシ	56	特命准教授	BISHNU KUMAR ADHIKARY	ビッシュヌ クマル アディカリ
26	教授	音川 和久	オトガワ カズヒサ	57	特命准教授	八木 迪幸	ヤキ テイユキ
27	教授	松尾 貴巳	マツイ タカミ	58	特命准教授	Gustavo A. Tanaka	グスタボ タナカ
28	教授	内田 浩史	ウチダ ヒロシ	59	講師	中井 正敏	ナカイ マサトシ
29	教授	鈴木 一水	スズキ カズミ	60	講師	西村 幸宏	ニシムラ ユキヒロ
30	教授	栗木 契	クリキ ケイ	61	講師	日置 孝一	ヒサキ コウイチ

なかのつねお

1. 中野常男

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1993年）

生年 1951年

学歴

1973年3月 神戸大学経営学部卒業

1975年3月 神戸大学大学院経営学研究科修士課程修了

1975年4月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程退学

職歴

1975年5月 神戸大学経営学部助手

1978年4月 神戸大学経営学部講師

1981年12月 神戸大学経営学部助教授

1993年2月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 研究指導，簿記，会計史

大学院（一般）演習，財務会計特殊研究（簿記）

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

経営学部夜間学部主事（1995年4月-1996年3月）

経営学部会計学科長（1997年4月-1999年3月）

神戸大学評議員（1999年6月-2004年3月）

経営学研究科長・経営学部長（2002年4月-2004年3月）

学長補佐（2005年2月-2007年2月）

理事・副学長（2007年2月-2009年3月）

現代経営学専攻長（2012年4月-2013年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『近代会計史入門』，同文館出版，2014年，（清水泰洋と共著）

- 『会計と会計学の歴史』（体系現代会計学 第8巻），中央経済社，2012年，（千葉準一と共編著）。
- 『複式簿記の構造と機能—過去・現在・未来—』，同文館出版，2007年，（編著）。
- 『20世紀におけるわが国会計学研究の軌跡』，白桃書房，2005年，（戸田博之，興津裕康と共編著）。
- 『複式簿記会計原理[第2版]』，中央経済社，2000年。
- 『会計とイメージ』，神戸大学経済経営研究所，1998年，（山地秀俊，高須教夫と共著）。
- 『アメリカ現代会計成立史論』，神戸大学経済経営研究所，1993年，（山地秀俊，高須教夫と共著）。
- 『会計理論生成史』，中央経済社，1992年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「曾田愛三郎：わが国における会計史研究の先駆者—曾田と Beckmann の簿記史研究の交差—」，『国民経済雑誌』，第212巻・第3号，2015年，1-20。
- 「会計」の起源と複式簿記の誕生」，中野常男・清水泰洋共編著『近代会計史入門』（序章），2014年，3-22。
- 「18世紀イギリスの金融不祥事と会計監査—「南海の泡沫」（1720）における「会計士」の役割—」，『経営研究』（神戸大学大学院経営学研究科），No.59，2014年，1-35。（電子刊行物：www.b.kobe-u.ac.jp/resource/br/pdf/No.59.pdf）
- 「会計史と会計人の「コモンセンス」」，『税経通信』，第69巻・第5号，2014年，17-23。
- 「『会計史学会年報』に見るわが国の会計史研究の特質：1983～2012年」，『国民経済雑誌』，第208巻・第2号，2013年，1-22。（橋本武久・清水泰洋・澤登千恵・三光寺由実子と共著）。
- 「近代会計理論の生成—19世紀英米文献に見る資本主義理論生成過程の点描—」，千葉準一・中野常男共編著『会計と会計学の歴史』（第7章），中央経済社，2012年，261-303。
（他を含めて論文119編，書評・翻訳等62編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

1. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「会計史研究の展開に関する実証的分析: リサーチデータベースの作成と国際比較」, 2015-2017 年度
2. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「会計史研究データベースの作成と国際比較」, 2012-2014 年度
3. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「会計倫理に関する事件史的アプローチ—不正会計の歴史的分析」, 2009-2011 年度

(他 4 件)

【3】 主要所属学会

1. 日本会計史学会
2. 日本簿記学会
3. 日本会計研究学会
4. 財務会計研究学会
5. 非営利法人研究学会

【4】 学会における活動

1. 会長：日本簿記学会 (2014 年 8 月-現在)
2. 会長：日本会計史学会 (2007 年 9 月-2009 年 10 月)
3. 副会長：日本簿記学会 (1999 年 9 月-2002 年 9 月)
4. 理事：日本会計史学会 (1997 年 10 月-2001 年 10 月, 2003 年 8 月-2013 年 11 月), 日本簿記学会 (1993 年 9 月-1999 年 9 月, 2002 年 9 月-2008 年 8 月, 2011 年 8 月-現在), 財務会計研究学会 (2009 年 10 月-2011 年 11 月), 非営利法人研究学会 (2003 年 10 月-現在)
5. 監事：日本会計史学会 (1995 年 11 月-1997 年 10 月, 2001 年 10 月-2003 年 8 月), 日本簿記学会 (2008 年 8 月-2011 年 8 月), 財務会計研究学会 (2011 年 11 月-2014 年 11 月)
6. 学会賞審査委員：日本会計史学会 (1999 年 7 月-2001 年 10 月, 2003 年 10 月-2013 年 11 月) (うち委員長: 2007 年 9 月-2009 年 10 月), 日本簿記学会 (2005 年 9 月-2011 年 8 月) (うち委員長: 2008 年 8 月-2011 年 8 月)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 兵庫県功労賞 (教育) (2015 年)
2. 日本簿記学会・学会賞 (2008 年)
3. 日本会計研究学会・太田賞 (1992 年)
4. 日経・経済図書文化賞 (1992 年)

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Academic Visitor: Cardiff University, 2012
2. Visiting Scholar: University of Illinois at Urbana-Champaign, 1994-1995
3. Visiting Scholar: London School of Economics and Political Science, 1984
4. Adjunct Professor: California State University at Hayward (現 East Bay), 1980-1981

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. わが国における会計史研究萌芽期の史的分析
2. わが国における会計史研究の展開に関するデータベースの作成と分析 (共同研究)
3. 複式簿記の近代化, 特にイギリスとアメリカにおける近代化過程の史的分析
4. 会計の文化史, 特に非会計人による著書や絵画などに見出される会計の社会的イメージに関する史的分析

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師 (2013-2015 年度): 桃山学院大学大学院経営学研究科 (簿記原理研究 A・簿記原理研究 B)
2. 非常勤講師 (2015 年度): 兵庫県立大学経営学部 (会計史)
3. 金融庁: 公認会計士試験・第 2 次試験委員 (2000 年 11 月-2003 年 10 月)
4. 国税庁: 税理士試験・試験委員 (2009 年 3 月-2012 年 1 月)

2. 櫻井 久勝

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1992年）

生年 1952年

学歴

1975年3月 神戸大学経営学部卒業

1977年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

1979年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1979年4月 神戸大学経営学部助手

1981年12月 神戸大学経営学部講師

1985年4月 神戸大学経営学部助教授

1993年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 財務会計，会計システム特殊講義（財務諸
表分析），研究指導

大学院（一般）演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

経営学部会計学科長（1995年4月-1997年3月）

経営学部夜間学部主事（1999年4月-2000年3月）

神戸大学評議員（2002年4月-2004年3月）

経営学研究科長・学部長（2004年4月-2006年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『財務会計講義』，中央経済社，初版1994年，第16版2015年。
- 『財務諸表分析』，中央経済社，初版1996年，第6版2015年。

- 『会計学入門』，日本経済新聞社，初版1996年，第4版2015年。
- 『財務会計・入門』，有斐閣，初版1998年，第10版，2015年，（須田一幸と共著）。
- 『テキスト国際会計基準』，白桃書房，初版2001年，第6版2013年，（編著）。
- 『会計情報の有用性』，中央経済社，2013年，（伊藤邦雄と共編著）。
- 『企業価値評価の実証分析』中央経済社，2010年，（編著）。
- 『会計利益情報の有用性』，千倉書房，1991年。（他11冊）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「資産負債アプローチへの過剰傾斜の弊害」『企業会計』，2014年，66巻10号，14-20。
- 「四半期財務諸表による営業レバレッジの推定」，『会計』，2011年，180巻4号，107-120，（小野慎一郎との共著）。
- 「実証研究からみた会計基準の評価」，『会計』，2011年，179巻1号，39-51。
- 「会計の国際的統合と概念フレームワーク」，『企業会計』，61巻2号，2009年，18-25。
- 「会計利益情報の品質」，『会計基準』，22号，2008年，96-99。
- 「包括利益の報告と企業評価」，『JICPA ジャーナル』，第18巻，第8号，2006年，80-86。
- 「知的財産の価値評価と開示」，『会計』，第165巻，第2号，2004年，27-41。
- 「経済産業省のブランド価値評価モデル」，『国民経済雑誌』，第186巻，第5号，2002年，1-16。
- 「発生主義利益の存在意義と資産評価基準」，『会計プロGRESS』，第1号，2000年，72-81。
- 「連結財務諸表の情報提供機能と利害調整機能」，『会計』，第151巻，第4号，1997年，29-41。
- 「減価償却方法の変更と株価形成」，『JICPA ジャーナル』，第3巻，第2号，1991年，17-21。
- 「会計利益と株価変化の実証的関連性—東証第一部企業1977-88年—」，『国民経済雑誌』，第161巻，第2号，1990年，69-88。
- 「一般投資者保護とタイムリー・ディスクロージャー」，『会計』，第129巻，第3号，1986年，49-65。

(他学術論文 110 編, 解説・書評等 114 編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Transnational Accounting*, 2nd ed., Palgrave Publishers, 2001, (edited by D. Ordelheide and KPMG), 1685-1805.
2. *The Japanese Stock Market: Pricing Systems and Accounting Information*, Praeger Publishers, 1988, (with S. Sakakibara, H. Yamaji, K. Shiroshita, and S. Fukuda), 63-92.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. A Japanese Perspective on Accounting for Goodwill and Intangibles, *Issues in Accounting Education*, Vol.11, No.2, 1996, 483-486, 499.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本監査研究学会
3. 国際会計研究学会
4. 日本簿記学会

【4】 学会における活動

1. 評議員：日本会計研究学会 (1997年-現在)
2. 理事：日本会計研究学会 (2003-2009年, 2012年-現在), 日本監査研究学会 (1995-2003年, 2009-2012年), 国際会計研究学会 (2005-2011年)
3. 編集委員：会計プロGRESS (2007-2009年)
4. レフェリー：Journal of International Accounting (2001-2007年), 会計プロGRESS (2000年-現在)
5. 学会賞審査委員：日本会計研究学会 (2000-2006年, 2009年-現在), 国際会計研究学会 (2005-2008年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日経・経済図書文化賞 (1991年)

2. 日本会計研究学会・太田賞 (1991年)
3. 日本会計研究学会・学会賞 (1987年)

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「現在価値測定のための割引率の決定要因に関する実証研究」, 2013-2015年度
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「四半期財務諸表に基づく企業利益の不確実性リスクの評価に関する実証研究」, 2010-2012年度.
3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(A), 「会計情報を活用した企業評価に関する総合的研究」, 2007年-2009年度.

(他 2 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of California, Berkeley, 1983, 1988, 1995.

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「財務会計基準の研究」：新設改廃される会計基準の内容とその基礎概念, 具体的会計処理, 財務諸表への影響, 国際的動向に関する研究
2. 「会計情報に基づく企業評価の実証研究」：利益業績と株価変動, 決算発表への市場反応, リスク評価, 倒産予測, 企業価値評価など, 財務諸表分析を基礎とした企業評価の実証研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 公認会計士・監査審査会委員 (2007年-現在)
2. 国税庁税務大学校客員教授 (2001年-現在)
3. 企業会計基準委員会の収益認識専門委員会委員 (2008年-現在)
4. 日経・経済図書文化賞審査委員 (2012年-現在)
5. 日本内部監査協会 青木賞審査委員 (2014年-現在)
6. 日本証券アナリスト協会 カリキュラム委員会委員, 試験委員会委員 (1991年-現在)
7. 公認会計士として実務従事 (1977-1979年)

まるやままさよし

3. 丸山 雅祥

職名 教授

学位 博士（商学）（神戸大学）（1992年）

生年 1951年

学歴

1974年3月 和歌山大学経済学部卒業

1976年3月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程
修了

1979年3月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程
単位修得退学

職歴

1979年4月 日本学術振興会奨励研究員（一橋大学）

1980年4月 岡山大学経済学部講師

1984年4月 岡山大学経済学部助教授

1989年4月 神戸大学経営学部助教授

1993年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 市場システム基礎論，研究指導

大学院（一般）演習，市場経済分析特論

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）ビジネスエコノミクス応用研究

学内役職

経営学部市場システム学科長（1997年4月-1998年
3月）

経営学部夜間学部主事（1998年4月-1999年3月）

神戸大学評議員（1999年6月-2002年3月）

経営学部市場システム学科長（2002年4月-2003年
3月）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『経営の経済学：BUSINESS ECONOMICS』，有

斐閣，初版2005年，新版2011年.

2. 『現代のミクロ経済学』，創文社，1997年，（成
生達彦と共著）.

3. 『日本市場の競争構造』，創文社，1992年.

4. 『流通の経済分析』，創文社，1988年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「流通チャネルの選択と製品競争」，『流通研究』，
第3巻，第1号，2000年，1-21，（南川和充と共
著）.

3. その他国内論文

1. 「フランチャイズ方式による海外進出—実証研
究の展望—」，『国民経済雑誌』，第205巻，第2
号，2012年，1-12，（山下悠と共著）.

（他，学術論文105編，書評3編，辞典3編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Overcoming the Liability of Foreignness in
International Retailing: A Consumer Perspective,
Journal of International Management, Vol. 21,
Issue 3, 2015, 200-210 (with Lihui Wu).

2. Application Compatibility and Affiliation in
Two-Sided Markets, *Economics Letters*, Vol.130,
2015, 39-42, (with Yusuke Zennyō).

3. Revenue versus Incentive: Theory and Empirical
Analysis of Franchise Royalties, *Journal of the
Japanese and International Economies*, Vol. 34,
2014, 154-161, (with Yu Yamashita).

4. The Relevance of Retailer Country-of-Origin to
Consumer Store Choice: Evidence from China,
International Marketing Review, Vol. 31, Issue 5,
2014, 462-476, (with Lihui Wu).

5. Compatibility and the Product Life Cycle in
Two-Sided Markets,” *Review of Network
Economics*, Vol.12, Issue 2, 2013, 131-155, (with
Yusuke Zennyō).

6. Franchise Fees and Royalties: Theory and Empirical

Results, *Review of Industrial Organization*, Vol.40, No.3, 2012, 167-189, (with Yu Yamashita).

7. Modern Retailers in a Transition Economy: The Case of Vietnam, *Journal of Macromarketing*, Vol.32, No.1, 2012, 31-51, (with Le Viet Trung).
8. Platform Strategy of Video Game Software in Japan, 1984-1994: Theory and Evidence, *Managerial and Decision Economics*, Vol.32, Issue 2, 2011, 105-118, (with Kenichi Ohkita).
9. The Logic of Franchise Contracts: Empirical Results of Japan, *Japan and the World Economy*, Vol.22, Issue 3, 2010, 183-192, (with Yu Yamashita).
10. Commitment to a Strategy of Uniform Pricing in a Two-Period Duopoly with Switching Costs, *Journal of Economics (Zeitschrift für Nationalökonomie)*, Vol.98, No.1, 2009, 45-66, (with Yuncheol Jeong).
11. Vertical Integration, Bundled Discounts and Welfare, *Information Economics and Policy*, Vol.21, No.1, 2009, 62-71, (with Kazumitsu Minamikawa).
(他 9 編)

3. その他海外論文

1. The Japanese Distribution Channels, *The Japanese Economy*, Vol.32, No.3, 2004, 27-48.
2. Is the Japanese Distribution System Really Inefficient?, in P. Krugman (ed.), *Trade with Japan*, The University of Chicago Press, 1991, 149-173, (with Takatoshi Ito).
(他学術論文 26 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本商業学会
3. European Economic Association

【4】 学会における活動

1. 理事：日本商業学会 (1994-1998 年)
2. 幹事：日本商業学会 (1989-1994 年)
3. 監事：日本経済学会 (2008-2010 年)
4. 編集委員：流通研究 (1998-2006 年)
5. 学会賞審査委員：日本商業学会 (1996-2000 年)
6. レフェリー：Journal of Economics, Applied Economics, Journal of the Japanese and International Economies, Australasian Marketing Journal, Journal of Retailing and Consumer Services, Japanese

Economic Review など

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日経・経済図書文化賞 (1993 年)
2. 日本商業学会・優秀賞 (1993 年)
3. 日本商業学会・奨励賞 (1989 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「デジタル流通革命の経済効果に関する理論的・実証的研究」, 2012-2016 年。
(他 10 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of Edinburgh, Department of Business Studies, U.K., 2001
2. Visiting Fellow: University of Edinburgh, Department of Business Studies, U.K., 1992-1993.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Unprofitable Process Innovation in Two-Sided Markets, Western Economic Association International, 90th Annual Conference, Hawaii, USA, 28 June-2 July, 2015.
(他 3 件)

【9】 現在の研究活動

1. 「デジタル流通革命の経済効果に関する理論的・実証的研究」
2. 「アジア流通革命の基本構造—消費者行動調査をベースとした理論的・実証的研究」

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (2005-2010 年, 2012-2014 年)
2. 経済審議会専門委員 (1994-1995 年)
3. 通産省産業構造審議会専門委員 (1993-1995 年)
4. OECD Economic Department Consultant (1991-1992 年)
5. 経済企画庁経済研究所客員主任研究官 (1988-1991 年)

4. 金井 壽宏

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1992年）
Ph.D.（マサチューセッツ工科大学）（1990年）

生年 1954年

学歴

1978年3月 京都大学教育学部卒業
1980年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

職歴

1980年4月 神戸大学経営学部助手
1983年4月 神戸大学経営学部講師
1987年12月 神戸大学経営学部助教授
1994年4月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授
2010年4月 神戸大学大学院経営学研究科長
2012年4月 神戸大学社会科学系教育研究府長

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導

大学院（一般）定性的方法論研究，経営管理特論，演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学応用研究（組織行動Ⅱ），
現代経営学応用研究（コーチング），
現代経営学応用研究（ネゴシエーション），現代経営学演習

学内役職

経営学部経営学科長（1999年4月-2000年3月）
経営学部経営学科長（2002年4月-2003年3月）
経営学研究科マネジメント・システム専攻長
（2002年4月-2003年3月）
神戸大学評議員（2004年4月-2006年3月）
経営学研究科長・経営学部長・神戸大学評議員（2010年4月-2012年3月）
神戸大学社会科学系教育研究府長（2012年4月-現在）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『なぜ会社は変わらないのか』，日本経済新聞社，2013年，（柴田昌治と共著）。
- 『実践知—エキスパートの知性』，有斐閣，2012年，（楠見孝と共著）。
- 『組織エスノグラフィー』，有斐閣，2010年，（佐藤郁哉，ギデオン・クンダ，ジョン・ヴァンマーネンと共著）。
- 『リーダーシップの旅-見えないものを見る』，光文社新書，2007年，（野田智義と共著）。
- 『サーバント・リーダーシップ入門』，かんき出版，2007年，（池田守男と共著）。
- 『働くみんなのモチベーション論』，NTT出版，2006年。
- 『組織行動の考え方』，東洋経済新報社，2004年，（高橋潔と共著）。
- 『仕事で一皮むける』，光文社，2002年。
- 『働くひとのためのキャリア・デザイン』，PHP研究所，2002年。
- 『経営組織』，日本経済新聞社，1999年。
- 『企業者ネットワークングの世界』，白桃書房，1994年。
- 『ニューウェーブ・マネジメント』，創元社，1993年。
- 『変革型ミドルの探求』，白桃書房，1991年。（他46冊）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「質的研究について考える」，第24巻，第3号，2011年，211-249，（佐藤郁哉，松尾睦と共著）。
- 「キャリアの学説と学説のキャリア」，『日本労働研究雑誌』，第603号，2010年，4-15。
- 「個人と組織のかかわり合いとキャリア発達」，『日本労働研究雑誌』，第455号，1998年，13-25，（鈴木竜太，松岡久美と共著）。
- 「ピア・ディスカッションを通じての『気づき』の共有」，『組織科学』，第23巻，第2号，1989年，80-90。
- 「ミドル・マネジャーにとってのメンタリング」，『一橋ビジネス・レビュー』，第44巻，第2号，1989年，50-78。
- 「リーダーシップの代替物」，『組織科学』，第15巻，第3号，1981年，44-55。（他3編）

3. その他国内論文

- 『JR西日本 CSR REPORT 2014』，2014年，55-56。

2. 『組織開発訪米調査団へのインタビュー調査の報告書』関西生産, 2014年
3. 「組織開発におけるホールシステム・アプローチの理論的基礎と実践的含意」, 『国民経済雑誌』第206巻第5号, 2012年, 1-32.
4. 「インタラクシオンデザインを通じて創造的な実践コミュニティを編み出す」, 『ヒューマンインターフェース学会誌』, Vol.14, No.3, 2012年, 169-176, (山内祐平, 中原淳と共著).
5. 「活私開公型のキャリア発達とリーダーシップ開発」, 山脇直司・金泰昌編, 『公共哲学』, 第18巻, 東京大学出版会, 2006年, 261-301.
(他学術論文98編, 書評等12編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Challenges of Human Resource Management in Japan*, London, UK: Routledge, 2011, (Beebenroth, Ralf and Kanai, Toshihiro eds.).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Qualitative and quantitative studies of leadership in multinational settings- Meta-analytic and cross-cultural reviews, *Journal of World Business*, Vol.47, Issue 4, 2012, 530-538, (with Takahashi, K., J. Ishikawa).
2. Entrepreneurial Networks Across Oceans to Promote International Strategic Alliances for Small Businesses, *Journal of Business Venturing*, Vol.9, No.6, 1994, 489-507, (with George Hara).

3. その他海外論文

1. Entrepreneurial Networking Organizations: Cases, Taxonomy, and Paradoxes, in W. Mark Fruin (ed.), *Networks, Markets, and the Pacific Rim*, Oxford University Press, 1998, 53-78.

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 経営行動科学学会
3. 産業・組織心理学会
4. Academy of Management

【4】 学会における活動

1. 会長：経営行動科学学会（2000-2002年）
2. 常任理事：産業・組織心理学会（1998-2003年）
3. 理事：組織学会（2005-2007年）
4. 学会誌編集：組織科学編集副委員長（1996-2002年）、一橋ビジネスレビュー編集委員（1997年-現在）
5. レフェリー：Organization Science, 組織科学, 経営行動科学, ビジネス・インサイト
6. 学会賞審査委員：経営行動科学学会（2002年-現在）、組織学会（2009-2010年）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 経営科学文献賞（1993年）
2. 組織学会・高宮賞（著書部門）（1992年）
3. 日経・経済図書文化賞（1992年）
4. 組織学会・高宮賞（論文部門）（1988年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究助成金：基盤研究(A), 「現場ベースの人材育成の研究」, 2010-2014年度
2. 文部省科学研究助成金：基盤研究(A), 「再復興期に国家レベルの競争力を高める企業のコア人材の体系的な育成に関する国際比較」, 2005-2007年度.
(他5件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. London Business School, COR, 1994-1995.
2. Massachusetts Institute of Technology, 1984-1987.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 組織開発の理論的基礎と実践的適用
2. リーダーシップ開発の持論アプローチ
3. モティベーションの自己調整と持論アプローチ
4. 選抜型の次期経営者育成モデルの開発

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本生命評議員（2005年-現在）
2. 日本CHO協会 アドバイザー（2005年-2010年）
3. 東洋ゴム社外取締役（2012年-2014年）

5. 正司健一

職名 教授

学位 博士（商学）（神戸大学）（1998年）

生年 1955年

学歴

1977年3月 神戸大学経営学部卒業

1979年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1979年4月 神戸大学経営学部助手

1982年4月 神戸大学経営学部講師

1986年4月 神戸大学経営学部助教授

1998年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 研究指導，交通論

大学院（一般）演習，市場経済分析特殊研究（交通論）

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学応用研究（国際ロジステイクス）

学内役職

経営学研究科長・経営学部長（2006年4月-2008年3月）

神戸大学評議員（2008年4月-2009年3月）

理事・副学長（2009年4月-2015年3月）

学長顧問（2015年4月-現在）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『都市公共交通政策：民間供給と公的規制』，千倉書房，2001年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「大手私鉄の多角化戦略に関する一考察：多角化の程度と収益性の関係」，日本交通学会，『交通学研究 2000年研究年報』，2001年，185-194（B. Killeen と共著）。（他1編）

3. その他国内論文

- 「都市公共交通整備の費用負担について」，衛藤卓也編著，『現代交通問題・考』，成山堂書店，2015（発刊予定），（第9章）。
- 「日本の大手私鉄の多角化戦略に関する考察とそのインプリケーション」，『国民経済雑誌』，2014年，第209巻第4号，1-15，（宋娟貞と共著）。
- 「英国における域内バス規制緩和後の流れ：QPsまでの過程」，『国民経済雑誌』，2012年，第205巻第5号，1-16，（鶴指眞志と共著）。
- 「交通サービスにおける時刻の信頼性とスケジューリング行動」，『商経学叢（近畿大学商経学会）』，2011年，第57巻第3号，269-294，（毛海千佳子と共著）。（他学術論文52編，解説・書評等23編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Implement Human Resources Development for "MACHIZUKURI" and Integrated Transport Policy: A Case Study of "SAISEI-JUKU", *Selected Proceedings of the 12th World Conference on Transport Research 2010*, 2010, (with Tsutomu Doi, Takehiko Daito, Dai Nakagawa, Toshimichi Murao, Yutaka Honda, Toru Higashi).
- The Effect of Governmental Subsidies and the Contractual Model on the Publicly-owned Bus Sector in Japan, *Research in Transportation Economics*, 2010, Vol.29, Issue 1, 60-71, (with Hiroki SAKAI).
- Rail Operation-Infrastructure Separation: the Case of Kobe Rapid Transit Railway, *Transport Policy*, vol.11, No.3, 2004, 251-263, (coauthored with F.

Mizutani).

(他 2 編)

3. その他海外論文

1. Analysis on the Structural Characteristics of the Station Catchment Area in Japan, In Preston, J. et al. (eds.) Proceedings of the Eleventh International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport: *Public Policy and Transport*, 2009, 79-86, (with S. Nobuhiro). (他 2 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本交通学会
2. 海運経済学会
3. 公益事業学会

【4】 学会における活動

1. 副会長：日本交通学会（2011年-現在）
理事：日本交通学会（1997年-現在）
監事：海運経済学会（1991年-現在）
2. 編集委員：運輸政策研究（2009年-2013年）、運輸と経済（2013年-現在）
3. レフェリー：Research in Transport Economics, 交通学研究, 公益事業研究, 国民経済雑誌, 土木学会論文集, 都市計画論文集, World Conference on Transport Research
4. 学会賞審査委員：日本交通学会（2003年-現在）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本交通学会賞 論文の部（2011年）
2. 尼崎市制90周年記念 市政功労賞（2006年）
3. 国際交通安全学会賞 著作部門（2002年）
4. 日本交通学会賞 著書の部（2002年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費：基盤研究(B), 「持続可能な社会構築のための交通に関する政策分析」, 2012-2015年度, 水谷文俊他3名と共同。

(他 6 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scientist: Department of Environment and Civil Engineering, Massachusetts Institute of Technology, 1990-1991, 1997
2. Visiting Research Fellow: Transport Studies Unit, University of Oxford, 1991
3. Visiting Scholar: Transport Studies Group, University College London, 1983-1984
(他学会報告, 研究調査のための海外渡航多数)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Estimating welfare change from local bus deregulation in Japan, 13th International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport, Oxford, U.K., Sept15-19, 2013, (酒井裕規、高橋愛典と共同)。

【9】 現在の研究活動

1. 「公共交通運営に関する諸研究」：効率的かつ有効な公共交通サービス供給体制をいかに確立し、これを維持するかについて多面的に分析。
2. 「持続可能な都市交通」：環境的だけでなく、社会的にも経済的にも持続可能なまちと交通をめざす総合交通政策の分析・検討とわが国においてこれになう人材の育成。

【10】 社会活動・実務経験

1. 交通政策審議会臨時委員「交通政策審議会交通体系分科会地域公共交通部会」(国土交通省総合政策局、2013年9月-2015年3月)
2. 近畿地方整備局事業評価監視委員会委員(国土交通省近畿地方整備局、2011年6月-現在)
3. 近畿圏における鉄道ネットワーク等の現状把握と今後の方向性に関する検討会 委員(近畿運輸局)、(2012年10月-現在)
4. 北部地域総合公共交通検討会 会長(京都府建設交通部、2011年4月-2014年3月)
5. 京都市「歩くまち・京都」推進会議委員, 公共交通ネットワーク部会 部会長(京都市、2010年8月-現在)
6. 公益財団法人阪和育英会 理事

(他多数)

ごとうまさとし

6. 後藤 雅敏

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1998年）

生年 1958年

学歴

1982年3月 名古屋大学経済学部卒業

1984年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

1986年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程退学

職歴

1986年4月 滋賀大学経済学部助手

1987年4月 滋賀大学経済学部講師

1989年4月 滋賀大学経済学部助教授

1990年4月 神戸大学経営学部講師

1991年4月 神戸大学経営学部助教授

1998年4月 神戸大学経営学部教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 会計学基礎論，研究指導
初級簿記，中級簿記，工業簿記，財務会計
特殊講義（実証・実験会計学）

大学院（一般）会計学基礎研究，演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

経営学部会計学科長（2002年4月-2003年3月）

経営学研究科会計システム専攻長（2005年4月-2008年3月）

神戸大学評議員（2008年4月-2010年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『会計と予測情報』，中央経済社，1997年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「Implied Cost of Capital over the Last 20 Years」
『The Japanese Accounting Review』，Vol.1，2011年，71-104，（北川教央と共著）。

2. 「情報が増えると投資家は不安になるか」『会計』，
第175巻，第5号，2009年，722-735，（山地秀俊と共著）。

3. 「コーポレート・ガバナンスの実験的分析」，『組織科学』，
第39巻，1号，2005年，36-46，（山地秀俊と共著）。

（他学術論文29編，解説・書評等5編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Cognitive Bias in the Laboratory Security Market,
Computational Economics, Vol.35, No.2, 2010,
101-126, (with Hidetoshi Yamaji).

3. その他海外論文

1. Management Forecasts of Accounting Numbers in
Japan and Daily Stock Returns Behavior, in Shyam
Sunder and Hidetoshi Yamaji (eds.), *The Japanese
Style of Business Accounting*, Quorum, 1999,
119-136.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本シミュレーション&ゲーミング学会
3. American Accounting Association

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「ある会計情報を見たとき、脳の中で不安を感じる部分は反応するか?」, 2010-2012 年度.
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「会計情報の理解可能性に関する実証・実験研究」, 2006-2008 年度.
3. 科学技術融合振興財団, 1999-2000 年.
4. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)(2), 「企業価値の簿価と時価の差異が利益予測の正確性に及ぼす影響」, 1998-1999 年度.
5. 文部科学省科学研究費：一般研究(C), 「企業の所有構造の違いが会計情報の有用性に及ぼす影響についての研究」, 1995 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Stanford University, 1993

【8】 国際学会における発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 会計情報に関する研究
2. コーポレート・ガバナンス

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師：近畿大学（1998-2002 年）、大阪産業大学（1997-2002 年）

7. 高嶋 克義

職名 教授

学位 博士（商学）（神戸大学）（1995年）

生年 1958年

学歴

1982年3月 京都大学経済学部卒業
 1984年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
 前期課程修了
 1987年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
 後期課程単位修得退学

職歴

1987年4月 近畿大学商経学部講師
 1990年4月 近畿大学商経学部助教授
 1991年4月 神戸大学経営学部講師
 1991年8月 神戸大学経営学部助教授
 1998年4月 神戸大学経営学部教授
 1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導，マーケティング・マネジメント
 大学院（一般）演習，マーケティング特論
 大学院（GMAP/SESAMI）なし
 大学院（MBA）現代経営学演習

学内役職

経営学部市場システム学科長（2004年4月-2005年
 3月）
 経営学研究科市場科学専攻長（2004年4月-2005年
 3月）
 神戸大学評議員（2009年4月-2010年3月）
 現代経営学専攻長（2013年4月-2015年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『小売企業の基盤強化』，有斐閣，2015年。
- 『現代商業学新版』，有斐閣，2012年。
- 『小売業革新』，千倉書房，2010年，（西村順二

と共著）。

- 『現代マーケティング論』，有斐閣，2008年，（桑原秀史と共著）。
- 『生産財マーケティング』，有斐閣，2006年，（南知恵子と共著）。
- 『営業改革のビジョン』，光文社，2005年。
- 『営業プロセス・イノベーション』，有斐閣，2002年。
- 『現代商業学』，有斐閣，2002年。
- 『日本型マーケティング』，千倉書房，2000年（編著）。
- 『生産財の取引戦略』，千倉書房，1998年。
- 『マーケティング・チャネル組織論』，千倉書房，1994年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「小売企業への個別適応的MD提案の規定因—取引費用に基づく考察—」，『流通研究』，2014年，第16巻第4号，1-12。
- 「マーケティング戦略転換の組織的制約—脱コモディティ化戦略の実行可能性に基づいて—」，『流通研究』，2013年，第16巻第1号，61-76。
- 「小売企業における革新的仕入行動の考察」，『流通研究』，2013年，第15巻第1号，1-14。
- 「改善志向の営業プロセス管理—日本ベリタインゲルハイムの事例—」，『マーケティングジャーナル』，第30巻第3号，2011年，67-80，（松尾睦，早川勝夫と共著）。
- 「小売業態革新に関する再検討」，『流通研究』，第9巻，第3号，2007年，33-51。
- 「営業管理様式の選択に関する新視点」，『流通研究』，第3巻，第2号，2000年，1-16。
- 「品揃え形成概念の再検討」，『流通研究』，第2巻，第1号，1999年，1-13。
- 「産業広告の効果に関する実証研究」，『日経広告研究所報』，第165号，1996年，59-68，（竹村正明・大津正和と共著）。

3. その他国内論文

- 「コンビニエンス・ストアにおけるスーパーバイザーの知識共有 — 株式会社セブン—イレブン・ジャパン」，『マーケティング・ジャーナル』，2014年，第33巻第4号，117-130。（関 隆教との共著）
- 「小売プロセス革新の組織的基盤に関する考察」，

『マーケティング・ジャーナル』, 2014年, 第33巻第4号, 29-42.

3. 「小売業におけるバイヤーのアウトカムベース管理の規定因」, 『国民経済雑誌』, 2014年, 第209巻第2号, 21-35.
4. 「小売業における依存度管理戦略の展開」, 『マーケティング・ジャーナル』, 2013年, 128号, 2-13.
(他学術論文38編, 解説・書評等17編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “Determinants of Merchandising Proposals by Vendors: Influence of the Recognition of Transaction Costs,” *Journal of Marketing Channels*, 2015, Vol.22, No.1, pp.42-51.(with Changju Kim)
2. “The Impact of Outcome-based Control for Retail Buyers on Organizational performance,” *Australasian Marketing Journal*, 2014, Vol.22, No.1, pp.76-83.(with Changju Kim)
3. “Learning Oriented Sales Management Control: The Case of a Pharmaceutical Company,” *Journal of Business to Business Marketing*, 2013, Vol. 201,2013, 21-31.(with Makoto Matsuo, Katsuo Hayakawa)

3. その他海外論文

1. Behavior-Based Salesforce Control Systems and Interdepartmental Communication, *Business Research*, 2004, No.51, 1-18.

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会

【4】 学会における活動

1. 会長：日本商業学会（2015年-現在）
2. 副会長：日本商業学会（2010年-2015年）
3. 理事：日本商業学会（2006-2008年, 2010-2015年）
4. 部会代表理事：日本商業学会（2002-2004年）

5. 本部理事：日本商業学会（1996-2000年）
6. 学会賞審査委員：日本商業学会（2004-2008年）
（審査委員長 2004-2006年）
7. 編集委員：流通研究（2008-2010年）
8. レフェリー：流通研究ほか

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本商業学会・論文賞（2001年5月）
2. 日本商業学会・優秀賞（1995年5月）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 吉田秀雄記念事業財団研究助成金（1999年）
2. 文部省科学研究費：基盤研究(B)(2)「営業活動のプロセス革新に基づく競争優位の基盤構築に関する研究」
(他2件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of California, Berkeley, 1994-1995

【8】 国際学会における発表状況(過去3年間)

1. “CrossFunctional Communication Behaviors in Japanese Industrial Company : The Moderating Role of Alternatives,” 2012 Global Marketing Conference at Seoul, COEX, Seoul, Korea, July 20 2012, (with Eunji Seo).
(他1件)

【9】 現在の研究活動

1. 生産財マーケティングに関する研究
2. 営業活動および営業戦略に関する研究
3. 小売企業行動に関する研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 文部科学省大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員（2006-2008年度）
2. 豊中市産業振興懇話会委員（1997-2000年）

8. 水谷 文俊

職名 教授

学位 Ph.D. (ハーバード大学) (1993 年)

生年 1957 年

学歴

1981 年 3 月 京都大学工学部卒業

1983 年 3 月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

1993 年 11 月 ハーバード大学大学院博士課程修了

職歴

1983 年 4 月 清水建設 (株), エンジニア

1988 年 4 月 社団法人海外コンサルティング企業協会, プロジェクト・エンジニア

1994 年 4 月 (株)ポリテクニクコンサルタンツ, 副主任研究員

1994 年 8 月 神戸大学経営学部助教授

1999 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2000 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015 年度)

学 部 研究指導, 企業政府関係, 経営学入門

大学院 (一般) 演習, 市場経済分析特論,
企業政府関係研究

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) 現代経営学応用研究 (公益事業経営)

学内役職

神戸大学理事・総括副学長 (2015 年 4 月-現在), 経営学研究科長兼経営学部長 (2012 年 4 月-2014 年 3 月), 神戸大学評議員 (2010 年 4 月-2012 年 3 月), 経営学研究科マネジメント・システム専攻長 (2003 年 4 月-2004 年 3 月, 2005 年 4 月-2006 年 3 月)

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「電力事業における発送電分離」, 『国民経済雑誌』, 第 207 巻, 第 3 号, 2013 年, 15-27.
2. 「私鉄経営とビジネスシステム」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第 56 巻, 第 1 号, 2008 年, 34-45.
(他学術論文 21 編, 解説・書評等 10 編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Regulatory Reform of Public Utilities: The Japanese Experience*, Edward Elgar, 2012.
2. *Japanese Urban Railways: A Private-Public Comparison*, Avebury, 1994.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Comparing the Costs of Vertical Separation, Integration, and Intermediate Organisational Structures in European and East Asian Railways, *Journal of Transport Economics and Policy*, Vol.49, No.3, 2015, 496 -515, (with A. Smith, C. Nash and S. Uranishi).
2. Estimation of Optimal Metropolitan Size in Japan with Consideration of Social Costs, *Empirical Economics*, Vol.48, No.4, 2015, 1713-1730, (with T. Tanaka and N. Nakayama).
3. Structural Reforms in the Railways: Incentive Misalignment and Cost Implications, *Research in Transportation Economics*, Vol.48, 2014, 16-22, (with C. Nash, A. Smith, D. van de Velde, and S. Uranishi).
4. How Does Market Size Affect Vertical Structure When Considering Vertical Coordination? Application to the Railway Industry, *Pacific Economic Review*, Vol.19, No.5, 2014, 657-676, (with N. Matsushima).
5. Managerial Incentive, Organizational Slack, and Performance: Empirical Analysis of Japanese Firms' Behavior, *Journal of Management and Governance*, Vol. 18, No.1, 2014, 245-284, (with E. Nakamura).

6. Does Vertical Separation Reduce Cost? An Empirical Analysis of the Rail Industry in European and East Asian OECD Countries, *Journal of Regulatory Economics*, Vol.43, No.1, 2013, 31- 59, (with S. Uranishi).
7. Estimation of Social Costs of Transportation in Japan, *Urban Studies*, Vol.48, No.16, 2011, 3537-3559, (coauthored with Y. Suzuki, H. Sakai).
8. Determinants of Privatization of Public Corporations: Evidence from the Japanese Experience, *Empirical Economics*, Vol.39, No.2, 2010, 515-535, (with S. Uranishi).
9. Productivity Effects and Determinants of Public Infrastructure Investment, *The Annals of Regional Science*, Vol.44, No.3, 2010, 493-521, (with T. Tanaka).
10. Does Yardstick Regulation Really Work? Empirical Evidence from Japan's Rail Industry, *Journal of Regulatory Economics*, Vol.36, No.3, 2009, 308- 323, (with H. Kozumi, N. Matsushima).

(他学術論文 14 編)

3. その他海外論文

1. Railways Branch Out, *Metro Report International*, 2015, June, 3-5.
2. Regulation and Deregulation in the Japanese Rail Industry, *CESifo DICE Report: Journal for Institutional Comparisons*, Vol.3, No.4, 2005, 10-15.
3. The Japanese Experience with Railway Restructuring, in T. Ito and A. O. Krueger (eds.), *Governance, Regulation and Privatization*, The University of Chicago Press, 2004, 305-336, (with K. Nakamura).

(他学術論文 9 編)

【3】 主要所属学会

1. 公益事業学会, 日本交通学会, World Conference on Transport Research Society, Regional Science Association International 等

【4】 学会における活動

1. レフェリー: *Journal of Regulatory Economics*, *Pacific Economic Review*, *Journal of Management and Governance*, *Journal of Transport Economics and Policy*, *International Journal of Industrial Or*

ganization, Environment and Planning-C, *Papers in Regional Science*, *Journal of the Japanese and International Economies*, *Transport Policy*, *Annals of Regional Science*, *Transport Reviews* 等

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Public Transport Prize (World Conference on Transport Research Society) (1998)
2. 日本交通学会賞 (1996 年)
3. 公益事業学会賞 (1995 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤(C), 「アンバンドリングの費用と需要に与える影響の計量経済分析」, 2014-2016 年度, (等他 5 件, その他 2 件.)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Research Associate: Regulatory Policy Research Center, Oxford and Transport Studies Unit of the University of Oxford, 1997-1998

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Conference on Corporate Governance in Network Industry, Vienna University of Economics and Business: Vienna, Austria, October 2013, 等他 2 件

【9】 現在の研究活動

1. 組織の構造分離に関する実証研究
2. 規制の決定要因と規制の影響に関する分析, 等

【10】 社会活動・実務経験

審議会・委員会等

1. 阪神水道企業団経営懇談会委員 (2008 年-現在) 等

実務経験・プロジェクト

1. Rail Unbundling Study Research Project by CER (Community of European Railway and Infrastructure Companies) (2012 年)への参加, 等

9. 國部 克彦

職名 教授

学位 博士（経営学）（大阪市立大学）（1993年）

生年 1962年

学歴

1985年3月 大阪市立大学商学部卒業

1987年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科前期博士課程修了

1990年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程単位修得退学

職歴

1990年4月 大阪市立大学商学部助手

1991年10月 大阪市立大学商学部講師

1993年10月 大阪市立大学商学部助教授

1995年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2001年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導，社会環境会計，環境学入門

大学院（一般）演習

大学院（GMAP/SESAMI）Project Research

大学院（MBA）現代経営学応用研究（環境経営）

学内役職

1. 経営学研究科長・経営学部長（2014年4月-2016年3月）

2. 経営学研究科評議員（2012年4月-2014年3月）

3. 経営学研究科会計システム専攻長（2008年4月-2009年3月）

4. 環境管理センター・環境教育研究支援部門長（2008年4月-2014年-3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『低炭素型サプライチェーン経営』（共編著），中央経済社，2015年。
- 『社会環境情報ディスクリージャーの展開』（編著），中央経済社，2013年。
- 『環境経営・会計（第二版）』（共著），有斐閣，2012年。
- 『環境経営意思決定を支援する会計システム』（編著）中央経済社，2011年。
- 『環境経営イノベーションの理論と実践』（共著），中央経済社，2010年。
- 『マテリアルフローコスト会計（第二版）』（共著），日本経済新聞出版社，2008年。
- 『実践マテリアルフローコスト会計』，産業環境管理協会（編著），2008年。
- 『環境経営のイノベーション』（共編著），生産性出版，2006年。
- 『環境会計の新しい展開』（共編著），白桃書房，2005年。
- 『環境会計（改訂増補版）』，新世社，2000年。
- 『社会と環境の会計学』，中央経済社，1999年。
- 『アメリカ経営分析発達史』，白桃書房，1994年。（他，共・編著14冊，共訳書4冊，監修書3冊）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「計算活動と経済実践」、『日本情報経営学会誌』，第33巻4号，2013年，4-18。（他，学術論文 15編）

3. その他国内論文

- 「複数評価原理の会計学と公共性」、『會計』，第187巻第2号，2015年，169-180。（他，学術論文 190編）

【2】 海外出版

1. 著書

- 『環境経営・会計』（中国語），2014年。
- 『マテリアルフローコスト会計』（韓国語），2006年。
- 『環境会計』（韓国語），2001年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Material flow cost accounting and existing

management perspectives,” *Journal of Cleaner Production*, 2015.

2. Factors Influencing Corporate Environmental Protection Activities for Greenhouse Gas Emission Reductions, *Environmental and Resource Economics*, Vol.53, No.4, 2012, 455-481.
3. Why does the reduction of greenhouse gas emissions enhance firm value? *Business Strategy and the Environment*, 2012, 21-8. (他, 学術論文 20 編)

【3】 その他海外論文

1. Material flow cost accounting with ISO 14051, *ISO Management Systems*, 2009, 15-18, (coauthored with Kos, M. S.C., Furukawa, Y., Tachikawa, H).

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 環境経済・政策学会
3. 日本社会関連会計学会
4. 日本原価計算研究学会
5. 環境経営学会

【4】 学会における活動

1. 理事：日本社会関連会計学会（1998年-現在）、環境経営学会（2001年-現在）、環境経済・政策学会（2008年-2013年）、日本原価計算研究学会（2010年-現在）
2. Advisory Board Member: Accounting, Auditing and Accountability Journal, Australian Accounting Review, Sustainability Accounting, Management and Policy Journal, Qualitative Research in Accounting and Management, Japanese Accounting Review, 社会関連会計研究, 会計プロGRESS, 原価計算研究
3. レフェリー：Journal of Cleaner Production 他多数

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Best Paper Awards of 10th Northeast Asia Management and Economics Joint Conference（2011年）
2. 環境経営学会特別貢献賞（2010年）
3. 中国環境科学学会優秀論文賞（2006年）
4. 日本原価計算研究学会・学会賞・著書（2003年）
5. 日本原価計算研究学会・学会賞・論文（2000年）
6. 日本公認会計士協会・学術賞（2000年）

7. 「環境管理」優秀論文賞（2000年）
8. 経営哲学学会・研究奨励賞（1998年）
9. 日本会計史学会・学会賞（1995年）

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

1. 環境省環境研究総合推進費「アジア地域を含む低炭素型サプライチェーンの構築と制度化に関する研究」（2011-2013年度）
2. 科学研究費補助金：基盤研究(A)「環境経営意思決定を支援する環境会計システム」（2009-2011年度）
3. 科学研究費補助金：基盤研究(B)「サステナビリティ経営を支援する会計システムとその国際的普及に関する総合的研究」（2012-2015年度）
(他 12 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: London School of Economics, (2005 and 1994)
2. Visiting Researcher: University of Adelaide (2001-2002)
3. 北京理工大学珠海学院客座教授（2012年-現在）

【8】 国際学会での発表（過去3年間）

1. Green Supply Chain Management and CO2 Emissions Performance in Japanese Manufacturing Firms, 7th APIRA conference, Kobe July 2013.
(他 10 件)

【9】 現在の研究活動

1. 社会環境会計と公共性の研究
2. 計算実践と民主主義の民主化の研究
3. マテリアルフローコスト会計の開発・普及研究
4. グリーンサプライチェーンの構築と制度化研究

【10】 社会活動・実務経験

1. ISO/TC207/WG8(MFCA)議長（2009年-現在）
2. 経済産業省委託・サプライチェーン省資源化促進連携事業評価委員会委員長（2008-2010年）
3. 日本MFCAフォーラム会長（2009年-現在）
4. 株式会社環境管理会計研究所取締役(2003年-現在)
(他多数)

ふじわらけんや
10. 藤原 賢哉

職名 教授

学位 経済学博士（神戸大学）（1990年）

生年 1961年

学歴

1984年3月 関西学院大学経済学部卒業
1986年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了
1990年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1990年8月 広島大学経済学部講師
1993年8月 広島大学経済学部助教授
1996年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2003年2月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 金融システム，研究指導
大学院（一般）ファイナンス特殊研究（金融シ
ステム），演習
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）現代経営学応用研究（金融市場と組
織の効率性），現代経営学演習，

学内役職

経営学研究科市場科学専攻長（2007年4月-2009年
3月）
入試・学生委員（2012年4月-2013年3月）
評議員（2014年4月-2016年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『金融制度と組織の経済分析-不良債権問題とポ
ストバブルの金融システム』，中央経済社，2006

年。

2. 『金融システム論』，有斐閣，2005年，（田中
敦ほかと共著）。
3. 『金融論入門』，中央経済社，2002年，（家森信
善と共編著）。（他1編）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「金融機関への役員派遣について」，『金融経済研
究』，第13・14号，1997年，70-85，（家森信善
と共著）。
2. 「M&Aからみたメインバンクの機能について-
日本的M&Aメカニズムの特徴と評価-」，『経済
学論集』，第62巻，第3号，東京大学，1996年，
43-62。
3. 「企業倒産とメインバンク制-メインバンクの
救済機能について-」，『金融経済研究』，第4号，
1993年，37-48。

3. その他国内論文

1. 「シンジケート・ローンの組成と株価に関する研
究」，『国民経済雑誌』，2014年，31-44。
2. 「金融危機と証券化-シンジケート・ローンと信
用循環」，『国民経済雑誌』，2012年，73-88。
3. 「本邦シンジケート・ローン市場の現状につい
て」，『国民経済雑誌』，2010年，51-78。
4. 「倒産法制の経済分析-破綻処理効率性に関す
る展望と検証」，斎藤彰編『市場と適応』，法律文
化社，2007年，228-257。
5. 「金融仲介機関」，『金融経済学ハンドブック』，
丸善，2006年，459-602，（丸茂俊彦と共訳）。
6. 「企業の破綻処理と公的金融機関-政府系金融
機関はソフト・バジェットカー」，『フィナンシ
ャル・レビュー』，第79号，2005年，52-78。
7. 「債務免除と企業再生」，『証券アナリストジャ
ーナル』，第43巻，2005年，34-44，（砂川伸
幸他と共著）。
8. 「日本銀行政策決定会合と金融政策の効率性」，
『国民経済雑誌』，第190巻，第6号，2004年，
67-92。
9. 「インデックス型投資信託と金融市場の効率性」，
齊藤誠編著，『日本の金融再生戦略』，中央経済社，
2002年，167-195。
10. 「伝統的金融システムからの脱却」，『エコノミク
ス5』，東洋経済新報社，2001年，162-172，（家
森信善と共著）。

(他学術論文 37 編, 解説・書評 3 編, 辞典 3 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Addition to the Nikkei 225 Index and Japanese Market Response: Temporary Demand Effect of Index-arbitrageurs, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.14, No.4, 2006, 395-409, (with Okada, K., Isagawa, N.).
2. Why do Japanese Banks get involved in the Bad Loan Problem: An Investigation of Bank Organization and Lending Behavior, *Finance India*, 14, 2005, 871-886.

3. その他海外論文

1. Corporate Debt Restructuring and Public Institutions in Japan: Do government-Affiliated Financial Institutions Soften Budget Constraints?, *Public Policy Review*, Vol.2, No.1, 2006, 141-176.
2. Does the Japanese Closed-End Fund Puzzle Exist? : An Empirical Study of the Efficiency of the Financial Market in Japan, *International Journal of Business*, Vol.11, No.1, 2006, 33-45.

【3】 主要所属学会

1. 日本金融学会
2. 日本経済学会
3. American Economic Association
4. 金融法学会
5. 消費者金融サービス研究学会
6. 生活経済学会
7. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. 理事: 金融学会 (2006 年-2013 年)
2. 編集委員: 金融経済研究 (2001 年-2007 年)
3. レフェリー: *Asian Economic Review*, *International Journal of Business*, 金融経済研究, *Journal of the*

Japanese and International Economics, 生活経済学研究, ビジネス・インサイト, 国民経済雑誌, 日本経営学会誌, 現代ファイナンス

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 金融ジャーナル賞優秀論文賞 (2001 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 石井記念証券振興財団, 2014 年度
2. 文部省科学研究費: 基盤研究 (B), 「市場型間接金融とリスクの市場化: 銀行・保険・企業金融の統合アプローチ」, 2010-2013 年度
3. 全国銀行学術研究振興財団, 2011 年度
(他 3 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Fellow: Macquarie University, 2003.
2. Visiting Fellow: University of Southern California, 2003.
3. Visiting Scholar: Korean Institute for International Economic Policy, 2006.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. シンジケートローンに関する研究 (企業・銀行間関係, 信用循環, アナウンスメント, 破たん処理)
2. 少子高齢化が日本の金融システムに及ぼす影響
3. 金融における技術革新の研究(クラウドファンディング, 決済技術の高度化, 仮想通貨)

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本生命保険相互会社総代選考委員 (2015.7-)
2. 兵庫県資金管理委員会委員 (2007 年-現在)
3. 日本生命保険相互会社総代 (2005.4-2013.3)
4. 金融庁金融審議会「金融機関に対する公的資金制度のあり方について」WG 委員 (2003 年)
5. 金融庁金融審議会「金融の基本問題に関するスタディー・グループ」委員 (2000-2001 年)
など

おがわ すすむ
11. 小川 進

職名 教授

学位 Ph.D. (マサチューセッツ工科大学) (1998 年)
博士 (商学) (神戸大学) (2000 年)

生年 1964 年

学歴

1987 年 3 月 神戸大学経営学部卒業
1989 年 3 月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1989 年 4 月 神戸大学経営学部助手
1992 年 4 月 神戸大学経営学部講師
1994 年 8 月 神戸大学経営学部助教授
1999 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2003 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015 年度)

学 部 流通システム, 研究指導
大学院 (一般) 演習
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) マーケティング応用研究

学内役職

1. 経営学研究科市場科学専攻長 (2005 年 4 月-2007 年 3 月)
2. 専門職大学院教務委員 (2009 年 4 月-2010 年 3 月)
3. 副研究科長 (2014 年 3 月-2015 年 3 月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『ユーザーイノベーション 消費者から始まるものづくりの未来』, 東洋経済新報社, 2013 年.
2. 『カルビー戦略史』, 株式会社カルビー社史, 2008 年, (松尾雅彦と共著).
3. 『競争的共創論』, 白桃書房, 2006 年.

4. 『ドクターオガワに会いにいこう』, 千倉書房, 2005 年.
5. 『稼ぐ仕組み』, 日本経済新聞社, 2003 年.
6. 『ダイヤモンド・チェーン経営』, 日本経済新聞社, 2000 年.
7. 『イノベーションの発生論理』, 千倉書房, 2000 年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「ユビキタス社会における製品開発:ユーザー起動手と開発成果」, 『流通研究』, 第 8 巻第 3 号, 2006 年, 49-64.
2. 複線型開発, 『流通研究』, 第 8 巻, 第 1 号, 2005 年, 1-16.
3. コンビニエンス・ストアにおけるシステム優位, 『流通研究』, 第 7 巻, 第 2 号, 2004 年, 1-17.
4. 顧客との対話モードと新製品開発成果, 『一橋ビジネス・レビュー』, Vol. 44, No. 4, 1997 年, 55-70.
5. 「イノベーションと情報の粘着性」, 『組織科学』, 第 30 巻, 第 4 号, 1997 年, 60-71.

3. その他国内論文

1. 「携帯ウォーズ」, 『プレジデント』, 6 月 30 日号, 2008 年, 128-135.
2. 「ユーザー起動手とブランド・コミュニティ」, 『組織科学』, 第 39 巻, 第 3 号, 2006 年, 27-39.
3. 「セブナーイレブンの事業システム」, 『国民経済雑誌』, 第 191 巻, 第 6 号, 2005 年, 87-97.
4. 「ユーザー起動手型ビジネスモデル」, 『国民経済雑誌』, 第 185 巻, 第 5 号, 2002 年, 65-76.
5. 「流通システムの新しい担い手:ユーザー起動手型ビジネスモデル」, 『組織科学』, 第 35 巻, 第 4 号, 2002 年, 20-31.
6. 「エンジン-tanomi.com (たのみこむ)」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第 50 巻, 第 2 号, 2002 年, 179-189.
7. 「フルセット型流通革新モデル」, 『ビジネスレビュー』, 第 49 巻, 第 2 号, 2001 年, 45-57.
8. 「ユーザー起点のイノベーション:ユーザーのニーズ・プッシュとテクノロジー・プル」, 『ビジネス・インサイト』, 第 7 巻, 第 1 号, 1999 年, 78-100.
9. Previous Studies on the Locus of Innovation and Its Determinants: Literature Review, *The Annals of the Graduate School of Business Administration*, Kobe University, No43, 1999, 49-69.

10. 「エスノマーケティング」, 石井淳蔵・石原武政 編著, 『マーケティング・ダイナミズム』, 白桃書房, 1996年, 3-28.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “User-Generated versus designer-generated products: A performance assessment at Muji, ” *International Journal of Research in Marketing*, 2013, Vol. 30, Issue 2, pp.160-167. (with Hidehiko Nishikawa, Martin Schreier)
2. The Age of the Consumer-Innovator, *MIT Sloan Management Review*, 2011, Vol.53, Issue.1, 27-35, (with Eric von Hippel, Jeroen P.J. De Jong).
3. Reducing the Risks of New Product Development, *MIT Sloan Management Review*, Vol. 47, No. 2. 2006, 65-71. (with Frank T. Piller)
4. The Hypothesis-Testing Ordering System: A new Competitive Weapon of the Japanese Convenience Stores in a New Digital Era, *Industrial Relations*, Vol.41, No.4, 2002, 579-604.
5. Does Sticky Information Affect the Locus of Innovation: Evidence from the Japanese Convenience-Store Industry, *Research Policy*, Vol.26, 1998, 777-790.

3. その他海外論文

1. Qualifying User Innovation in Consumer Goods: Case study of CUUSOO.COM, Japan, *Kundenorientierte Unternehmensführung*, 2008, 531-554, (with Kohei Nishiyama).
2. Innovations of Store Ordering Systems in Japan, in M.R. Czinkota & M. Kotabe (eds.), *Japanese Distribution Strategy*, Business Press, 2000, 263-279.

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 組織学会

【4】 学会における活動

1. 雑誌編集員：組織科学（2006年, 2008年, 2010年-現在）
2. レフェリー：組織学会, 商業学会, Research Policy

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 組織学会高宮賞（2001年）
2. 日本商業学会学会賞（奨励賞）（2001年）
3. 第17回電気通信普及財団賞（テレコム社会科学賞）
4. 吉田秀雄賞（准吉田秀雄賞）（2012年）
5. 高橋亀吉賞（優秀賞）（2012年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

1. MIT 等でのユーザー・イノベーション研究に関するワークショップへの参加・発表（2005年, 2007年, 2009-2015年）
2. Visiting Scholar: Sloan School of Management, Massachusetts Institute of Technology, USA, 1994-1998, 2011-2012

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. ユーザーの革新活動
2. ビジネス・モデル研究：イノベーターの分布とその説明要因について、アメリカ・ヨーロッパ・オーストラリアの研究者と共同研究をしている。マーケティングと研究開発の両分野への貢献を目指している。

【10】 社会活動・実務経験

なし

12. 黄 磷

職名 教授

学位 商学博士（神戸大学）（1990年）

生年 1962年

学歴

1985年3月 神戸大学経営学部卒業

1987年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

1990年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

1990年4月 神戸大学経済経営研究所助手

1992年4月 小樽商科大学商学部助教授

1995年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導，経営学入門，トップマネジメント講座

大学院（一般）演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学応用研究（国際経営），現代経営学応用研究（マーケティング），現代経営学演習

学内役職

教育研究協議会 評議会（2010年4月-2012年3月）

専門職大学院教務委員（2014年4月-2015年3月）

現代経営学専攻長（2015年4月-現在）

神戸大学中国事務所所長（2015年4月-現在）

神戸大学アジア総合学術センター副センター長（2015年4月-現在）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『人生を変える MBA』有斐閣，2015年，（編著）。
- 『日中関係史 1972-2012』東京大学出版会，2012年，（服部健治，丸川知雄 と共著）。
- 『小売業革新』，千倉書房，2010年，（高嶋克義，西村順二と共著）。
- 『構造転換期の中国経済』，世界思想社，2010年，（佐々木信彰と共著）。
- 『小売企業の国際展開』，中央経済社，2009年，（向山雅夫，崔相鐵と共著）。
- 『中国・ASEAN 経済関係の新展開』，アジア経済研究所，2006年，（大西康雄と共著）。
- 『新興市場戦略論』，千倉書房，2003年。
- 『WTO 加盟後の中国市場』，蒼蒼社，2002年，（編著）。
- 『流通空間構造の動態分析』，千倉書房，1992年。（他共著等8冊）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「後発企業の国際 M&A 戦略 レノボ・グループによる IBM の PC 事業部門の買収」，『多国籍企業研究』，2011年，第4号，11-31，（範超と共著）。
- 「中国企業のビジネスシステムと競争力」，『中国経営管理研究』，第8号，2009年，3-22。
- 「日本の小売企業の競争力」，『一橋ビジネスレビュー』，56巻1号，2008年，62-75，（李東浩と共著）。
- 「海爾の市場連鎖を通じた BPR」，『中国経営管理研究』，第3号，2003年，86-119。
- 「海外市場参入の理論展開」，『流通研究』，第2巻，第1号，1999年，31-41。（他3編）

3. その他国内論文

- 「中国経済の内需主導型成長への転換と中国消費者のブランド選択」，『神戸大学国際学術セミナー報告書』，2014年，pp.1-55，（編著）。
- 「日本企業のグローバル競争力の再考」，『国民経済雑誌』2013年，第207巻5号，1-20頁。
- 「ヨーロッパ市場における日中企業の戦略」，『東亜経済研究』，2013年，pp.29-40。
- 「グローバル・サプライ・チェーン・ネットワークの戦略とマネジメント」，『国民経済雑誌』2011年，第203巻4号，31-41。（他学術論文48編，解説・書評等12編）

【2】 海外出版

1. 著書

1. 『「阪神大震災」的教訓与「創造性復興」』, 中国民主法制出版社, 2009年, (王柯と共編著).
2. *Greater China in the Global Market*, The Haworth Press, 2000, (with Yigang Pan).
3. 『日本流通領域の全面革新』, 遠東出版社, 1998年.
4. 『現代日本市場経済』, 湖南出版社, 1996年, (編著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. How consumer characteristics moderate time effects on online purchase preference: an empirical analysis", (with Li, Zhen), *Asia Marketing Journal*, 16(3), 1-22, 2014.
2. Competition Based on Marketing Resources China Information, *China Information*, Vol. XXIII, No. 1, March 2009, 129-157.
3. Choice of Market Entry Mode in Emerging Markets: Influences of Entry Strategy in China, *Journal of Global Marketing*, International Business Press, 2000, 83-109.
4. 「現代日本の市場競争機制」, 『経済学動態』(中国語), 1995年, 56-61.

3. その他海外論文

1. Global Marketing Innovation, *Marketing: Tasks and Perspectives*, Kyungpook National University Press, 1997, 603-625. (他学術論文4編)

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 中国経済経営学会
3. 国際ビジネス研究学会
4. アジア政経学会

【4】 学会における活動

1. 幹事: 日本商業学会 (1998年-現在), 国際ビジネス研究学会 (2007-2009年度)
2. レフェリー: *Journal of the Asia Pacific Economy*
3. 学会賞審査委員: 日本商業学会 (2013年-現在), 国際ビジネス研究学会 (2002年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本商業学会 学会賞 (2003年)
2. 国際ビジネス研究学会 学会賞 (2003年)
3. 日本商業学会・奨励賞(1993年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(B), 「日本企業の海外事業の競争力と経営業績に関する総合的な実証研究」, 2010-2013年度.
2. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(A)(1), 「グローバル・ネットワーク型企業における競争基盤と資源展開に関する実証研究」, 2004-2006年度.
3. 文部省科学研究費: 奨励研究(A), 「新興市場における多国籍企業の市場行動に関する研究」, 2000-2001年度. (他2件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Harvard Business School, Boston, USA, 2013年7-8月
2. Visiting Professor: 北京大学光華管理学院, 北京, 中国, 2013年10-11月 (他3件)

【8】 国際学会での発表状況

1. Consumption Trends in Asian Markets, 2014 ICAMA, Sogang University, Seoul, Korea, March.
2. 第四回サービス業発展フォーラム, 浙江樹人大学, 中国, 2014年11月. (他12件)

【9】 現在の研究活動

1. グローバル・マーケティング,
2. 流通システムのダイナミズム
3. 中国経済の市場化

【10】 社会活動・実務経験

1. 公益財団法人 孫中山記念会理事(2012年-現在)
2. 海外協力事業団(JICA)中国国別貿易・投資促進コース 研修指導者(2005年-2013年)
3. 大阪府・アジアの中核都市・大阪ビジョン策定に係る有識者懇談会 委員(2005年度)
4. 関西競争力会議 委員(2002年度) (他多数)

まつおひろふみ
13. 松尾 博文

職名 教授

学位 Ph.D. (マサチューセッツ工科大学) (1984年)

生年 1954年

学歴

1977年3月 京都大学工学部数理工学科卒業
1979年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程数理工学専攻修了
1984年5月 マサチューセッツ工科大学大学院経営研究科博士課程修了

職歴

1984年9月 テキサス大学オースティン校ビジネススクール経営学科助教授
1989年9月 テキサス大学オースティン校ビジネススクール経営学科准教授
1993年1月 ペンシルバニア大学ウォートンスクールオペレーション・情報経営学科客員准教授 (兼任, 1994年8月まで)
1995年9月 テキサス大学オースティン校ビジネススクール経営学科教授
1997年9月 テキサス大学オースティン校ビジネススクール経営学科 Fred H. Moore Centennial Professorship
1999年6月 筑波大学社会工学系教授
2004年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 研究指導, 経営学入門, SCM
大学院 (一般) 演習
大学院 (GMAP/SESAMI) Advanced Supply Chain Management, Service Management and Servicizing
大学院 (MBA) オペレーションズマネジメント応用研究, テーマプロジェクト研究

学内役職

Director, SESAMI Program (2012年-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The Effect of Retailer's Risk Aversion on Supply Chain Performance under a Wholesale Price Contract, 『The Journal of Japanese Operations Management and Strategy』, Vol. 3, No. 1, 2012, pp. 1-17, (大村鍾太との共著). (他5編)

3. その他国内論文

1. 「SCMにおけるシステムの階層的視点」, 『システム/制御/情報』, Vol. 52, No.6, 2008年, pp. 200-206. (他論文8編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Manufacturing Fundamentals: Necessity and Sufficiency, Proceedings of the Third World Conference on Production and Operations Management*, 2008, 2739 pages (co-edited). (他2編)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Implications of the Tohoku Earthquake for Toyota's Coordination Mechanism: Supply Chain Disruption of Automotive Semiconductors, 『*International Journal of Production Economics*』, 2015, Vol. 161, pp. 217-227.
2. Horizontal Coordinating Contracts in the Semiconductor Industry, 『*European Journal of Operational Research*』, 2014, Vol. 237, pp. 887-897, (with X. Wu, P. Kouvelis, H. Sano).
3. Horizontal Capacity Coordination for Risk Management and Flexibility: Pay ex ante or Commit a Fraction of ex post Demand? 『*Manufacturing & Service Operations Management*』, 2013, Vol. 15, No. 3, pp. 458-472, (with X. Wu, P. Kouvelis).
4. Measuring Changes in Quality Management: An

Empirical Analysis of Japanese Manufacturing Companies, *Total Quality Management and Business Excellence*, 2009, Vol. 20, No. 12, pp. 1337-1374, (with R. Arauz and H. Suzuki).

5. Flexibility, Adaptability, and Efficiency in Manufacturing Systems, *Production and Operations Management*, Vol. 8, No. 2, 1999, pp. 133-150, (with S. K. Bordoloi, W. W. Cooper).
6. Forecasting and Inventory Management of Short Life Cycle Products, *Operations Research*, Vol. 44, No.1, 1996, pp. 131-150, (with A. A. Kurawarwala).
7. Production Planning of Style Goods with High Setup Costs and Forecast Revisions, *Operations Research*, Vol. 34, No. 2, 1986, pp. 226-236, (with G. R. Bitran and E. A. Haas). (他 39 編)

3. その他海外論文

1. Operations Planning in the Presence of Innovation Diffusion Dynamics, in V. Mahajan et al (eds.), *New-Product Diffusion Models*, Kluwer Academic Publishers, 2000, pp. 237-259, (with M.A. Cohen and T.H. Ho). (他 21 編)

【3】 主要所属学会

1. オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会
2. Production and Operations Management Society
3. Institute for Operations Research and the Management Sciences

【4】 学会における活動

1. 編集委員長：オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌（2010年-現在）
2. 会長：オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会（2012年-2013年）
3. Regional Vice President Australasia: POMS (2004-2007)
4. Conferencel Chair: The Tenth Supply Chain Thought Leaders Roundtable (June 2007)
5. Department Editor: International Commerce Review, (2007-2011)
6. Associate Editor, Management Science (1989-1995), Operations Research (1986-1995)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. The Jose A. D. Machuca P&OM World Conference Highly Commended Award, 2012
2. The Best Article in 2009 published in *Total Quality Management & Business Excellence*

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「サプライチェーンにおける企業連携の構造特性分析」, 2013-2016年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Industrial Excellence Award, German Team Ad-hoc Judge, 2014-present.
2. Visiting Scholar, EBS University, March-May, 2015
3. Visiting Professor, Operations Research Center, MIT, January-June, 1998.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Implications of the Tohoku Earthquake for the Supply Chain Coordination Mechanism of Toyota Production System, Third International Symposium on Operations Management and Strategy, June 2013. (他 4 件)

【9】 現在の研究活動

1. 製造業のサービサイジングの研究
2. 製造業における企業連携等を用いた最適なキャッシュネットワークの構築についての研究
3. グローバル・サプライチェーン戦略のベンチマーキング
4. 需要予測, 在庫管理, 生産計画の研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤嘱託社員, アドバイザー: ルネサステクノロジ (2003年-現在), 日立製作所 (2000年-2005年), 全日空 (2004年-2006年) 他
2. テキサス大学では, IBM, Dell, Motorola, AMD, Applied Materials, HP, Frito-Lay 等とサプライチェーンマネジメントと工場管理についてのコンサルティング或いは共同研究に従事

みしなかずひろ
14. 三品 和広

職名 教授

学位 Ph.D. (ハーバード大学) (1989年)

生年 1959年

学歴

1982年3月 一橋大学商学部卒業

1984年3月 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了

1989年9月 ハーバード大学ビジネスエコノミック
ス博士課程修了

職歴

1989年9月 ハーバード大学ビジネススクール助教授

1995年10月 北陸先端科学技術大学院大学先端科学
技術研究調査センター助教授

1997年4月 北陸先端科学技術大学院大学知識科学
研究科助教授

2002年10月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2004年10月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 経営戦略, 研究指導

大学院 (一般) 演習

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) ゼネラルマネジメント応用研究,
ケースプロジェクト研究

学内役職

経営学研究科マネジメント・システム専攻長 (2006
年4月-2008年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『経営戦略の実戦1:高収益事業の創り方』, 東洋
経済新報社, 2015年.
- 『リ・インベンション』, 東洋経済新報社, 2013年.
- 『どうする?日本企業』, 東洋経済新報社, 2011年.

- 『総合スーパーの興亡』, 東洋経済新報社, 2011年.
- 『戦略暴走』, 東洋経済新報社, 2010年.
- 『戦略不全の因果』, 東洋経済新報社, 2007年.
- 『経営戦略を問いなおす』, ちくま新書, 2006年.
- 『経営学のフィールド・リサーチ』, 日本経済新
聞社, 2006年, (小池和男他と共著).
- 『企業とガバナンス』, 有斐閣, 2005年, (伊丹
敬之他と共著).
- 『経営は十年にして成らず』, 東洋経済新報社,
2005年, (編著).
- 『戦略不全の論理』, 東洋経済新報社, 2004年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- Corporate Leaders in Japan: Fact and Folklore,
Japan Labor Review, 2013, Vol.10, No.1, 7-24, (with
Emiko Hino).
- 「創業経営者が戦略暴走するとき」, 『国民経済雑
誌』, 第205巻2号, 2012年, (日野恵美子と共
著).
- 「日本企業の経営者--神話と実像 (特集 日本の
雇用システムは変わったか?--受け手と担い手の
観点から)」, 『日本労働研究雑誌』, 第53巻第1
号, 2011年, (日野恵美子と共著).
- 「日本企業の組織研究:過去から未来へ」, 『組織
科学』, 2010年, 第44巻第1号, (武石彰, 椋山
泰生と共著).
- 「企業トップのバックグラウンド:日米台比較」,
『国民経済雑誌』, 第201巻3号, 2010年, 29-47,
(日野恵美子, 圃勝哉, 芦田晃人, 市成綾子, 王
百君と共著).
- 「役員階からの展望:時機読解の戦略論」, 『組織
科学』, 第42巻, 第3号, 2009年.
- 「見えざる利益」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第
56巻, 第1号, 2008年, 64-77.
- 「基本戦略と利益成長:日本企業1,013社の実証
分析」, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第3号, 2008
年, 13-23.
- 「日本企業の長期利益:1960-1999」, 『国民経済
雑誌』, 第193巻, 第5号, 2006年, 43-56.
- 「経営体制のライフサイクル」, 『組織科学』, 第
39巻, 第4号, 2006年, 27-42.
- 「専門経営者の帝王学」, 『一橋ビジネスレビュ

- 一』, 第 52 卷, 第 2 号, 2004 年, 64-77.
12. 「経営者を造り込む」, 『労政時報』, 第 3587 号-第 3592 号, 2003 年.
 13. 『ハーバードビジネススクールにおける FD』, IDE・現代の高等教育, 2003 年, 52-55.
 14. 「日本型企業モデルにおける戦略不全の構図」, 『組織科学』, 第 35 卷, 第 4 号, 2002 年, 8-19.
 15. 「企業戦略の不全症」, 『一橋ビジネスレビュー』, 第 50 卷, 第 1 号, 2002 年, 6-23.

(他学術論文 4 編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Learning by Doing: in Markets, Firms, and Countries*, The University of Chicago Press, 1999, (with Naomi R. Lamoreaux, Daniel M. G. Raff and Peter Temin).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. The Collaborative Mindset in Action, in www.impm.org, IMPM, 2002.
2. Beyond Flexibility: Toyota's Robust Process-Flow Architecture, in Yannick Lung, Lean-Jacques Chanaron, Takahiro Fujimoto, and Daniel Raff(eds.), *Coping with Variety: Flexible Productive Systems for Product Variety in the Auto Industry*, Ashgate, Hampshire, England, 1999, 149-180.
3. Making Toyota in America: Evidence from the Kentucky Transplant, 1986-1994, in Robert Boyer, Elsie Charron, Ulrich Jurgens, and Steven Tolliday (eds.), *Between Imitation and Innovation: the Transfer and Hybridization of Productive Models in the International Automobile Industry*, Oxford University Press, 1998, 99-127.
4. A Misguided Trajectory?: Automatically Guided Vehicles in Auto Assembly, in Koichi Shimokawa, Ulrich Jurgens, and Takahiro Fujimoto (eds.), *Transforming Automobile Assembly: Experience in Automation and Work Organization*, Springer, Berlin, 1997, 344-359. (他教材 16 編)

【3】 主要所属学会

1. 組織学会

【4】 学会における活動

1. 評議員：組織学会（2007-2011 年）
2. 編集委員：『組織科学』（2007-2011 年）
3. シニアエディター：『組織科学』（2006 年-現在）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 第 45 回エコノミスト賞（2005 年）
2. 第 21 回組織学会高宮賞（2005 年）
3. 第 5 回 BizTech 賞（2005 年）
4. ハーバード大学ビジネススクールプライズ賞（1988 年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「名専門経営者の識別に向けた基礎研究」, 2005-2006 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. ハーバード大学ビジネススクール助教授, 1989 年 9 月-1996 年 9 月
2. IMPM 日本モジュールディレクター, 2000 年-2004 年

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 収益率の主因に引き続き、いまは成長率と占有率を決める主因を研究しています。帰納的戦略を世界に先駆けて構築すると、日本は経営幹部教育で世界の最先端に躍り出ることになると信じています。

【10】 社会活動・実務経験

1. ニチレイ社外取締役（2012 年度-現在）
2. 不二製油社外取締役（2013 年度-現在）
3. 住友金属鉱山の補欠監査役（2015 年度-現在）

はら たくじ
15. 原 拓志

職名 教授

学位 Ph.D. (エディンバラ大学) (2001年)

生年 1962年

学歴

1985年3月 神戸大学経営学部卒業

1993年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1985年4月 東洋紡績(株)入社

1990年2月 東洋紡績(株)退社

1993年4月 神戸大学経営学部助手

1996年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2004年11月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学部 工業経営, 研究指導

大学院(一般) 経営制度特論, 定性的方法論研究,
演習, 工業経営研究

大学院(GMAP/SESAMI) なし

大学院(MBA) 現代経営学演習,
テクノロジーマネジメント応用研究

学内役職

大学院教務委員 (2010年4月-2011年3月)

経営学研究科経営学科長 (2012年4月-2013年3月)

大学院教務委員 (2013年4月-2014年3月)

経営学研究科経営学科長 (2015年4月-2016年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「技術の普及プロセスにおける再発明：技術の社会的形成アプローチによる検討」, 『日本経営学会誌』, 第33号, 2014年, 61-72. (宮尾学との共著)
2. 「研究アプローチとしての「技術の社会的形成」」, 『年報 科学・技術・社会』, 第16巻, 2007年, 37-57.
3. 「医薬品の社会的形成」, 『日本経営学会誌』, 第8号, 2002年, 66-76.
4. 「企業における技術の形成」, 『科学技術社会論研究』, 第4号, 2006年, 43-53.

3. その他国内論文

1. 「製薬企業の研究開発とその動向」, 『年報 科学・技術・社会』, 第24巻, 2015年, 5-12.
2. 「バイオクラスターの社会的形成：初期的考察」, 『国民経済雑誌』, 第209巻, 第2号, 2014年, 37-52.
3. 「技術システムの安全と組織理論」, 『国民経済雑誌』, 第201巻第3号, 2010年, 49-66.
4. 「日本企業の技術イノベーションー技術の社会的形成の視点からー」, 日本経営学会経営学論集, 第79集, 2009年, 5-16.
5. 「安全の社会的形成に関する予備的考察」, 『国民経済雑誌』, 第197巻, 第4号, 2008年, 31-44.
6. 「日本の製薬企業におけるイノベーション」, 日本経営学会経営学論集, 第77集, 2007年, 76-87.
7. 「バイオインフォマティクス時代の医薬品研究開発」, 『国民経済雑誌』, 第193巻, 第5号, 2006年, 57-72.
8. 「生命科学分野における日本の TLO」, 『国民経済雑誌』, 第190巻, 第4号, 2004年, 75-89.
9. 「イノベーションと『説得』ー医薬品の研究開発プロセス」, 『ビジネス・インサイト』, 第12巻, 第1号, 2004年, 20-33.
10. 「医薬品イノベーションの類型」, 『国民経済雑誌』, 第187巻, 第2号, 2003年, 85-103.

(他19編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008, (with Norio Kambayashi, Noboru Matsushima).
2. *Innovation in the Pharmaceutical Industry: The Process of Drug Discovery and Development*, Edward Elgar, 2003.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Innovation Management of Japanese Pharmaceutical Companies: the Case of an Antibiotic Developed by Takeda, *International Journal of Technology Management*, Vol.30, No.3/4, 2005, 351-364.

3. その他海外論文

1. Social Shaping of Nuclear Safety: Before and after the Disaster,” in Hindmarsh, R. ed. *Nuclear Disaster at Fukushima Daiichi: Social, Political and Environmental Issues*, Routledge, 2013, 22-40.
2. Technology Transfer in Pharmaceuticals: the Case of an Antibiotic in Japan, *Asia Pacific Tech Monitor*, Vol.22, No.6, 2005, 27-32.
3. Pharmaceutical Innovation: Too Important for the Private Sector? (Book Review), *Metascience*, Vol. 14, No. 1, 2005, 89-93.

【3】 主要所属学会

1. 日本経営学会
2. 組織学会
3. 日本ベンチャー学会
4. 企業家研究フォーラム
5. Academy of Management
6. Society for Social Studies of Science など

【4】 学会における活動

1. 理事：企業家研究フォーラム（2009年-現在）、日本経営学会（2010年-現在）、日本ベンチャー学会（2011年-現在）
2. 編集委員：日本経営学会誌（2006-2010年）、日本ベンチャー学会誌（2011年-現在）、組織科学（2011年-現在）
3. レフェリー：日本経営学会誌、組織科学、日本ベンチャー学会誌、日本情報経営学会誌など
4. 学会賞審査委員：日本経営学会（2008-2010年、2014年-現在）、日本ベンチャー学会（2009年-現在）、企業家研究フォーラム（2013年-現在）

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究(C)一般)「安全な製品を開発するための技術経営」, 2015-2019年度.
2. 日本学術振興会科学研究費補助金：基盤研究(C), 「技術システムの安全形成のための組織プロセスの研究」, 2010-2014年度.
3. 日本学術振興会科学研究費補助金：基盤研究(C), 「高度技術システムの安全確保のためのテクノロジーマネジメントの研究」, 2007-2009年度.
(他3件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Ph.D. Programme in Sociology: The University of Edinburgh, 1998-2001

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Limitation of High Reliability Organizations in Safety Management, the 12th World Congress of the International Federation of Scholarly Associations of Management (IFSAM), Meiji University, Japan, 3 September 2014.
2. Safety Management: Some Lessons from the Fukushima Disaster, the 11th World Congress of the International Federation of Scholarly Associations of Management (IFSAM), University of Limerick, Ireland, 28 June 2012.
3. Innovation in the Pharmaceutical Industry: The Process of Drug Discovery and Development, Yeditepe International Research Conference on Business Strategies 2012, Istanbul, Turkey, June 2012.

【9】 現在の研究活動

1. 技術安全の社会的形成に関わる研究.
2. バイオメディカル分野におけるイノベーションに関する研究.
3. イノベーションに関わる理論研究.

【10】 社会活動・実務経験

1. 兵庫地方最低賃金審議会委員（2009年-現在）
2. 非常勤講師：関西大学（2007年-現在）、甲南大学（2006-2007年、2011年-現在）

みなみ ち え こ
16. 南 知恵子

職名 教授

学位 博士（商学）（神戸大学）（1998年）

生年 1960年

学歴

1984年3月 神戸大学文学部卒業

1988年6月 米国ミシガン州立大学大学院コミュニケーション研究科修士課程修了

1992年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

1993年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程退学

職歴

1984年4月 神戸大学経済学部助手

1988年10月 大阪外国語大学留学生別科非常勤講師

1993年4月 横浜市立大学商学部専任講師

1994年4月 横浜市立大学助教授

2002年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2004年12月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導，顧客関係管理

大学院（一般）演習，サーベイリサーチ法応用研究，
マーケティング特殊研究（顧客価値）

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）マーケティング応用研究，
現代経営学演習

学内役職

SESAMI Vice-Director（2015年4月-現在）

現代経営学研究所理事（2013年4月-2015年3月）

経営学研究科市場科学専攻長（2011年4月-2012年3月）

専門職大学院教務委員（2010年4月-2011年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『サービス・イノベーション—顧客価値と新技術導入—』，有斐閣，2014年（西岡健一と共著）
- 『マーケティング』，有斐閣，2010年，（池尾恭一，青木幸弘，井上哲浩と共著）。
- 『顧客リレーションシップ戦略』，有斐閣，2006年。
- 『生産財マーケティング』，有斐閣，2006年，（高嶋克義と共著）。
- 『リレーションシップ・マーケティング—企業間における関係管理と資源移転—』，千倉書房，2005年。
- 『ギフト・マーケティング 儀礼的消費における象徴と互酬性』，千倉書房，1998年。

（他3編）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Value Creation in Reciprocal Process of Solutions, *The Journal of Japanese Operations Management and Strategy*, Vol.3, No.1, 2012, 74-90, (Kenichi Nishioka と共著) .
- 「ファッション・ビジネスの論理—ZARAに見るスピードの経済—」，『流通研究』，第6巻，第1号，2003年，31-42.

3. その他国内論文

- 「B to B マーケティングにおけるサービス志向アプローチの課題と可能性」，『国民経済雑誌』第205巻 第4号，2012年，（西岡健一，坂間十和子と共著）。（他17編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Information transparency in SME network relationships: evidence from a Japanese hosiery firm, *International Journal of Logistics: Research and Applications*, Vol. 15, No.6, 2012, 405-423, (with Kenichi Nishioka, John Dawson).

2. The New Role of Call Centres for Manufacturers, *The Marketing Review*, Vol.9, No.2, 2009, 115-126.
3. The CRM process in retail and service sector firms in Japan: Loyalty development and financial return, *Journal of Retailing and Consumer Services*, Vol.15 (5), 2008, 375-385, (with John Dawson).

3. その他海外論文

1. When the Best Packaging Is No Packaging, *International Commerce Review*, Vol.9. No.1-2, 2010, 58-65, (with Davide Pellegrini, Munehiko Itoh).

(他 5 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. 日本マーケティング学会
4. オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会
5. サービス学会

【4】 学会における活動

1. 学会誌編集委員長：日本商業学会（2013年-2015年）
2. 副学会長：日本商業学会（2015年—現在）
3. 学会長：日本消費者行動研究学会（2015年-現在）
4. 理事：日本マーケティング学会（2012年-現在）
5. 編集委員：『マーケティング・ジャーナル』（2006年-現在）
6. 編集委員：オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会（2011年-現在）
7. サービス学会：代議員（2014年—現在）
8. Scientific committee: International Marketing Trends Conference (2011年-現在)
9. Editorial board: Journal of Marketing Channels (2012年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Best Track Chair Award (Korean Scholars of Marketing Science, Global Marketing Conference), 2012, July.
2. 日本商業学会賞奨励賞（1999年）

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費：基盤研究(A), 「小売企業における加速的成長のための基盤構築に関する研究」, 2012-2015年度.
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「ソリューションビジネスにおける顧客関係管理の有効性」, 2009-2011年度.
3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「流通企業の顧客関係構築戦略と組織学習プロセスに関する研究」, 2006-2007年度. (他 5 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. 英国エディンバラ大学訪問研究員（2005年3月-2006年2月 文部科学省海外派遣）
2. 英国エディンバラ大学訪問研究員（2001年6月-8月）

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

1. What enables servitization? Technological dimension and customer approach, 22nd Annual Conference, European Operations Management Association, Neuchatel, Switzerland, 2015 (jointly presented with Kenichi Nishioka).
他 10 件

【9】 現在の研究活動

1. 小売り企業の成長戦略に関する国際共同研究
2. サービス・イノベーション研究
3. NEDO、SPI「リアクティブ 3D プリンタによるテーラーメイドラバー製品の設計生産と社会経済的な価値共創に関する研究開発

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本生産性本部、日本版顧客満足度指数開発顧問（2012年-2015年）
2. 中外製薬研究倫理委員会委員（2002年-2014年）
3. 文部科学省大学設置分委会専門委員会委員（2010年-2011年）
(他、兵庫県、神奈川県、東京都、神戸市、横浜市、藤沢市、審議会委員 9 件)

17. 上林 憲雄

職名 教授

学位 Ph.D. (ウォーリック大学) (2000年)
博士 (経営学) (神戸大学) (2003年)

生年 1965年

学歴

1989年3月 神戸大学経営学部卒業
1991年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1992年7月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学
1999年9月 英国ウォーリック大学大学院ドクター
プログラム修了

職歴

1992年7月 神戸大学経営学部助手
1994年4月 神戸大学経営学部講師
1994年8月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 人的資源管理, 研究指導
大学院 (一般) 経営制度特論, 演習
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) 現代経営学演習

学内役職

副研究科長・大学院教務委員 (2015年4月-2016年
3月), 専門職大学院教務委員 (2012年4月-2013年
3月), 経営学研究科マネジメント・システム専攻長
(2010年4月-2012年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『人的資源管理』, 中央経済社, 2015年, 編著.
- 『ケーススタディ: 優良・成長企業の人事戦略』,

税務経理協会, 2015年 (三輪卓己と共編著).

- 『現代・人的資源管理』, 中央経済社, 2014年,
編著.
- 『変貌する日本型経営』, 中央経済社, 2013年,
編著.
- 『経験から学ぶ人的資源管理』, 有斐閣, 2010年,
(厨子直之, 森田雅也と共著).
- 『入門人的資源管理(第2版)』, 中央経済社, 2010
年, (奥林康司, 平野光俊と共編著).
- 『経験から学ぶ経営学入門』, 有斐閣, 2007年,
(奥林康司他4名と共著).
- 『異文化の情報技術システム』, 千倉書房, 2001
年. (他2冊)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「労働者マネジメントのパラダイムに関する一
考察」『比較経済体制』第50巻第2号, 2013年,
42-50.
- 「情報技術と社会的コンテクスト—ビジネス・プ
ロセス・リエンジニアリング論再考—」, 『日本労
務学会誌』, 第2巻第2号, 2000年, 1-12.
- 「情報技術の利用形態とナショナル・カルチャー
—作業組織の日英比較—」, 『日本経営学会誌』,
第4号, 1999年, 61-73. (他1件)

3. その他国内論文

- 「経営学が構築してきた経営の世界」, 『経営学の
思想と方法』, 文眞堂, 2012年, 21-35頁.
(他学術論文61編, 解説・書評等13編)

【2】 海外出版

1. 著書

- Japanese Management in Change*, Springer, 2014
(editor).
- Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008
(with Takuji Hara and Noboru Matsushima).
- Management Education in Japan*, Chandos
Publishing, 2007 (with Masaya Morita and Yoko
Okabe).
- Cultural Influences on IT Use: A UK-Japanese
Comparison*, Palgrave Macmillan, 2002.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Culture-specific IT use in Japanese factories, *Asian Business & Management Journal*, Vol. 3, No. 2, 2004, 241-262.
2. Cultural influences on IT use amongst factory managers: a UK-Japanese comparison, *Journal of Information Technology*, Vol.16, No.4, 2001, 221-236, (with Harry Scarbrough).

3. その他海外論文

1. Changes in Organisational Structure and New Development in Personnel Management, *Journal of Japanese Economic Studies*, Vol.23, No.5, 1995, 74-96.
2. New Forms of Management Organisation under New Technology: Empirical Evidence from Japanese Manufacturing Companies, *Journal of Management*, Vol.3, No.1, 1996, 17-27.

【3】 主要所属学会

1. 日本労務学会
2. 日本経営学会
3. 組織学会
4. 経営学史学会
5. 日本情報経営学会

【4】 学会における活動

1. 会長：日本労務学会（2009年-2013年）
2. 西日本代表理事：日本経営学会（2014年-現在）
3. 常任理事：日本経営学会（2011年-現在），日本労務学会（2005-2007年）
4. 理事：日本労務学会（2003-2007年），経営学史学会（2010年-現在），日本情報経営学会（2012年-現在），現代経営学研究所（2004-2006年度）
5. 大会プログラム委員長：日本経営学会（2012年），日本労務学会（2006年）
6. 学会誌等編集委員：『国民経済雑誌』，『日本経営学会学会誌』（2006年-現在），『日本労務学会誌』（2007年-現在）
7. 学会賞審査委員：日本労務学会研究奨励賞審査委員長（2005-2006年），同学術賞（2008-2010年）同審査委員（2011年-現在），日本経営学会賞審査委員（2009年-現在），同審査委員長（2014年-現在）
8. レフェリー：『組織科学』，『日本労務学会誌』，『日

本経営学会誌』，『国民経済雑誌』，『日本労働研究雑誌』，『ビジネス・インサイト』，『立命館経営学』，『日本情報経営学会誌』，*Asian business & Management*.
 (他 3 件)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 平成 23 年度科学研究費補助金助成制度 審査委員表彰（2011年）
2. 日本労務学会賞・学術賞（2002年）
3. 日本労務学会賞・研究奨励賞（1996年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金：基盤研究(B)，「グローバル市場主義進展下における日本型的人資源管理システムの体系化」，2014-2019年度。
 (他 6 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Ph.D. programme student: Warwick Business School, University of Warwick, UK, 1996-1999. (他 3 件)

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 人的資源管理および企業経営の国際比較研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 内閣府：日本学術会議第 23-24 期会員（2014年-現在）
2. 金融庁：公認会計士試験 試験委員（2009年-現在）
3. 日本学術振興会：科学研究費委員会専門委員（2009-2012年），産学協力研究委員会経営問題第 108 委員会委員長（2014年-現在）
4. 大学基準協会：経営系専門職大学院認証評価委員（2010年-現在）
5. 兵庫県：「男女共同参画審議会」委員（2009年-現在）
6. 株式会社インソース社外取締役（2014年-現在）
 (他 20 件)

はらだ つとむ
18. 原田 勉

職名 教授

学位 Ph.D. (スタンフォード大学) (1997年)
博士 (経営学) (神戸大学) (2000年)

生年 1967年

学歴

1989年3月 一橋大学商学部卒業
1991年3月 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
1994年9月 一橋大学大学院商学研究科博士課程退学
1997年4月 スタンフォード大学大学院経済学部博士課程修了

職歴

1997年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 経営学基礎論、戦略マネジメント
大学院 (一般) 演習、経営品質マネジメント特殊研究
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) 経営戦略応用研究、現代経営学応用研究 (イノベーションの組織マネジメント)

学内役職

国民経済雑誌編集長

【1】 国内出版

1. 著書

- 『イノベーション戦略の論理—確率の経営とは何か』, 中公新書, 2014年.
- 『実践力を鍛える戦略ノート 戦略立案編』, 東

洋経済新報社, 2010年.

- 『汎用・専用技術の経済分析-新たなイノベーション・モデルの構築-』, 白桃書房, 2007年.
- 『ケース演習でわかる 技術マネジメント』, 日本経済新聞出版社, 2007年.
- 『実践力を鍛える 戦略ノート[企業価値評価編]』, 東洋経済新報社, 2007年.
- 『実践力を鍛える 戦略ノート[マーケティング編]』, 東洋経済新報社, 2006年.
- 『MBA 戦略立案トレーニング』, 東洋経済新報社, 2003年.
- 『ケースで読む 競争逆転の経営戦略』, 東洋経済新報社, 2000年.
- 『知識転換の経営学』, 東洋経済新報社, 1999年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「日本における IT の経済的効果とパラドクス」, 『経済研究』, 第 55 巻, 第 4 号, 2004 年, 299-312. (他学術論文 7 編)

3. その他国内論文

- 「汎用・専用技術の相互作用と経済成長」, 『国民経済雑誌』, 2010 年, 第 202 巻 第 5 号, 41-59 頁. (他学術論文 21 編, 解説・書評等 2 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Changing Productive Relations, Linkage Effects, and Industrialization, *Economic Systems Research*, Forthcoming.
- Structural Change and Economic Growth with Relation-specific Investment, *Structural Change and Economic Dynamics*, forthcoming.
- Managing Innovation Probabilities: Core-driven vs. Bottleneck-removing Innovations, *Business and Management Studies*, forthcoming.
- Effects of Diversity on Innovation in Complex Technology Systems and Ownership Structure, *Journal of Management and Sustainability*, Vol. 4,

Issue 4, 2014, 36-46.

5. Dynamic Strategies and Management of Focusing Devices, *Journal of Management and Sustainability*, Vol. 4, Issue 2, 2014, 22-33.
6. Focusing Device as Innovation Mechanism and Cluster Growth, *Economics of Innovation and New Technology*, Vol. 23, Issue 1, 2014, pp. 49-62
7. Advantages of Backwardness and Forwardness with Shifting Comparative Advantage, *Research in Economics*, Vol. 66, Issue 1, 2012, 72-81.
8. The Division of Labor in Innovation between General Purpose Technology and Special Purpose Technology, *Journal of Evolutionary Economics*, Vol. 20, Number 5, 2010, 741-764.
9. Path-dependent Economic Progress and Regress: the Negative Role of Subsidies in Economic Growth, *Structural Change and Economic Dynamics*, Vol. 21, Issue 3, 2010, 197-205.
10. Path-dependent Economic Growth with Technological Trajectory, *Economics of Innovation and New Technology*, Vol. 19, Issue 6, 2010, 521-538.
11. Three Steps in Knowledge Communication: The Emergence of Knowledge Transformers, *Research Policy*, Vol. 32, Issue 10, 2003, 1737-1751.

3. その他海外論文

1. Japanses Puzzle, in A.Arora, R.Landan and N.Rosenberg (eds.), *Chemicals and Long-term Economic Growth*, Wiley-Interscience, 1998, 103-135.

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 中小企業学会
3. 日本経済学会
4. 進化経済学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー：組織科学，ビジネス・インサイト，経済科学，国民経済雑誌，日本経営学会誌（2008年），International Journal of Technology Management（2009年），Economics of Innovation and New Technology（2009年），Scientific Research and Essays（2012年），ビジネス・レビュー（2012

年）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 組織学会・高宮賞 著書部門（2000年）
2. 経営科学文献賞・奨励賞（2000年）
3. 日本ナレッジ・マネジメント学会・研究奨励賞（2000年）
4. 組織学会・高宮賞 論文部門（1999年）

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究（C）（2014-2019年）
2. 稲盛財団（1998年）
3. 社会経済生産性本部（1997年）

【7】 海外における研究・教育活動

1. ハーバード大学ケネディスクール客員研究員（2006年1月-2006年6月）
2. ハーバード大学国際問題研究所フルブライト研究員（2004年10月-2005年7月）
3. INSEAD 客員研究員（2003年12月-2004年10月）

【8】 国際学会における発表状況（過去3年間）

なし

【9】 現在の研究活動

1. イノベーション経済学・戦略・組織論

【10】 社会活動・実務経験

1. 関西情報・産業活性化センター「e-Kansai レポート」委員会主査（2009年7月-現在）
2. 日本経営協会「MOT 研究会」コーディネーター（2009年6月-現在）
3. 関西経営品質賞判定委員会副委員長（2003年10月-現在）
4. 関西生産性本部「関西経営品質協議会」企画実践委員会副委員長（2001年-現在）
5. 日本学術振興会産業構造中小企業第118委員会委員（1999年-現在）
6. 科学技術庁科学技術政策研究所客員研究官（1998-1999年）

くつ な けん じ
19. 忽那憲治

職名 教授

学位 博士（商学）（大阪市立大学）（1997年）

生年 1964年

学歴

1989年3月 大阪市立大学商学部卒業

1991年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科前期
博士課程修了

1994年3月 大阪市立大学大学院経営学研究科後期
博士課程単位修得退学

職歴

1992年4月 日本証券経済研究所大阪研究所研究員

1995年4月 大阪市立大学経済研究所講師

1997年4月 大阪市立大学経済研究所助教授

2002年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 アントレプレナーに学ぶ新規事業展開のビ
ジネスモデル，証券市場，研究指導

大学院（一般）演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学応用研究（アントレプレ
ナーファイナンス）

学内役職

学生委員（2010年4月-2011年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『アントレプレナーシップ入門 —ベンチャーの創造を学ぶ』，有斐閣，2013年，（長谷川博和、高橋德行、五十嵐伸吾、山田仁一郎との共著）
- 『商学への招待』，有斐閣，2013年，（石原武政との共著）

- 『MBA アントレプレナーファイナンス入門—ベンチャー企業の価値評価—』，中央経済社，2013年，（山本一彦、上林順子との共著）
- 『ハイテク産業を創る地域エコシステム』，有斐閣，2012年，（西澤昭夫，樋原伸彦，佐分利応貴，若林直樹，金井一頼と共著）。
- 『ベンチャーキャピタルによる新産業創造』，中央経済社，2011年，（公益財団法人日本証券経済研究所と共著）。
- 『中小企業が再生できる8つのノウハウ』，日新聞出版，2010年。（他著書5編）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「ベンチャーキャピタル投資における優先株の利用」，『証券アナリストジャーナル』第53巻第5号，2015年，15-24。
- 「IPO後の高成長企業と低成長企業」，『一橋ビジネスレビュー』，第62巻2号，2014年，6-21。（他論文101編，書評3編，翻訳2編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Initial Public Offering Intention: Evidence from Start-up Firms in Japan, *Corporate Ownership and Control*, Vol.7, No.4, 2010, 127-141, (with Honjo, Y.).
- Public Information, IPO Price Formation, and Long-run Returns: Japanese Evidence, *Journal of Finance*, Vol.64, No.1, 2009, 505-546, (with Smith, J. K. and Smith, R.).
- Why Are IPOs Underpriced? Evidence from Japan's Hybrid Auction-Method Offerings, *Journal of Financial Economics*, Vol.85, No.3, 2007, 637-666, (with Kerins F. and Smith R.).
- Banking Relationships and Access to Equity Capital

Markets: Evidence from Japan's Main Bank System, *Journal of Banking and Finance*, Vol.31, No.2, 2007, 335-360, (with Smith, J. K. and Smith, R.).

5. Why Does Book Building Drive Out Auction Methods of IPO Issuance? Evidence from Japan, *Review of Financial Studies*, Vol.17, No.4, 2004, 1129-1166, (with Smith R.).

(他 4 編)

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本ファイナンス学会
3. 証券経済学会
4. 日本ベンチャー学会
5. 企業家研究フォーラム
6. American Finance Association
7. Financial Management Association

【4】 学会における活動

1. 理事：日本ベンチャー学会（2006-2012 年），証券経済学会（2007-2013 年），企業家研究フォーラム（2009-2012 年）
2. 雑誌編集委員：証券経済学会年報（2001-2005 年），日本ベンチャー学会誌ベンチャーズレビュー（2005-2012 年），Venture Capital（2000 年-現在）
3. レフェリー：Journal of International Money & Finance, Venture Capital, Asia-Pacific Financial Markets, 日本ベンチャー学会誌ベンチャーズレビュー, 企業家研究, 証券経済学会年報, 国民経済雑誌, Review of Finance, The Japanese Economic Review, Japan and the World Economy, 現代ファイナンス, International Small Business Journal
4. 学会賞審査委員：日本ベンチャー学会（清成忠男賞）（2008-2009 年）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 証券経済学会賞優秀賞（2010 年）
2. 第 1 回企業家研究フォーラム賞（論文の部）（2007 年 7 月）
3. 商工総合研究所・平成 17 年度中小企業研究奨励

賞本賞受賞（2006 年 2 月）

(他 4 件)

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

1. 科学研究費補助金：基盤研究(B), 「低経済成長下の企業成長とファイナンス—公開企業と未公開企業の領域横断的研究—」, 2012-2015 年度.
2. 科学研究費補助金：基盤研究(B), 「未公開企業に対する銀行行動の決定要因とその影響に関する計量分析」, 2007-2010 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Warwick Business School, Centre for Small and Medium-sized Enterprises, Visiting Scholar, 1998.
2. Claremont Graduate University, Peter F. Drucker and Masatoshi Ito Graduate School of Management, Visiting Scholar, 2006-2007.

【8】 国際学会での発表状況（過去 3 年間）

1. 「Do Political Connections Matter in Accessing Capital Markets? Evidence from China」, Emerging Markets Review Special Issue Conference in Shanghai, 2015 年 4 月.
2. 「Supply-chain Spillover Effects of IPOs」, Chulalongkorn Accounting and Finance Symposium, Chulalongkorn University, 2013 年 11 月.

【9】 現在の研究活動

1. 成長企業の特徴：会社設立後短期間で急成長をとげる企業はどのような特徴を持っているかについて実証分析を実施する。
2. ベンチャーキャピタルの投資行動：新産業領域で急成長企業を輩出するために、ベンチャーキャピタルが果たすべき役割が何かについて実証分析を実施する。

【10】 社会活動・実務経験

経済産業研究所「NTBFs 研究会」委員（2008 年 2 月-2009 年 12 月）
(他多数)

20. 末廣 英生

職名 教授

学位 Ph.D. (スタンフォード大学) (1989年)

生年 1956年

学歴

1979年3月 神戸大学経済学部卒業

1981年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了

1982年9月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学

職歴

1982年10月 神戸大学経営学部助手

1985年10月 神戸大学経営学部講師

1989年11月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2005年10月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学部 研究指導, ゲーム理論, 経営学入門, 経営学入門演習

大学院 (一般) 演習, 決定分析特論,

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) なし

学内役職

経営学専攻長 (2012年4月-2013年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「逐次投票と効率性:1つの例」『国民経済雑誌』, 第208巻 第3号, 2013年, 21-60頁. (永岡成人との共著)
2. 「不平等回避選好と囚人のジレンマにおける内生的リーダーシップ:1つの例」,『国民経済雑誌』, 第204巻 第4号, 2011年, 1-15, (安部浩次, 小林創と共著).
3. 「リーダーシップのシグナリング理論:1つの展望」,『国民経済雑誌』, 第200巻 第4号, 2009年, 25-44.
4. 「シグナリング・ゲーム実験における均衡と均衡化」,『国民経済雑誌』, 第196巻第6号, 2007年, 45-65.
5. 「交替手番によるスロット・マシン問題:熟練プレーヤーと未熟練プレーヤーの場合」,『国民経済雑誌』, 第193巻, 第2号, 2006年, 51-74.
6. 「事前の仕事割り当て問題」,『国民経済雑誌』, 第189巻, 第5号, 2004年, 81-98.
7. 「チェーンストア・パラドックスとは何か」,『国民経済雑誌』, 第188巻, 第1号, 2003年, 49-79.
8. 「あるスロットマシン問題のグループによる解決」,『国民経済雑誌』, 第186巻, 第5号, 2002年, 29-50.
9. 「リーダーシップが生まれるとき」,『国民経済雑誌』, 第183巻, 第3号, 2001年, 65-85.
10. 「逐次合理性をめぐる諸問題」,『国民経済雑誌』, 第179巻, 第4号, 1999年, 35-50.
11. 「意思決定構造と組織のパフォーマンス」, 伊藤秀史編,『日本の企業システム』, 東京大学出版会, 1996年, 117-149.
(他学術論文11編, 解説・書評等2編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Emergence of Leadership in Teams, *The Japanese Economic Review*, Vol.56, No.3, 2005, 295-316, (with Hajime Kobayashi).

3. その他海外論文

なし

Shanghai:China, August 2010.

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. The Econometric Society
3. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー：International Economic Review, Japanese Economic Review, 組織科学

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「情報共有とリーダーシップのゲーム理論的実験的研究」(2015-2018年度)
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「不公平回避選好と囚人のジレンマにおける内生的リーダーシップのゲーム理論研究」(2012-2014年度)
3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「情報とリーダーシップのゲーム理論的研究」(2009-2011年度)
4. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「リーダーシップ発生のゲーム実験研究」, 2006年度-2008年度.
5. 松下国際財団, 1995年度.
6. 日本経済研究奨励財団奨励金, 1993年度.
7. Postdoctoral Research Fellowship, Tilburg University, Holland, 1991-1992
8. 学術振興野村基金, 1991年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Postdoctoral Research Fellow: Tilburg University, Holland, 1991-1992
2. Visiting Scholar: Delta, France, 1996-1997

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Experiments on the Emergence of Leadership in Teams, Econometric Society, World Congress,

【9】 現在の研究活動

1. 「展開型ゲームにおける均衡選択の研究」(ディスカッション・ペーパー)：展開型ゲームの均衡の精緻化の分野では、これまで、人々が1つの均衡理解に沿って行動している場合を想定して、人々の行動を予測・説明しようとしてきた。しかし、行動原理の異なる人々が混在する状況で、各人が固有の行動原理をとりうることを示した。
2. 「メカニズムデザイン・アプローチによる階層組織とチーム設計の研究」(Nahum Melumad (コロンビア大学)との共著ディスカッション・ペーパー)：階層構造の下でのチーム・マネジメントにとって、チームのマネージャーの選択が重要であることは誰もが認識しているが、その選択基準についての研究は意外にない。個人のチーム価値への貢献度がその選択基準となることを示した。
3. 「チームにおける、自信に基づくリーダーシップの研究」(日本経済学会 2006年度春期大会招待セッションでの“Leadership by Confidence”の研究発表, 共同研究者小林創, 発表者小林創)：自発的リーダーシップ行動の要因は、実証研究はあるが、理論研究がほとんどない。チーム生産に関する私的部分情報がある下での動学チーム生産ゲームのCho-Kreps安定均衡を研究し、一定の条件の下で、チーム生産性に関して楽観の見通し、自信のあるプレーヤーが自発的に行動してリーダーの役割を果たすことを示した。
4. 「チームにおける、自信に基づくリーダーシップの実験研究」：チーム生産に関する私的部分情報がある下での動学的チーム生産ゲームを実験室実験し、チーム生産性に関して楽観の見通し、自信のあるプレーヤーが自発的にリーダーの役割を果たすという理論予測を裏付けた。

【10】 社会活動・実務経験

なし

ひらのみつとし
21. 平野光俊

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(1998年)

生年 1957年

学歴

1980年3月 早稲田大学商学部卒業
1994年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1998年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1980年4月 ジャスコ(現イオン)株式会社入社
1996年4月 近畿カンパニー人事教育部長
2000年3月 本社経営企画室次長
2002年3月 同 退職
2002年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2013-2015年度)

学部 経営システム特殊講義(人事制度設計),
研究指導
大学院(一般) 経営制度特論, サーベイリサーチ法
特殊研究, 演習
大学院(GMAP/SESAMI) なし
大学院(MBA) 現代経営学演習, 現代経営学応用研
究(人材マネジメント)

学内役職

専門職大学院教務委員(2011年4月-2012年3月)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『現代人的資源管理—グローバル市場主義と
日本型システム—』中央経済社, 2014年, (上
林憲雄・森田雅也と共編著)

2. 『多様な人材のマネジメント』中央経済社,
2014年, (奥林康司と共編著)
3. 『入門人的資源管理(第2版)』, 中央経済社,
2010年, (奥林康司・上林憲雄と共編著)。
4. 『日本型人事管理—進化型の発生プロセスと
機能性—』, 中央経済社, 2006年。
5. 『キャリア・ドメイン—ミドル・キャリアの分
化と統合—』, 千倉書房, 1999年。
6. 『キャリア・ディベロップメント—その心理的
ダイナミクス—』, 文眞堂, 1994年。

(他共編著2編)

7. 2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「女性活躍推進施策が若年女性のキャリア自己
効力感に与える影響」, 『経営行動科学』, 第26
巻, 第1号, 2013年, 17-29, (小泉大輔・朴弘
文と共著)
2. 「社員格付原理としての役割主義の機能要件—
人事部の権限と体制に着目して—」, 『組織科学』,
Vol.45, No.3, 2012年, 67-79, (江夏幾多郎と共
著)。
3. 「非正規労働者の質的基幹化と組織の境界—分
業モデルの構築—」, 『日本労務学会誌』, 第10
巻, 第1号, 2008年, 17-30, (朴弘文と共著)。
4. 「自律型キャリア発達と人的資源管理改革」, 『産
業カウンセリング研究』, 第7巻, 第2号, 2005
年, 1-12。
5. 「キャリア発達の視点から見た社員格付け制度
の条件適合モデル—職能資格制度と職務等級制
度の設計と運用の課題—」, 『経営行動科学』, 第
17巻, 第1号, 2003年, 15-30。

3. その他国内論文

1. 「労働契約法改正の「意図せざる結果」の行方—
小売企業パート従業員の分配的公正感を手がかり
として—」, 『日本労働研究雑誌』, No.655, 2015
年, 47-58。
2. Human Resources Departments of Japanese
Corporations: Have Their Roles Changed?, *Japan
Labor Review*, Vol.10, No.1, 2013, 81-103。
3. Modularization of Work and Skills Evaluations: Two
Cases of IT Companies, *Japan Labor Review*, Vol.8,
No.3, 2011, 6-27, (with Senda, N. and Hongmoon
Park). (他学術論文28編, 書評7編, 報告書7編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. "Limited Regular Employees" and Boundary of Employment: An Analysis by the Three-Layered Labor Market Model, Norio Kambayashi ed., *Japanese Management in Change: The Impact of Globalization and Market Principles*, Springer, 2015, Ch.9, 123-139.
2. Diversification of Employment Categories in Japanese Firms and Its Functionality: A Study Based on the Human Resource Portfolio System, Bebenroth, Ralf and Kanai, Toshihiro eds., *Challenges of Human Resource Management in Japan*, Routledge, 2011, Ch.11, 188-209.
3. Japanese-Style Career System and Its Functionality, *IL Politico(Univ. Pavia, Italy)*, ANNO LXXIII, No.2, 2008, 203-220.

【3】 主要所属学会

1. 日本労務学会
2. 経営行動科学学会
3. 日本産業カウンセリング学会
4. 組織学会
5. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. 会長：経営行動科学学会（2010-2012年）
2. 常任理事：日本労務学会（2013-2015年）
3. 理事：日本産業カウンセリング学会（2012年-現在）
4. 編集委員：日本労務学会誌編集委員長（2005-2006年）、日本労働研究雑誌（2008-2014年）、Japan Labor Review（2008-2014年）、経営行動科学（2008年-現在）
5. 組織学会高宮賞審査委員（2011-2012年）
労働関係図書優秀賞審査委員（2014-現在）、
日本労務学会学術賞審査委員（2013年 - 2015年）

6. レフェリー：日本労働研究雑誌，組織科学，日本労務学会誌，経営行動科学，日本経営学会誌

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 経営行動科学学会・大会優秀賞（2012年）
2. 労働政策研究研修機構・労働関係図書優秀賞（2007年）
3. 日本労務学会・学術賞（2007年）
4. 経営行動科学学会・優秀研究賞（2007年）
5. 日本産業カウンセリング学会・学術賞（2006年）
6. 日本労務学会・研究奨励賞（1996年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B)，「公正な雇用ポートフォリオモデルの構築と雇用区分管理手法の開発」，2015-2018年。
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)(2)，「日本企業の人的資源管理における個人情報非対称性と粘着性に関する調査及び研究」，2003-2005年。

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Researcher: Pavia University, Italy, 2007

【8】 国際学会での発表状況（過去3年間）

なし

【9】 現在の研究活動

1. 人事管理、組織コーディネーション、事業戦略の補完的関係に着目した日本型人事管理の進化形。
2. 公正な雇用ポートフォリオと雇用区分管理手法。
3. 女性活躍推進とワークライフバランス。

【10】 社会活動・実務経験

1. NPO法人現代経営学研究所 (RIAM) 理事 (2005年-現在)
2. 日本学術振興会経営問題第108委員会委員 (2002年-現在)

職名 教授

学位 Ph.D. (ミネソタ大学) (1996 年)

生年 1960 年

学歴

- 1984 年 3 月 慶應義塾大学文学部卒業
 1986 年 3 月 慶應義塾大学大学院社会学研究科前期博士課程修了 (社会学修士)
 1995 年 3 月 慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程 単位取得退学
 1996 年 12 月 ミネソタ大学経営大学院産業関係学部博士課程修了 (Ph.D.)

職歴

- 1997 年 4 月 南山大学経営学部講師
 1998 年 4 月 南山大学経営学部助教授
 2000 年 4 月 南山大学総合政策学部助教授
 2004 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
 2006 年 12 月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015 年度)

学 部 研究指導, 経営学入門, 経営学入門演習,
 大学院 (一般) 演習, サーベイリサーチ法特殊研究
 大学院 (GMAP/SESAMI) なし
 大学院 (MBA) 現代経営学応用研究 (組織行動 I)

学内役職

国際交流委員 (2014 年 4 月-2015 年 3 月)
 米州交流室員 (2013 年 4 月-2015 年 3 月)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『評価の急所』, 生産性労働情報センター, 2013 年.
- 『人事評価の総合科学』, 白桃書房, 2010 年.
- 『Jリーグの行動科学』, 白桃書房, 2010 年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「成果主義人事制度成否の決定因」, 『人材育成研究』, 第1巻, 第1号, 2005年, 23-32.
- 「作為回答場面での5大因子性格検査に関する反応妥当性尺度の役割」, 『産業・組織心理学研究』, 第17巻, 第2号, 2004年, 65-77, (堀尾志保と共著). (他論文9編)

3. その他国内論文

- 「採用選考における公正理論の役割」, 『国民経済雑誌』, 第209巻5号, 2013年, 17-30.
- 「全球の人材育成のためのラーニング」, 『生活福祉研究』, 第85号, 2013年, 21-35.
- 「公正な人事評価のための3つの視点」, 『ジュリスト』, 第1441巻5号, 2012年, 37-42.
- 「リーダーシップの本質」, 『国民経済雑誌』, 第205巻6号, 2012年, 51-66.
 (他, 学術論文36編, 寄稿93編, 調査報告書14編, 翻訳書3冊, 辞典項目3点)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Criteria for screening job-applicants in Japanese companies: Policy capturing approach. *Journal of Academy of Business and Economics*, Vol.15, 2015, 101-109. (with N. Ogawa, and D. Osato)
- The empathetic sorting technique: Measuring corporate culture by sorting illustrated value statements. *Business Studies Journal*, Vol.6, 2014, 81-101. (with N. Ogawa, and D. Osato)
- Effects of Wage and Promotion Incentives on the Motivation Levels of Japanese Employees, *Career Development International*, Vol.11, No.3, 2006, 193-203.

3. その他海外論文

1. Testing the Zimbardo Time Perspective Inventory: Japanese validation study. In M. P. Paixão & J. T. da Silva (Eds.) *International Studies in Time Perspective*. Coimbra, Portugal: University of Coimbra Press. 2013, Pp 233-240. (with M. Shimane, Y. Ono, & Y. Hattori)
2. Qualitative and quantitative studies of leadership in multinational settings: Meta-analytic and cross-cultural reviews, *Journal of World Business*, 47, 2012, 530-538, (Coauthored with J. Ishikawa and T. Kanai). (他学術論文 2 編)

【3】 主要所属学会

1. Academy of Management
2. Academy of International Business
3. American Psychological Association
4. Society for Industrial and Organizational Psychology
5. 日本心理学会
6. 産業・組織心理学会
7. 経営行動科学学会
8. 人材育成学会
9. 日本労務学会

【4】 学会における活動

1. 常任理事：産業・組織心理学会（2001-2004 年），人材育成学会（2003 年-現在）日本労務学会（2013 年-現在）
2. 理事：経営行動科学学会（2004 年-2007 年），産業・組織心理学会（1998-2001 年，2004 年-現在）
3. 監事：経営行動科学学会（1997-2000 年）
4. 組織行動部会長：経営行動科学学会（2000-2002 年）
5. 国際関係委員：産業・組織心理学会（1998-2001 年）
6. 機関誌編集委員長：経営行動科学学会（2000-2002 年）
7. 機関誌編集委員：産業・組織心理学会（2001 年-現在），人材育成学会（2004 年-現在）組織学会（2010 年-現在）日本労務学会（2010 年-現在）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本労務学会学術賞（2012 年）
2. 日本労務学会研究奨励賞（2000 年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B)「組織資源の可視化を基盤とした経営人材の選抜と育成」, 2015-2018 年度.
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「若年層から経営幹部に渡るリーダーシップの評価と育成に関する研究」, 2012-2014 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar, Georg-August-Universität, Göttingen, 2015.
2. Visiting Scholar, University of Edinburgh, 2007-2008.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Measuring Time Perspective in Work Settings: Japanese Data Analysis. The 2nd International Conference on Time Perspective, Warsaw, Poland. August 2014 (jointly presented with K. Konishi).
2. What is your leadership score? A leadership situational judgment test. Symposium in the 29th Annual Conference of the Society for Industrial and Organizational Psychology, Honolulu, HI. May 2014 (jointly presented with T. Murase, K. Ikari, Y. Ono, and Y. Hattori). (他 3 件)

【9】 現在の研究活動

1. 「創造性の訓練に関する研究」
2. 「リーダーシップの測定に関する研究」
3. 「新規学卒者の採用に関する研究」
4. 「人事評価に関する研究」
5. 「プロスポーツ選手のキャリアに関する研究」

【10】 社会活動・実務経験

1. 日米教育委員会フルブライトプログラム審査委員（2000 年，2014 年）
2. 総務省『人事評価に関する検討会』委員（2013 年）
3. (財)中部産業・労働政策研究会研究員（2000 年-現在）
4. (社)日本経営協会「ビジネス能力開発フォーラム」実行副委員長（2009 年-現在）

23. 砂川 伸幸

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2000年）

生年 1966年

学歴

1989年3月 神戸大学経営学部卒業

1995年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

職歴

1989年4月 新日本証券(株)入社

1995年4月 神戸大学経営学部助手

1998年4月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 コーポレートファイナンス，研究指導
大学院(一般) コーポレートファイナンス特殊研究，
演習

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) 経営戦略応用研究，ファイナンス応
用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版**1. 著書**

- 『はじめての企業価値評価』，日経文庫，2015年，
（笠原真人と共著）
- 『経営戦略とコーポレートファイナンス』，日本
経済新聞出版社，2013年，（川北英隆，佐藤淑子，
杉浦秀徳氏と共著）
- 『コーポレート・ガバナンスの経営学』，有斐閣，
2010年，（加護野忠男，吉村典久と共著）。

4. 『日本企業のコーポレートファイナンス』，日本
経済新聞出版社，2007年，（川北英隆，杉浦英徳
と共著）。

5. 『パーソナル・ファイナンス入門』，中央経済社，
2006年，（榊原茂樹，姜喜永，城下賢吾と共著）。

6. 『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済
新聞社，2004年。 （他2冊）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「株主優待導入の短期的影響」，『証券アナリスト
ジャーナル』，Vol.46，No.7，2008年，107-121，
（鈴木健嗣と共著）。

2. 「株式持ち合い解消のシグナリング・モデル」，
『現代ファイナンス』，第15号，2004年，23-34。

3. 「借手のリスクインセンティブと貸手のリスク
インセンティブ」，『経営財務研究』，第23巻，第
1号，2004年，77-87，（山下忠康と共著）。

（他論文2編）

3. その他国内論文

1. 「社外取締役の役割とコーポレートファイナ
ンス」，『月間監査役』，No. 634，2014年，38-46頁。

2. 「成長と価値：海外投資の注意点」，『CFO
FORUM』，第42号，2012年，20-21頁。

3. 「企業のペイアウトと株価の長期パフォーマンス」
，『国民経済雑誌』，第196巻，第2号，2007
年，22-46，（山口聖と共著）。

4. 「ペイアウトと現金保有」，『証券アナリストジ
ャーナル』，第44巻，第7号，2006年，6-21。（畠
田敬，山口聖と共著）。

5. 「債務免除と企業再生」，『証券アナリストジ
ャーナル』，第43巻，第4号，2005年，34-44，（藤
原賢哉，山下忠康と共著）。（他学術論文54編）

【2】 海外出版**1. 著書**

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Debt forgiveness and stock price behavior of lending
bank: Theory and evidence from Japan, *Journal of
Financial Research*, 2010, Vol.33, No.3, 267-287,

(with S. Yamaguchi and T. Yamashita).

2. A theory of unwinding of cross-shareholding under managerial entrenchment, *Journal of Financial Research*, Vol.30, 2007, 163-179.
3. Addition to the Nikkei 225 Index and Japanese market response: Temporary demand effect of index arbitrageurs, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.14, 2006, 395-409, (with K. Okada and K. Fujiwara).
4. Lender's Risk Incentive and Debt Concession, *International Review of Economics and Finance*, Vol.15, 141-150, 2006.
5. Stock Price Behavior Surrounding Stock Repurchase Announcements: Evidence from Japan, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.12, 271-290, 2004, (with T. Hatakeda).
6. Callable Convertible Debt under Managerial Entrenchment, *Journal of Corporate Finance*, Vol.8, 2002, 255-270.
7. Open-market Repurchase Announcements and Stock Price Behavior in Inefficient Markets, *Financial Management*, Vol.31, 2002, 5-20. (他3編)

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経営財務研究学会
2. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. 理事：証券経済学会（2009-2010年）、日本ファイナンス学会（2006年-現在）
2. 評議員：日本経営財務研究学会（2008年-2014年）
3. 雑誌編集委員：現代ファイナンス
4. レフェリー：Journal of Corporate Finance, Journal of Financial Research, International Review of Economics and Finance, Pacific-Basin Finance Journal, 現代ファイナンス, 証券経済学会年報等

【5】 学会賞等の受賞歴

1. Outstanding Article Awards 2007, Journal of Financial Research, (2008).
2. 日本経営財務研究学会・学会賞（2007年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「企業価値評価におけるプレミアムとディスカウントの実証研究」, 2013年-2016年度.
2. 村田学術振興財団研究助成, 「エクイティマーケット・リスクプレミアムとカントリー・リスクプレミアムの国際比較」, 2013年度.
3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「企業財務と経営戦略・不動産戦略の相互依存関係における定性的・定量的研究」, 2011-2013年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. 客員研究員：University of Washington, Business School, 2000-2001年

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「企業価値評価における判例分析と資本コストの実証研究」司法判例を用いて企業価値評価における実務上の課題を抽出し、データ分析による課題解決について研究している。
2. 「経営戦略と企業価値、財務戦略の関係」企業価値を経営指標とした企業の経営戦略分析について研究を続けている。

【10】 社会活動・実務経験

1. 経済産業省「コーポレート・ガバナンス・システムの在り方に関する研究会」研究委員（2013年-現在）
2. 株式会社 TASAKI 社外取締役（2010年-現在）
3. 株式会社エフエーエス顧問（2011年-現在）
4. ハウス食品独立委員会委員（2007年-現在）
5. 日本証券アナリスト協会試験委員（2007年-現在）
6. フジッコ「企業価値判定委員会」委員（2006年-現在）
7. 京都大学経営管理大学院みずほ証券寄附講座教員（2005年-現在）

とくついちろう
24. 得津一郎

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1994年）

生年 1953年

学歴

1976年3月 神戸大学経営学部卒業
1978年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1980年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1980年4月 立命館大学経営学部助手
1981年4月 立命館大学経営学部助教授
1988年4月 神戸大学経営学部助教授
1994年1月 神戸大学経営学部教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授
2002年4月 甲南大学EBA 高等教育研究所教授
2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目(2013-2015年度)

学 部 市場経済入門, 研究指導
大学院 (一般) 統計的方法論特殊研究 (応用統計分
析)
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) 統計解析応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『生産構造の計量分析』, 創文社, 1994年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. An international comparison of the input-output structure, *Journal of Applied Input-Output Analysis*, Vol.7, No.1, 2001, 35-60, (with Mitsuo Saito).

3. その他国内論文

1. 「日本の地価・株価 - 資金循環勘定に基づく計量経済学的分析」, 辻村和佑・溝下雅子編『資金循環分析の軌跡と展望』, 東京: 慶應義塾大学出版会, 2004年, 177-210, (小川一夫, 斎藤光雄と共著).
2. 「アジア域内貿易の構造 - 可変投入係数モデルによる産業連関分析」, 『イノベーション&IO テクニク: 産業連関』, 第11巻, 第1号, 2003年, 4-16, (斎藤美香と共著).
3. 「年金制度の計量分析 - 日本経済の成長経路をめぐって」, 『季刊社会保障研究』, 第27巻, 第4号, 1992年, 395-421, (稲田義久, 小川一夫, 玉岡雅之と共著).
4. 「日本経済の多部門資産市場モデル」, 小川一夫, 斎藤光雄, 二宮正司編『多部門経済モデルの実証研究』, 東京: 創文社, 1992年, 229-332, (小川一夫, 斎藤光雄と共著).
5. 「多部門 CES 生産関数の推定 - 日本経済のエネルギー投入構造」, 小川一夫, 斎藤光雄, 二宮正司編『多部門経済モデルの実証研究』, 東京: 創文社, 1992年, 27-48.
6. 「エネルギー価格の変動とエネルギー需要」, 『エネルギー・資源』, 第11巻, 第2号, 1990年, 156-160, (斎藤光雄と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Revisiting the 'great trade collapse' with the endogenous input-choice model, *Oxford Economic Papers*, first published online: June 24, 2015(doi: 10.1093/oep/gpv044)
2. The trade credit channel revised, *Small Business Economics*, Vol 40, No.1, 2013, 101-118, (with Kazuo Ogawa and Elmer Sterken).
3. Financial distress and industry structure, *Economic Systems Research*, Vol. 24 No. 3, 2012, 229-249, (with Kazuo Ogawa and Elmer Sterken).
4. Why do Japanese firms prefer multiple bank relationship? *Economic Systems*, Vol.31, No.1, 2007,

- 49-70, (with Kazuo Ogawa and Elmer Sterken).
5. Quadrilateral market dependence, *Journal of Policy Modeling*, Vol.24, No.2, 2002, 119-150.
 6. The flow-of-funds equations of Japanese nonfinancial firms, *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol.8, No.1, 1994, 72-105, (with Kazuo Ogawa and Mitsuo Saito).
 7. Price-endogenized input-output model, *Economic Systems Research*, Vol.6, No.4, 1994, 323-345.
 8. The cost of capital to corporations in Japan and the U.S.A., *Journal of Banking and Finance*, Vol.11, No.2, 1987, 313-327, (with Irwin Friend).

【3】 その他海外論文

1. Multiple bank relationships and the main bank system, in Calcagnini, G. and E. Saltari(eds.), *The Economics of Imperfect Markets*, Heidelberg: Springer-Verlag, 2009, 73-90, (with Kazuo Ogawa and Elmer Sterken).
2. Dynamic properties of an asset market model, in Klein, L.R. (ed.), *Studies in Economic Dynamics*, Singapore: World Scientific Publishing Co., 1995, 1-14, (with Kazuo Ogawa and Mitsuo Saito).
3. The flow-of-funds equations of Japanese banks, in Dutta, M. A. (ed.), *Economics, Econometrics, and the Link*, Amsterdam: North-Holland Publishing Co., 1995, 469-493, (with Mitsuo Saito and Kazuo Ogawa).
4. Technological trends in the pacific basin, in Chiang, Y. K. and L. R. Klein (eds.), *Economic Development of ROC and the Pacific Rim in the 1990s and Beyond*, Singapore: World Scientific Publishing Co., 1994, 243-272, (with Mitsuo Saito).
5. Il livello tecnologico del settore manifatturiero: una comparazione internazionale, *Dirrito ed Economia* 12, no.1-2(Gennaio/Agosto 1994), 297-339, (con Mitsuo Saito).
6. An international comparison of the multi- sectoral production structure of the United States, West Germany, and Japan, in Hickman, B. G. (ed.), *International Productivity and Competitiveness*, New York: Oxford University Press, 1992, 177-202, (with Mitsuo Saito).

【3】 主要所属学会

1. Econometric society
2. International input output association
3. 日本経済学会
4. 日本統計学会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(C), 「国際的生産ネットワークに関する理論的・実証的研究」, 2011-2013 年度
2. 科学研究費補助金：基盤研究(C)2, 「国際産業連関表に基づく国際貿易構造の理論的・実証的研究」, 2002-2003 年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. 客員教授(Gast Professor), マールブルグ大学経済学部, 1998 年 4 月-1998 年 8 月

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 欧州金融危機と技術革新:欧州企業のパネルデータによる実証研究, 科学研究費補助金, 基盤研究(B) (研究代表者: 大阪大学社会経済研究所, 小川一夫) の研究分担者

【10】 社会活動・実務経験

なし

25. ^{みや}三矢 ^{ひろし}裕

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2001年）

生年 1966年

学歴

1990年3月 神戸大学経営学部卒業

1995年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2001年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1990年4月 川崎製鉄株式会社入社

1993年3月 川崎製鉄株式会社退社

1997年4月 学習院大学経済学部専任講師

2000年4月 学習院大学経済学部助教授

2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 経営学入門，研究指導

大学院（一般）定性的方法論研究，管理会計特論，
演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学演習，マネジメント・コ
ントロール応用研究

学内役職

専門職大学院教務委員（2013年4月-2014年3月）

経営学研究科会計システム専攻長（2009年4月-2011
年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『アメーバ経営学：理論と実証』，KCCS マネジ

メントコンサルティング，2010年，（アメーバ経営
学術研究会と共著）。

2. 『アメーバ経営論：ミニ・プロフィットセンター
のメカニズムと導入』，東洋経済新報社，2003年。

3. 『アメーバ経営が会社を変える：やる気を引き出
す小集団部門別採算制度』，ダイヤモンド社，1999
年，（加護野忠男，谷武幸と共著）（中国語・韓国
語版あり）。

（他著書2編）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「従業員によるジョブ・クラフティングがもた
らす動機づけ効果-職務の自律性との関係に注
目して-」，『日本労務学会誌』，第16巻2号，
2016年，（森永雄太，鈴木竜太と共著）。

2. 「フィードバック情報が作業パフォーマンス
に与える影響- Need for Cognition を用いた実
験的検討-」，『原価計算研究』，第37巻1号，
2013年，29-39，（日置孝一，末松栄一郎と共著）。

3. 「経理シェアードサービスの導入成果：経験的な
検証」，『管理会計学』，第19巻2号，35-46，2011
年，（新井康平，大浦啓輔，岡崎路易と共著）。

4. 「シェアードサービスの実態調査：経理・財務部
門におけるシェアードサービスの導入状況」，『原
価計算研究』，第35巻2号，2011年，85-98，（岡
崎路易と共著）。

5. 「新須磨病院整形外科における BSC 導入につ
いての時系列分析：アクションリサーチとエンピ
リカルリサーチの統合アプローチ」，『原価計算研
究』，第29巻，第1号，2005年，（松尾貴巳，谷
武幸と共著）。（他論文2編）

3. その他国内論文

1. 「震災復興に向けてのマネジメント・コントロー
ル：東日本大震災におけるオムロンの事例研究」，
『原価計算研究』，第39巻1号，2015年，11-21，
（岡崎路易 藤本茂樹と共著）。

2. 「管理会計研究と相対的業績評価」，『国民経済雑
誌』，第212巻，第3号，2015年，1-27。（小笠
原亨，早川翔との共著）。

3. 「マネジメント・コントロール・パッケージのサ
ーベイ研究における現状と課題：Levers of
Control フレームワークに関する文献研究」，『国

民経済雑誌』, 第 208 卷, 第 2 号, 2013 年, 67-89.
(佐久間智広, 劉美玲との共著).

4. 「日次決算導入がもたらす組織行動への影響: 株式会社ドンクにおけるアクションリサーチ」, 『原価計算研究』, 第 31 卷 1 号, 2007 年, 1-13.
5. 「細部のこだわりと人材育成: 中国へのアメーバ経営導入プロセスアクションリサーチから」, 『国民経済雑誌』, 第 194 卷, 第 1 号, 2006 年, 81-94.
(劉建英, 加護野忠男との共著).
6. 「管理会計システムの導入の研究手法: トライアンギュレーションとアクションリサーチの有効性」, 『会計』, 第 161 卷, 第 5 号, 2002 年, 96-109.
(他論文 10 編、翻訳 1 編、事典項目執筆 8 項目)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Japanese Micro-profit Center: A Case Study of the Amoeba System at Kyocera Corporation, in Y. Monden (eds.), *Value-based Management of the Rising Sun*, 2006, 235-246.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本原価計算学会
3. American Accounting Association

【4】 学会における活動

1. 理事: 日本原価計算学会, 日本知的資産経営学会
2. 編集委員: 日本管理会計学会誌編集委員, 日本知的資産経営学会編集委員, 日本原価計算研究学会編集委員
3. レフェリー: 国民経済雑誌, 原価計算研究, 管理会計学, メルコ管理会計研究

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本原価計算研究学会・論文賞 (2007 年)
2. 日本会計研究学会太田・黒澤賞 (2004 年)
3. 日本原価計算研究学会・著作賞 (2004 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(B), 「災害復興時の財務と非財務情報の役割: 阪神と東日本大震災の経験的研究」, 2012-2014 年度.
2. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「アメーバ経営の導入に関する実証的研究」, 2009-2011 年度.
3. メルコ学術振興財団国際交流助成金, 2009 年.
(文部科学省科学研究費 他 2 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Associate Researcher: Paul Merage School of Business, University of California, Irvine, U. S. A.
(2006-2008 年)

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. The Effects of Massive Environmental Uncertainty on Management Control Systems* A Field Study in the Great East Japan Earthquake, Asia Pacific Conference on International Accounting Issues : Indonesia, November 2013, (jointly presented with Rui Okazaki and Ikuko Sasaki)

【9】 現在の研究活動

1. アメーバ経営の導入
2. インセンティブと業績評価の関係
3. マネジメント・コントロール・パッケージ
4. 災害復興
5. 伝統産業の復興

【10】 社会活動・実務経験

1. 現代経営学研究所常務理事
2. アメーバ経営学術研究会委員長
3. 公認会計士試験委員
4. 企業への日次決算システムの導入実践
5. 大阪市会計システム導入に関する委員
6. 川崎製鉄株式会社での経理業務 (1990-1993 年)

26. 音川 和久

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1997年）

生年 1969年

学歴

1992年3月 神戸大学経営学部卒業
1994年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1997年4月 大阪府立大学経済学部講師
2000年4月 大阪府立大学経済学部助教授
2001年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2009年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国語講読，初級簿記，商業簿記Ⅰ，研究
指導
大学院（一般）財務会計特論，演習
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）なし

学内役職

経営学研究科会計システム専攻長（2011年4月-2012
年3月）
経営学研究科会計学科長（2012年4月-2013年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『会計情報のファンダメンタル分析』，中央経済社，2013年，（桜井久勝と共編著）。
- 『投資家行動の実証分析—マーケット・マイクロストラクチャーに基づく会計学研究—』，中央経済社，2009年。

- 『在阪企業の活性化に関する多角的研究』，大阪府立大学経営研究叢書，2002年，（上野恭裕，近藤真司，山下竜一と共著）。
- 『会計方針と株式市場』，千倉書房，1999年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「利益発表と投資家の株式売買行動」、『経営財務研究』，第28巻，第2号，2008年，2-16，（若林公美と共著）。
- 「Do Japanese Firms Manage Earnings in Response to Tax Reductions in the Late 1990s?」、『管理会計学』，第16巻，第1号，2008年，41-59，（山下裕企と共著）。

3. その他国内論文

- 「ビッグ・データを用いた実証的会計学研究の拡張可能性」、『会計』，第187巻，第5号，2015年，1-11。
- 「公正価値測定のリスク」、『国民経済雑誌』，第211巻，第5号，2015年，59-71。
- 「決算発表に対する出来高反応—日中取引データを用いた実証分析—」、『会計』，第186巻，第3号，2014年，80-92，（森脇敏雄との共著）。
- 「CSR 活動と会計利益の質の関連性」、『国民経済雑誌』，第210巻，第1号，2014年，55-67，（中島隆広との共著）。
- 「倒産企業の会計操作と証券市場」、『現代ディスクロージャー研究』，第13号，2013年，97-107，（石川博行との共著）。
- 「市場の効率性とマイクロストラクチャー」、『会計情報の有用性』，中央経済社，2013年，123-162。
- 「IFRS の新概念フレームワークと会計利益の特性」、『国際会計研究学会年報』，第32号，2013年，53-67。
- 「銀行における市場リスク情報の開示実態」、『国民経済雑誌』，第207巻，第5号，2013年，33-49，（山口友作との共著）。
- 「設備投資と将来業績の実証的関連性」、『会計』，第182巻，第4号，2012年，92-106，（内川正夫との共著）。
- 「国際会計基準適用会社の事例分析」、『季刊ビジネス・インサイト』，第20巻，第3号，2012年，4-10。
- 「会計アノマリーの研究」『企業会計』2012年，第64巻第8号，93-96頁。

(他, 論文 37 編, 書評 5 編, 翻訳 1 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. European Accounting Association
3. 日本会計研究学会
4. 国際会計研究学会
5. 日本ディスクロージャー研究学会
6. 日本経営財務研究学会
7. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：日本会計研究学会（2006-2012年）
2. 理事：日本ディスクロージャー研究学会（2008年-現在）
3. 評議員：日本会計研究学会（2012年-現在）
4. 編集委員：日本ディスクロージャー研究学会（2008-2012年, 2015年-現在）
5. レフェリー：ビジネス・インサイト, 経営財務研究, 会計プロGRESS, 現代ディスクロージャー研究, 管理会計学

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 国際会計研究学会・学会賞（2013年9月）
2. 日本会計研究学会・太田・黒澤賞（2009年9月）
3. 日本管理会計学会・論文賞（2008年8月）
4. 日本会計研究学会・学会賞（2003年9月）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 日本学術振興会科学研究費: 基盤研究(C), 「ビッグデータを活用した会計情報の有用性に関する実証研究」, 2014-2016年度.
2. 日本学術振興会科学研究費: 基盤研究(B), 「国際財務報告基準(IFRS)時代の財務報告の質に関する実証的評価」, 2011-2013年度.
3. 日本学術振興会科学研究費: 基盤研究(C), 「会社法・金融商品取引法における財務報告と投資家行動に関する実証研究」, 2008-2010年度.
4. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「会計利益の諸特性と証券市場における経済的帰結に関する実証研究」, 2004-2006年度.
5. 澤村正鹿学術奨励基金, 「企業の財務報告と証券市場の非対称情報に関する実証研究」, 2002年度.
6. 文部科学省科学研究費: 奨励研究(A), 「新興企業向け証券市場における会計・監査問題に関する研究」, 2001-2002年度.
7. (財)全国銀行学術研究振興財団, 「新興企業向け証券市場における会計・監査問題」, 2000年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: University of Washington (2003年8月-2004年5月)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Changes in Earnings Synchronicity over the Last 30 Years: Evidence from Japan, 38th Annual Congress of European Accounting Association, Scottish Exhibition and Congress Centre: Glasgow, UK, April 2015, (jointly presented with Hiromi Wakabayashi).

【9】 現在の研究活動

1. 会計情報と投資家行動に関する実証研究
2. 会計情報のファンダメンタル分析

【10】 社会活動・実務経験

1. 金融庁・公認会計士試験・試験委員（2011年-現在）
2. 日本証券業協会・JSDA キャピタルマーケットフォーラム・研究委員（2013年-現在）
3. 日本証券アナリスト協会・証券アナリスト試験・試験委員会委員（2014年-現在）
4. 非常勤講師：大阪府立大学（2001-2002年）

まつおたかみ
27. 松尾 貴巳

職名 教授

学位 修士（経済学）（大阪府立大学）（1991年）
博士（経営学）（神戸大学）（2010年）

生年 1965年

学歴

1989年3月 神戸商科大学商経学部
（現：兵庫県立大学経営学部）卒業
1991年3月 大阪府立大学大学院経済学研究科博士
前期課程修了

職歴

1991年4月 株式会社三菱総合研究所 入社
1992年4月 同 副研究員
1997年4月 同 研究員
1998年9月 同 経営コンサルティング部
経営システム研究室 退職
1998年10月 大阪府立大学経済学部助教授
2004年1月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2011年1月 神戸大学大学院経営学研究科教授
2013年10月 神戸大学社会科学系教育研究府教授
（兼任 経営学研究科教授）

担当科目（2013-2015年度）

学部 研究指導，管理会計，
大学院（一般）演習，
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）マネジメントコントロール応用研究，
現代経営学応用研究（医療マネジメント）

学内役職

学部教務員（2010年4月-2011年3月）
会計学科長（2013年4月-2015年3月）
社会科学系教育研究府 副研究府長（2013年10月-
現在）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『大阪版市場化テストを検証する』，中央経済社，
2014年，（光多長温と共著）。
- 『管理会計研究のフロンティア』，中央経済社，
2010年，（加登豊，梶原武久と共著）
- 『自治体の業績管理システム』，中央経済社，2009
年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「自由裁量費のコスト・ビヘイビアがCVP分析
に与える影響-回帰分析による固定費推定の問
題-」『会計プロGRESS』，第15号，2014年，26-37，
（福嶋誠宜，新井康平と共著）。
- 「医療組織の業績管理における非財務情報の補
完的効果-探索的研究-」『原価計算研究』37(2)
2012:66-74. (藤原靖成との共著)
- 「顧客別コストビヘイビアに基づくABC導入
効果の検証」，『会計プロGRESS』，第10号，2009
年，1-15，（大浦啓輔，新井康平と共著）。
（他論文5編）

3. その他国内論文

- 「自治体における事業企画の分権化と業績管
理-北上市における震災復興支援の事例-」単著
『国民経済雑誌』209（5）2014：31-44。
（他論文25編）

【2】 海外出版

1. 著書

- Management of Service Businesses In Japan 共編
著（単著部分 Part2, pp. 97-116.）Yasuhiro
Monden, Noriyuki Imai, Takami Matsuo, Naoya
Yamaguchi World Scientific Publishing 2012.10

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Are Changes Effective in Performance Management?
An Analysis of Japanese Agencies, Yetano, A., T.
Matsuo, *International Journal of Public
Administration*, 38, 2015:573-585.

2. Voluntary Implementation of Performance Measures: The Case of Japanese Local Government, Torres, L., T. Matsuo, and V. Pina, *China-USA Business Review*, 11(11), 2012, 1450-1459.

1. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本原価計算研究学会
3. 日本管理会計学会
4. 国際公会計学会
5. EAA (ヨーロッパ会計学会)

【4】 学会における活動

1. 日本原価計算研究学会 学会誌『原価計算研究』副編集委員長 (2012年-現在)
2. 日本原価計算研究学会 副会長 (2012年-現在)
3. 理事: 日本原価計算研究学会 (2012年-現在)
4. 日本会計研究学会 評議員 (2012年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本原価計算研究学会: 論文賞 (2007年)
2. 日本管理会計学会: 文献賞 (2009年)
3. 日本原価計算研究学会: 学会賞 (2009年)
4. 国際公会計学会: 学会賞 (2009年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費: 基盤研究(C), 「独立行政法人における業績管理システムの有効活用に関する研究」2013-2015年度.
2. 文部省科学研究費: 基盤研究(C), 「自治体における相対的業績評価情報の有用性に関する研究」, 2010-2012年度.
3. 文部科学省 平成20年度大学改革推進等補助金 大学教育の国際化加速プログラム(海外先進教育研究実践支援; 研究実践型)「非営利組織経営管理の研究・教育の高度化」, 2007年.
4. 文部省科学研究費: 基盤研究(C), 「パブリック・セクターにおける業績管理システムの導入研究」, 2006-2007年度.

5. 文部省科学研究費: 奨励研究(A), 「事業部門業績管理における活動基準原価計算およびバランススコアカードに関する研究」, 2001-2002年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Gothenburg 大学 (Sweden), 2008年6月-10月
2. Zaragoza 大学 (Spain), 2008年10月-2009年3月
ともに, 客員研究員

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. “When are Changes Effective in Performance Management? The Case of the Japanese Agencies” the 7th APIRA Conference 27th July, 2013 (jointly presented with Ana Yetano).

【9】 現在の研究活動

1. 地方自治体組織において近年導入・整備が進められてきた業績管理システムについて、管理会計システムの導入研究の観点から導入上の促進・阻害要因、導入効果を検討している。
2. わが国公会計制度の特徴について、国際的な比較研究に基づき検討している。

【10】 社会活動・実務経験

1. 金融庁 公認会計士・監査審査会 試験委員 (2009-2012年)
2. 地方独立行政法人 神戸市立市民病院機構評価委員会 委員 (2011年-現在)
3. 奈良県公の施設指定管理者選定審査会 会長 (2014年度)
4. 伊丹市行財政改革推進審議会 会長 (2014年-現在)
5. 大阪版市場化テスト対象業務モニタリング委員会 委員長 (2014年-現在)
6. 八尾市行政経営アドバイザー (2010年-現在)
7. 神戸市行財政改善懇談会 委員 (2009年-現在)
8. 地方独立行政法人神戸市立市民病院機構評価委員会 委員 (2008年-現在)
9. ㈱三菱総合研究所 客員研究員 (2001-2009年)
10. ㈱三菱総合研究所 社員として就業 (1991-1998年)

うちだひろふみ
28. 内田 浩史

職名 教授

学位 博士(経済学) (大阪大学) (1999年)

生年 1970年

学歴

1993年3月 大阪大学経済学部経済学科卒業
1995年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了
1996年9月 大阪大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1996年9月 京都大学経済研究所講師
(研究機関研究員)
1997年4月 和歌山大学経済学部助手
1998年4月 和歌山大学経済学部講師
2000年4月 和歌山大学経済学部准教授
2003年8月 米国インディアナ大学ケリースクール
オブビジネス客員研究員
(フルブライト研究員)
2009年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2011年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 金融機関, 経営学入門, 神戸大学の研究最
前線, 演習
大学院 (一般) ファイナンス特殊研究 (金融システ
ム), ファイナンス特殊研究 (金融
機関)
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) 演習

学内役職

学部教務委員 (2013年4月-2014年3月)
学科長 (2015年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『金融機能と銀行業の経済分析』, 日本経済新聞
出版社, 2010年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「大震災と企業行動のダイナミクス」, 『経済研
究』2013年, vol. 64, pp.97-118. (植杉威一郎,
内野泰助, 小野有人, 間真実, 細野薫, 宮川大介
と共著)
2. 「経済学的視点から見た二重債務問題—企業の
問題を中心に—」, 『金融経済研究 (日本金融学
会,)』2012年, 1-27, (植杉威一郎, 小野有人, 細
野薫, 宮川大介と共著).
3. 「企業間信用の機能」, 『現代ファイナンス』,
2011年, No.29, 3-48. (他1編)

3. その他国内論文

1. 「企業の環境変化と金融機関のあり方: 日本の
企業ファイナンスに関する実態調査 (2014年)
の結果概要」『経営研究』(神戸大学大学院経営
学研究科) 2015年, No.61, pp.1-65. (小倉義明,
筒井義郎, 根本忠宣, 家森信善, 神吉正三, 渡
部和孝と共著)
2. 「大震災と企業行動・企業金融」『震災と経済 (日
本学術振興会 東日本大震災学術調査報告書 第
4巻)』, 東洋経済新報社, 2015年, 第6章. (植
杉威一郎, 小野有人, 細野薫, 宮川大介と共著)
(他多数)

【2】 海外出版

1. 著書

1. Interfirm Relationships and Trade Credit in Japan:
Evidence from Micro-Data, Springer, 2015. (with A.
Ono, S. Kozuka, M. Hazama, I. Uesugi)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The Repository of Soft Information within Bank
Organizations, *Journal of Money, Credit and
Banking*, 2015, Vol.47, pp.730-770. (with M. Hattori
and K. Shintani)
2. Bank Consolidation and Soft Information Acquisition

in Small Business Lending, *Journal of Financial Services Research*, 2014, vol. 49, pp. 173-200. (with Y. Ogura)

3. Firm Growth and Efficiency in the Banking Industry: A New Test of the Efficient Structure Hypothesis, *Journal of Banking and Finance*, 2014, vol. 40, pp. 143-153. (with T. Homma and Y. Tsutsui)
4. Are Trade Creditors Relationship Lenders, *Japan and the World Economy*, 2013, vol.25-26, pp.24-38. (with G. Udell and W. Watanabe)
5. Loan Officers and Relationship Lending to SMEs, *Journal of Financial Intermediation*, 2012, vol.21, No.1, pp.97-122. (with G. Udell and N. Yamori) (他 12 編)

3. その他海外論文

1. Banking in Japan, in A Berger, P. Molyneux and J Wilson eds, *Oxford Handbook of Banking*, 2014, 2nd edition, Ch. 36, pp.873-912. (with G. Udell) (他 2 編)

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. 日本ファイナンス学会
4. 行動経済学会
5. American Finance Association
6. American Economic Association
7. Financial Management Association
8. European Finance Association

【4】 学会における活動

1. 雑誌編集委員：FSA リサーチレビュー（金融庁金融経済研究センター）（2014年1-3月）
2. 雑誌編集委員：FSA リサーチレビュー（金融庁金融経済研究センター）（2013年1-3月）
3. 雑誌編集委員：Journal of Money, Credit and Banking（2012年7月-現在）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 中小企業研究奨励賞 経済部門 本賞, 商工総合研究所, 2009年度『検証 中小企業金融「根拠なき通説」の実証分析』, (渡辺努・植杉威一郎

編著, 内田 2008「リレーションシップバンキングは中小企業の万能薬か」所収).

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金, 基盤研究(B)「日本の企業ファイナンスに関する実態分析: 企業の環境変化と金融機関のあり方」, 2012-2015年度.
2. 科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究「教育学・心理学・社会学的視点を導入した, 教育の経済学への新しいアプローチ」, 2011-2013年度. (他 1 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Foreign Visiting Scholar, Kelley School of Business, Indiana University, U.S., 2007.
2. Foreign Visiting Scholar, Kelley School of Business, Indiana University, 2005.
3. Foreign Visiting Scholar, Kelley School of Business, Indiana University (Fulbright scholar), 2003-2004.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. American Finance Association: Lending Pro-Cyclicality and Macro-Prudential Policy: Evidence from Japanese LTV Ratios Boston: 米国 January 2015.
2. The 3rd MoFiR Workshop on Banking Lending Pro-Cyclicality and Macro-Prudential Policy: Evidence from Japanese LTV Ratios Ancona, Italy, June 2014. (他 2 件)

【9】 現在の研究活動

1. 銀行貸出の経済分析
2. 企業間信用の分析
3. 大震災と企業活動企業, 金融

【10】 社会活動・実務経験

1. 独立行政法人経済産業研究所『企業金融・企業行動ダイナミクス研究会』委員(2013年6月-現在).
2. 独立行政法人経済産業研究所『金融・産業構造の変化に関する研究会』委員(2006年4月-2013年3月).

すずきかずみ
29. 鈴木一水

職名 教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2012年)

生年 1959年

学歴

1984年3月 神戸大学経営学部卒業
1987年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1990年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程単位修得退学

職歴

1984年4月 前田公認会計士事務所会計士補
1990年4月 鈴木公認会計士事務所公認会計士
1991年4月 近畿大学商経学部講師
1994年4月 近畿大学商経学部助教授
1995年4月 神戸大学経営学部助教授
1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2012年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学部 税務会計, 研究指導, 経営学入門
大学院(一般) 会計制度特論, 演習
大学院(GMAP/SESAMI) なし
大学院(MBA) 現代経営学演習, 会計制度応用研究

学内役職

副研究科長 (2012年4月-2013年3月)
経営学専攻長 (2014年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

- 『税務会計分析—税務計画と税務計算の統合—』, 森山書店, 2013年.
- 『国際会計基準と日本の会計実務 [三訂版]』, 同

文館出版, 2009年, (古賀智敏, 國部克彦, あずさ監査法人と共著).

- 『連結会計入門』, 中央経済社, 2009年, (広瀬義州他と共著).
- 『日本の企業会計の形成過程』, 中央経済社, 1994年, (山地秀俊, 梶原晃, 松本祥尚と共著).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「税制改正大綱における法人税制」, 『税研』, 第31巻第1号, 2015年, 52-57.
- 「課税所得計算の基礎としての利益」, 『国民経済雑誌』, 第211巻第5号, 2015年, 73-86.
- 「会計基準の多様化に伴う損金問題」, 『会計』, 第187巻第3号, 2015年, 16-29.
- 「公正処理基準の再検討」, 『税務会計研究』, 第25号, 2014年, 175-193. 坂本雅士, 藤井誠, 上松公雄と共著.
- 「繰延税金資産の会計処理の見直しの背景と課題」, 『企業会計』, 第66巻第5号, 2014年, 105-111.
- 「単体財務諸表の役割」, 『産業経理』, 第73巻第4号, 2014年, 26-36.
- 「税務会計における複式簿記の限界」, 『商経学叢(近畿大学)』, 第59巻第1号, 2012年, 79-89.
- 「課税ベース—別段の定め—の視点から」, 『税務会計研究』, 第23号, 2012年, 39-52.
- 「損失をめぐる企業会計と税制の関係」, 『税研』, 第27巻第2号, 2011年, 39-45.
- 「IFRS導入が与える法人税制への影響」, 『税経通信』, 第66巻第11号, 2011年, 35-44.
- 「課税所得計算における資産負債アプローチと収益費用アプローチの交錯」, 『国民経済雑誌』, 第204巻第1号, 2011年, 41-55.
- 「報告利益の属性変化が監査業務に及ぼす影響」, 『現代監査』, 第21号, 2011年, 27-35.
- 『会計とコントロールの理論』, 勁草書房, 1998年, (山地秀俊, 梶原晃, 松本祥尚と共訳). (他学術論文77編, 解説・書評等31編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Students' major choice in accounting and its effect on their self-efficacy towards generic skills: An Australian study, *Asian Review of Accounting*, Vol.18, No.2, 2010, 131-147. with Satoshi Sugahara and Gregory Boland.

3. その他海外論文

1. Trade-off between tax and nontax costs in executive compensation contract in Japan, *Proceedings of International Conference of Business, Economics, and Information Technology*, 2014.
2. Emerging Process of Accounting Practices in Japan in the Dimension of Accounting Standards, *12th World Congress of Accounting Historians, Congress Proceedings*, Vol. II, 2008, 1703-1710.
3. Emerging Process of Accounting Practices in Japan, *Proceedings of International Conference on Business, Economics, and International Technology Hanoi*, 2008, 291-294.
4. Corporate Groups and Their Auditors, in Shyam Sunder and Hidetoshi Yamaji (eds.), *The Japanese Style of Business Accounting*, Quorum Books, 1999, 69-96.
5. Relationship between Corporate Groups and Auditors in Japan, *The Cooperation Strategy of Korean and Japanese Firms in the Era of Globalization*, 1995, 121-144.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 税務会計研究学会
3. 日本監査研究学会
4. European Accounting Association
5. American Accounting Association
6. American Taxation Association

【4】 学会における活動

1. 理事：税務会計研究学会（1998年-現在）
2. 評議員：日本会計研究学会（2009年-現在）
3. 雑誌編集委員：日本会計研究学会（2012年-現在）

4. 雑誌レフェリー：国際会計研究学会，中小企業会計学会，Asian Review of Accounting

【5】 学会賞等の受賞歴

第42回日本公認会計士協会学術賞，2014年。

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B)「課税所得計算における『一般に公正妥当と認められる会計処理の基準』に関する研究」，2014-2016年度。
2. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C)「報告利益と課税所得の質の比較に関する研究」，2010-2012年度。

(他5件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Australian National University, 2003-2004.
2. Visiting Scholar: University of Texas at Austin, 1999-2001.

【8】 国際学会での発表状況（過去3年間）

1. Trade-off between tax and nontax costs in executive compensation contract in Japan, *International Conference of Business, Economics, and Information Technology*, 2014, Taipei.

【9】 現在の研究活動

1. 税務計画コストとコーポレートガバナンスとの関係の分析
2. 課税所得計算の基礎となる「一般に公正妥当と認められる会計処理の基準」に関する研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 納税協会連合会「税に関する論文」選考委員（2015年-現在）
2. 税理士試験試験委員（2014年-現在）
3. 財務会計基準機構基準諮問会議委員（2012年-現在）
4. 公認会計士試験試験委員（2008-2011年度）

30. 栗木 契

職名 教授

学位 博士（商学）（神戸大学）（1997年）

生年 1966年

学歴

1991年3月 神戸大学経営学部卒業

1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1997年4月 岡山大学経済学部講師

1999年4月 岡山大学経済学部助教授

2003年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

2012年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 マーケティング，研究指導，経営学入門

大学院（一般）定性的方法論研究，演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学演習，マーケティング応
用研究

学内役職

学部教務委員（2011年4月-2012年3月）

MBA教務委員（2015年4月-現在）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『明日はビジョンで拓かれる』，碩学舎，2015年．（石井淳蔵，清水信年，西川英彦，横田浩一，福井誠と共著）

2. 『ゼミナール・マーケティング入門（第2版）』，日本経済新聞出版社，2013年（石井淳蔵，嶋口充輝，余田拓郎と共著）

3. 『ビジョナリー・マーケティング Think

Different な会社たち』，碩学舎，2013年（岩田弘三，矢崎和彦と共著）

4. 『マーケティング・コンセプトを問い直す』，有斐閣，2012年．

5. 『マーケティング・リフレーミング』，有斐閣，2012年，（水越康介，吉田満梨と共著）．

6. 『売れる仕掛けはこうしてつくる』，日本経済新聞社，2006年，（余田拓郎，清水信年と共編著）．

7. 『リフレクティブ・フロー：マーケティング・コミュニケーション理論の新しい可能性』，白桃書房，2003年．

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「インターネットに見出した市場機会：ライフネット生命株式会社」，『マーケティングジャーナル』，第132号（第33巻4号），（佐々木一郎と共著）

2. How Do Companies Use It? In Search of the Typology of the Company Websites for Marketing in Japan, *Journal of Information and Management*, Vol.32, No.2, 2012年, 77-88, （Kosuke Mizukoshiと共著）．

3. 「企業ウェブサイトのグローバル・サイクル：比較事例分析による探索」，『マーケティングジャーナル』，第121号（第31巻1号），2011年，64-79，（岸谷和彦，西川英彦，水越康介と共著）．

4. 「日本企業に見るウェブサイトのマーケティング利用」，『マーケティングジャーナル』，第29巻，第1号，2009年，45-61，（水越康介，宮本次郎と共著）．

5. 「構築主義の視角によるマーケティング・リサーチ再考ーマーケティングにおける質的リサーチの有効性ー」，『流通研究』，Vol.10, No.3, 2008年，1-18，（後編）．『流通研究』，Vol.10, No.1・2, 2007年，29-43，（前編）．

3. その他国内論文

1. 「日本家電がアジアでヒット現地化の新潮流」，『プレジデント』，2015.2.2号，2015年，95-97．

2. 「web空間の“ハブ”として機能させるオウンドメディア」，『宣伝会議』，2014年11月号（877号），2014年，22-24．

3. 「コニカミノルタヨーロッパにおけるカラー複合機の躍進」，『一橋ビジネスレビュー』，62巻1号，2014年，120-134（渡辺紗理奈と共著）

4. 「ウェザーニューズ式高収益体質のつくり方」, 『プレジデント』, 2014年3.31号, 2014年, 151-153.
5. 「シスメックス」, 『一橋ビジネスレビュー』 2014年, 61巻4号 106-121. (延岡健太郎, 藤井誠と共著)
6. 実践としての顧客志向のジレンマ」, 『一橋ビジネスレビュー』, 61巻4号, 2014年, 46-55. (他49編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本商業学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. 日本マーケティング学会
4. 組織学会
5. American Marketing Association

【4】 学会における活動

1. 理事：日本商業学会（2008-2010年, 2014-現在）
2. 理事：日本消費者行動研究学会（2014-現在）
3. 理事：日本マーケティング学会（2012-現在）
4. レフェリー：流通研究, 消費者行動研究, 一橋ビジネスレビュー
5. 編集委員：国民経済雑誌（2013-2014年）, 一橋ビジネスレビュー（2015-現在）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本商業学会 優秀論文賞, 2009年度
2. 電気通信普及財団・第18回・テレコム社会科学賞・奨励賞, 2002年度
3. マーケティングジャーナル 2000年度代表論文

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金：基盤(B), 「ソーシャルメディアにおけるリーチと行動と形成のトレードオフに関する実証研究」, 2014-2017年度.
2. 文部科学省科学研究費補助金：基盤(B), 「企業のウェブサイトのグローバル・マネジメントに関する実証研究」, 2010-2013年度.
3. 吉田秀雄記念事業財団研究助成, 2011-2012年度
4. 村田学術振興財団研究助成（2009年）(他4件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Research fellow of the Asian Productivity Organization (2007-2008年)
2. Visiting Scholar of Temple University (2005年, 2013年)

【8】 国際学会での発表状況（過去3年間）

なし

【9】 現在の研究活動

1. マーケティング活動が市場の潜在性を活性化するプロセス, およびそのデザイン枠組みに関する理論研究, 実証研究.
2. 日本企業によるウェブサイトのマーケティング利用に関する理論研究, 実証研究.

【10】 社会活動・実務経験

1. 神戸2020ビジョン策定に向けた有識者会議委員（神戸市）(2015年-現在)
2. 神戸市上下水道事業審議会臨時委員（2014-2016年）
3. 兵庫県「五つ星ひょうご」選定委員会委員長（2013-2015）
4. 神戸市六甲摩耶活性化コンソーシアム副座長（2013-現在）
5. 関西生産性本部, KPC マネジメント・スクール, コース・コーディネーター（2009-現在）
6. 日本マーケティング協会, マーケティング・マスター・コース関西, アカデミック・アドバイザー（2001-2004年, 2006-現在）

(他3件)

すずきりゅうた
31. 鈴木 竜太

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（1999年）

生年 1971年

学歴

1994年3月 神戸大学経営学部卒業
1996年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
1999年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1997年4月 静岡県立大学経営情報学部助手
2001年4月 静岡県立大学経営情報学部専任講師
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2013年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 経営管理，研究指導
大学院（一般）サーベイリサーチ法特殊研究，経営
管理特論，演習
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）なし

学内役職

入試学生委員会（2014年4月-2015年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

- 『関わりあう職場のマネジメント』，有斐閣，2013年.
- 『キャリアで語る経営組織』，有斐閣アルマ，2010年，（稲葉祐之，井上達彦，山下勝と共著）.
- 『自律する組織人：組織コミットメントとキャリ

ア論からの展望』，生産性出版，2007年.

- 『組織と個人：キャリア発達と組織コミットメントの変化』，白桃書房，2002年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「従業員によるジョブ・クラフティングがもたらす動機付け効果：職務の自律性との関係に注目して」，『日本労務学会誌』掲載予定（森永雄太，三矢裕との共著）.
- 「相互依存的な職務設計と動機づけの関係」，『組織科学』，2012年，第46巻，第2号。（服部泰宏，森永雄太，麓仁美と共著）
- 「業績評価指標と仕事の合致が営業職の業績に与える影響：従業員の認知的側面に注目して」，『原価計算研究』，2011年，Vol.35，No.2，26-37，（森永雄太，在間英之と共著）.
- 「組織文化と組織コミットメントの関係に関する実証研究：クロスレベル分析を通じて」，『組織科学』，第41巻，2007年，106-116，（北居明と共著）.
- 「30代ホワイトカラーのキャリア・マネジメントに関する実証研究：ミスト＝ドリフト・マトリクスの視点から」，『経営行動科学』，第20巻，第3号，2007年，301-316，（加藤一郎と共著）.
（他3編）

3. その他国内論文

- 「組織内キャリア発達における中期のキャリア課題」，『日本労働研究雑誌』，第56巻，第12号，2014年，35-44.
- 「学習をもたらす職場：情報の開放性と職場の凝集性の学習行動への影響」，『組織科学』，第48巻，第2号，2014年，16-27.
- 「仕事における時間意識が支援行動に与える影響に関する実証分析」，『国民経済雑誌』，第208巻，第1号，2013年，77-90。（北居明との共著）.
- 「組織における公共性のマネジメントに関する一考察：職場コミュニティがもたらす秩序と協働」，『国民経済雑誌』，第204巻，第2号，2011年，51-80.
- 「職場における創意工夫のマネジメント：関わり合う集団の研究開発者の進取的行動への影響に関するクロスレベル分析」，『組織科学』，第44巻，第4号，2011年，26-37.
- 「Managing employees' citizenship behaviors at

workplaces: Group level effects of interdependence and autonomy on OCB」, 『神戸大学大学院経営学研究科ディスカッションペーパー』, 2011・15, 2011年, (Akira Kitai と共著).

7. 「Knowledge combination and value-creation mechanism under the Japanese-style career system」, 『Japan Labor Review』, Vol.6, No.3, 2009年, (Mitsutoshi Hirano, Yasuhiko Uchida と共著). (他 22 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “Career “Mist,” “Hope,” and “Drift”: Conceptual Framework for Understanding Career Development in Japan”, *Career Development Journal*, Vol.11, No.3, 2006, 265-276, (with Ichiro Kato).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 経営行動科学学会
3. 日本経営学会
4. Academy of Management

【4】 学会における活動

1. 監事：経営行動科学学会 (2004-2008年)
2. レフェリー：組織学会, 経営行動科学学会, 産業組織心理学会, 労働経済雑誌, 大原社会問題研究所雑誌
3. 評議員：組織学会 (2009-2011年, 2013-2015年)
4. 編集委員：組織学会 (2009年-現在)
5. 学会賞委員：組織学会 (2012-2014年)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 第1回 経営行動科学学会優秀研究賞 (2003年)

2. 第25回 組織学会高宮賞論文部門 (2009年)
3. 第56回 日経・経済図書文化賞 (2013年)
4. 第30回 組織学会高宮賞著書部門 (2014年)
5. 2014年度神戸大学学長表彰 (2014年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤(C), 「協働と自律行動のマネジメント」, 2013-2016年度
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「コミュニティ的マネジメントの組織行動論的分析」, 2007-2009年度
3. 文部科学省科学研究費：若手(B), 2002-2004年
4. 社会経済生産性本部研究助成金 (2006年)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting researcher: University of North Carolina, Chapel hill (1999-2000)
2. Visiting scholar: University of Washington, (2010-2011)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 日本型マネジメントの組織行動論的分析: 日本企業のマネジメントを組織行動論の観点から分析し, 日本的なマネジメントの特徴を明らかにした上で, 日本的経営の再検討を行う.
2. マルチレベル分析を用いた組織コミットメントの研究: 組織・職場・個人という異なるレベルの要因が支援行動や創意工夫行動にどのように影響しているのかをマルチレベル分析の手法を用いて分析し明らかにする.
3. 日本の大卒ホワイトカラーのキャリアの研究: キャリア論においてあまり注目されていない初期と中期の間におけるキャリア課題を明らかにするとともに, 日本の文脈に乗っ取ったキャリア論を構築する.

【10】 社会活動・実務経験

なし

32. 梶原 武久

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2008年）

生年 1970年

学歴

1994年3月 神戸大学経営学部卒業

1996年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程退学

職歴

1997年4月 小樽商科大学商学部講師

1999年10月 小樽商科大学商学部助教授

2004年4月 小樽商科大学大学院商学研究科助教授

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

2013年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導，原価計算

大学院（一般）管理会計特殊研究（マネジメントコントロール），管理会計特論，サーベイリサーチ法応用研究，演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）現代経営学応用研究（クオリティマネジメント），現代経営学演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『管理会計研究のフロンティア』，中央経済社，2010年，（加登豊，松尾貴巳と共著）。
- 『品質コストの管理会計』，中央出版社，2008年。

- 『成功する管理会計システム』，中央経済社，2004年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「スタートアップ企業における予算管理システムの有用性」，『原価計算研究』，第36巻，第1号，2011年，58-67，（新井康平，榎下伸一郎と共著）。
- 「わが国製造企業におけるバランス・スコアカードの効果に関する実証的研究」，『原価計算研究』，第35巻，第2号，2009年，38-50，（乙政佐吉と共著）。
- 「コストの下方硬直性に関する合理的意思決定説の検証」，『会計プロGRESS』，第10号，2009年，101-116，（安酸建二と共著）。
- 「売上高変動に対する経営者の適応行動：原価データによる実証分析」，『原価計算研究』，第33巻，第1号，2009年，64-75，（安酸建二と共著）。
- 「バランス・スコアカード実践の決定要因に関する研究」，『原価計算研究』，第33巻，第2号，2009年，1-13，（乙政佐吉と共著）。
- 「品質コスト測定がもたらす効果に関する実証研究：サーベイデータに基づく分析」，『原価計算研究』，第32巻，第1号，2008年。
- 「日本の品質管理と品質コスト・ビヘイビア：X工場品質コストデータに基づく分析」，『会計プロGRESS』，第8号，2007年，35-48。
- 「品質指標が出荷額に及ぼす影響に関する実証分析」，『原価計算研究』，第31巻，第1号，2007年，24-35。
- 「日本企業における品質コストシステム実践の多様性とその規定要因」，『原価計算研究』，第29巻，第2号，2005年，45-55。

3. その他国内論文

- 「コストマネジメント行動とその影響要因：物流コスト調査データによる経験的分析」，『国民経済雑誌』，第210巻，第3号，2014年，83-101。
- 「低炭素型サプライチェーンマネジメントの既定要因：パイヤー・サプライヤー関係を中心に」，『国民経済雑誌』，第206巻，第4号，2012年，95-113，（國部克彦と共著）。
- 「日本企業の経営計画の実態（上）（下）」，『企業会計』，第63巻，第11/12号，2011年，（新井康平，福嶋誠宣，米満洋己と共著）。

(他学術論文 29 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Measuring the Cost of Individual Disruptions in Multistage Manufacturing Systems, *Journal of Management Accounting Research*, Forthcoming. (with Ge Bai, Jianbo Liu)
2. Understanding the Cost of Disruptions in Manufacturing Facilities, *Strategic Finance*, Forthcoming. (with Ge Bai, Jianbo Liu)
3. Factors Influencing Corporate Environmental Protection Activities for Greenhouse Gas Emission Reductions: The Relationship Between Environmental and Financial Performance, *Environmental and Resource Economics*, Vol.53, No.4, 2012, 455-481, (with Takashi Hatakeda, Katsuhiko Kokubu, Kimitaka Nishitani).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 日本原価計算研究学会
3. American Accounting Association
4. European Accounting Association

【4】 学会における活動

1. 理事: 日本原価計算研究学会, 日本管理会計学会、オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会
2. レフェリー: 原価計算研究, 管理会計学, オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌, メルコ管理会計研究, The Japanese Accounting Review

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日経品質管理文献賞 (2008 年)
2. 日本管理会計学会文献賞 (2008 年)
3. 日本原価計算学会賞 (著作賞) (2008 年)
4. 日本原価計算学会賞 (論文賞) (2005 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費助成金: 基盤研究(C), 「日本企業のコストマネジメント行動に関する総合的研究」, 2013-2015 年度.
2. 文部科学省科学研究費助成金: 若手研究(B), 「効果的な品質コスト・マネジメントに関する総合的研究」, 2009-2010 年度.
3. メルコ学術振興財団国際研究交流助成, 2009 年度.
4. 住友財団環境助成, 2007 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Eli Broad College of Business, Michigan State University, U.S.A., 2011-2013
2. Visiting Scholar: Leeds School of Business, University of Colorado at Boulder, U.S.A., 2003

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Production and Operation Management Society 26th Annual Conference 2015 (Washington DC, USA)
2. The 5th International Symposium on Operations Management and Strategy(ISMOS) 2015 (Tokyo, Japan)
3. AAA 2014 Management Accounting Section (MAS) Meeting(Orlando, USA)

【9】 現在の研究活動

1. コストマネジメントに関する研究
2. コストビヘイビアに関する研究
3. 業績評価に関する研究
4. サプライチェーンマネジメントに関する研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本ロジスティクス協会調査研究委員会・物流コスト調査委員会委員 (2008 年-現在)

まついけんじ
33. 松井建二

職名 教授

学位 博士(経済学)

生年 1973年

学歴

1996年3月 京都大学経済学部経済学科卒業
1998年3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程
修了
2001年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程
学修満期退学
2004年3月 京都大学大学院経済学研究科博士課程
修了

職歴

2000年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)
2001年4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
2002年4月 横浜国立大学経営学部講師
2003年4月 横浜国立大学経営学部助教授
2007年4月 横浜国立大学経営学部准教授
2009年10月 神戸大学大学院経営学研究科准教授
2014年10月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 市場システム特殊講義(産業組織), 市場シ
ステム基礎論
大学院 (一般) 市場経済分析特殊研究 (産業と戦略)
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) ビジネスエコノミクス応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「我が国の小売店舗密度に関するパネル分析」,
『マーケティング・サイエンス』, No.12, 2003
年, 44-61, (成生達彦と共著).
(他2編)

3. その他国内論文

1. 「国際課税における独立会計方式と定式配賦方
式の経済的影響について」, 『国民経済雑誌』, 第
208巻5号, 2013年, 49-63.
(他9編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Gray-market trade with product information service
in global supply chains, *International Journal of
Production Economics*, Vol.147, Part.B, 2014,
351-361.
2. Entry deterrence through credible commitment to
transfer pricing at direct cost, *Management
Accounting Research*, Vol.24, No.3, 2013, 261-275.
3. Auditing internal transfer prices in multinationals
under monopolistic competition, *International Tax
and Public Finance*, Vol.19, No.6, 2012, 800-818.
4. Cost-based transfer pricing under R&D risk aversion
in an integrated supply chain, *International Journal
of Production Economics*, Vol.139, No.1, 2012,
69-79.
5. Strategic upfront marketing channel integration as an
entry barrier, *European Journal of Operational
Research*, Vol.220, No.3, 2012, 865-875.
6. Concentration of marketing channels and brand-level
retailer margins: Evidence from Japan, *Applied
Economics*, Vol.44, No.12, 2012, 1591-1601.
7. Resale price maintenance for supply chains
distributing products with demand uncertainty,
International Journal of Production Economics,

Vol.134, No.2, 2011, 375-387.

8. Accounting year-end dispersion and seasonality in the Japanese corporate bond market, *Applied Economics*, Vol.43, No.26, 2011, 3733-3744.
9. Strategic transfer pricing and social welfare under product differentiation, *European Accounting Review*, Vol.20, No.3, 2011, 521-550.
10. Intrafirm trade, arm's-length transfer pricing rule, and coordination failure, *European Journal of Operational Research*, Vol.212, No.3, 2011, 570-582.

(他 9 編)

3. その他海外論文

1. Effects of Consumers' Shopping Ability on Location Strategy for Retailers Classified by Business Category, *AMA Summer Educators' Conference Proceedings*, Vol.17, 2006, 183-190.

(他 2 編)

【3】 主要所属学会

1. American Marketing Association
2. American Accounting Association
3. 日本経済学会
4. 日本金融学会

(他 4 学会)

【4】 学会における活動

1. Editorial Board: *International Journal of Revenue Management*(2008 年-現在)
2. レフェリー: *Applied Economics*, *Applied Financial Economics*, *European Journal of Operational Research*, *International Journal of Information Technology & Decision Making*, *International Journal of Production Economics*, *Journal of Cleaner Production*, *Journal of Optimization Theory and Applications*, *Journal of the Operational Research Society*, *Journal of Operations Management & Strategy*, *Marketing Science*, *OMEGA*, *Small Business Economics*, *Tourism and Hospitality: Policy & Development*, *Transportation Research Part E: Logistics and Transportation Review*, *流通研究*, 証

券経済学年報

【5】 学会賞等の受賞歴

1. American Marketing Association, Winter Educators' Conference 2015, Best Paper Award in "Channels of Distribution and Interorganizational Relationships/Business-to-Business" Track

(他 1 件)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(B), 「競争環境下における流通チャンネル管理のための数理モデルの研究」, 2014-2017 年度.

(他 7 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Researcher: University of Edinburgh, Business School, U.K., 2014.

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Equilibrium Partial Disclosure in a Strategic Entry Model, 2015 Canadian Academic Accounting Association Annual Conference, Hilton Toronto : Toronto, Canada, May 2015.
2. Asymmetric Product Distribution between Symmetric Manufacturers using Dual Marketing Channels, American Marketing Association Winter Educators' Conference 2015, San Antonio Marriott Rivercenter : San Antonio, USA, January 2015.

(他 8 件)

【9】 現在の研究活動

1. マネジリアル・エコノミクス

【10】 社会活動・実務経験

1. 兼任研究員: 法政大学比較経済研究所 (2005 年度)

しみずやすひろ
34. 清水 泰洋

職名 教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2000年）

生年 1973年

学歴

1995年3月 神戸大学経営学部卒業

1997年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2000年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2000年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

2015年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 研究指導，経営学入門，上級簿記，会計シ
ステム特殊講義（上級簿記）

大学院（一般）定性的方法論研究，演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）財務会計応用研究

学内役職

学部教務委員（2015年）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『アメリカの暖簾会計：理論・制度・実務』，中
央経済社，2003年。

2. 『近代会計史入門』，同文館出版，2014年（中
野常男との共編著）。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「移転可能な技術としての会計」，『国民経済雑
誌』，2014年，第210巻2号，41-51.
2. 「簿記上の取引概念の拡大と簿記の財務会計化」，
『日本簿記学会年報』，2014年，第29号，51-56.
3. 「『会計史学会年報』に見るわが国の会計史研究
の特質：1983～2012年」，『国民経済雑誌』，2013
年，第208巻2号，17-38（中野常男・橋本武久・
三光寺由実子・澤登千恵との共著）。
4. 「歴史研究の細分類」，徳賀芳弘・大日方隆編著
『財務会計研究の回顧と展望』，中央経済社，2013
年，第6章，177-188（執筆分担）。
5. 「アメリカ公益事業会社規制と会計」，『国民経済
雑誌』，2012年，第206巻2号，47-59.
6. 「ビッグ・ビジネスの台頭と大規模株式会社の会
計ーアメリカの企業合同運動器の会計事情を中
心にー」，千葉準一，中野常男編，『会計と会計学
の歴史（体系現代会計学 第8巻）』，中央経済社，
2012年，第8章，307-335，（執筆分担）。
7. 「会計史研究と複式簿記：日本の経験への含意」，
『国民経済雑誌』，2010年，第202巻3号，87-97.
8. 「戦間期兼松における羊毛取引の変革－仲介取
引から自己勘定取引へ－」，『国民経済雑誌』，2009
年，第200巻，第5号，17-34，（藤村聡と共著）。
9. 「会社の外の複式簿記－兼松奨励会の日記帳を
題材としてー」，『財務会計研究』，第2号，2008
年，69-95.
10. 「過去簿記」，中野常男編著『複式簿記の構造と
機能』，同文館出版，2007年，第3部，第5章（中
野常男，工藤栄一郎，坂上学，柴健次，島本克彦，
杉本徳栄，高須教夫，陳琦，橋本武久と共著）。
11. 「兼松における従業員持株会の生成と展開－従
業員持株制度の機能と資金上の問題点－」，『国民
経済雑誌』，第194巻，第6号，2006年，27-46，
（井上真由美と共著）。
12. 「会計史を巡るヒストリオグラフィー：レビュ
ー」，『国民経済雑誌』，第192巻，第1号，2005
年，83-97.
13. 「SEC 会計規制の生成と無形資産会計」，『産業
経理』2004年，第64巻第4号，40-48.
(他学術論文19編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Accounting control and interorganisational relations with the military under the wartime regime: The case of Mitsubishi Heavy Industry's Nagoya Engine Factory, *British Accounting Review*, 2015, Vol. 47, No. 2, 204-223 (with Masayoshi Noguchi, Tsunehiko Nakamura).
2. Accounting in disaster and accounting for disaster: the crisis of the Great Kanto Earthquake, Japan, 1923, *Accounting Business & Financial History*, 2010, Vol.20, No.3, 303-316, (with Satoshi Fujimura).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. Academy of Accounting Historians
2. Business History Conference
3. 日本会計研究学会
4. 日本簿記学会
5. 日本会計史学会
6. 経営史学会
7. 財務会計研究学会

【4】 学会における活動

1. 理事：日本簿記学会（2014年-現在），日本会計史学会（2011-2013年）
監事：日本会計史学会（2009-2011年）
幹事：日本会計史学会（2001-2009年），日本簿記学会（2005-2013年）
2. レフェリー：Business History Review, ビジネス・インサイト, 財務会計研究, 日本会計史学会年報, 会計プロGRESS

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本簿記学会・奨励賞（2014年）
2. 日本簿記学会・学会賞（2008年）
3. 日本会計研究学会・太田・黒沢賞（2004年）
4. 日本会計史学会・学会賞（2004年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：若手研究(B)(2), 「無形資産会計の比較制度分析」, 2005-2007年度
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B)(2), 「会計記録の意思決定に対する役割に関する実証的研究」, 2008-2011年度
3. 日本学術振興会科学研究費：基盤研究(C), 「「緩結合」ネットワーク分析と戦時統制経済下の会計制度」, 2012-2015年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Academics: Cardiff Business School, 2008.
2. Visiting Scholar: Edwin O. Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University, 2004-2005.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Modernization and the Introduction of Double-entry Bookkeeping: A Case of Northeast Asian Countries, 7th *Accounting History* International Conference, Seville, Spain, September 2013 (with Reika Tsumura).
2. Accounting for Dissolution: The Case of Japanese Mining Corporations 1946-1950, 7th *Accounting History* International Conference, Seville, Spain, September 2013 (with Masayoshi Noguchi and Tsunehiko Nakamura).

【9】 現在の研究活動

1. 「日本の会計の史的展開」：日本の会計の展開について、印刷教本及び実際の企業の会計記録に基づく研究を行っている。
2. 「アメリカの会計の史的展開」：アメリカにおいて、広い意味で会計が社会的に認知される一つの制度となったのは19世紀末から20世紀の前半の期間にかけてのことである。その過程を、幅広い観点から総合的に研究を行っている。

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師：大阪経済大学（2006-2008年）
2. 非常勤講師：近畿大学（2011-2013年）
3. 非常勤講師：甲南大学（2015年）

おざきひろゆき
35. 尾崎 弘之

職名 教授

学位 博士（学術）（早稲田大学）（2005年）

生年 1960年

学歴

1984年3月 東京大学法学部第Ⅱ類卒業
1990年5月 New York University, Stern School of
Business 修了
2005年3月 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
博士後期課程修了

職歴

1984年4月 野村証券株式会社入社
1993年5月 野村証券株式会社退社
1993年4月 モルガン・スタンレー証券入社
1995年9月 ゴールドマン・サックス証券入社
2001年5月 SBIホールディングス株式会社入社
2004年4月 ダイナベック株式会社入社 取締役
2005年5月 東京工科大学大学院バイオ情報メデイ
ア研究科教授
2005年5月 東京工科大学大学院コンピュータサイ
エンス学部教授
2015年4月 神戸大学大学院経営学研究科教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 なし
大学院（一般）なし
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）ベンチャー起業応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『再生可能エネルギーと新成長戦略』 エネル

ギーフォーラム, 2015年. (竹ヶ原啓介, 菊池
武晴と共著)

- 『環境ビジネス 5つの誤解』, 日本経済新聞出版, 2011年.
- 『次世代環境ビジネス-成功を導き出す 7つの戦略』, 日本経済新聞出版, 2009年.
- 『バイオベンチャー経営論-医薬品開発イノベーションのマネジメント』, 丸善, 2007年.
- 『MOTアドバンスト 技術ベンチャー』, 日本能率協会マネジメントセンター, 2004年. (松田修一, 長谷川博和, 平松庸一, 松尾尚, 高橋義仁, 船橋仁, 山田勝也, 増田一之, 増田智子, 下村博史, 宮地正人との共著)
- 『俺のイタリアンを生んだ男: 異能の起業家・坂本孝の経営哲学』, IBCパブリッシング, 2014年.
- 『社会変革期の成長戦略 グリーンラッシュで生まれる新市場を狙え』, 日経BP社, 2012年.
- 「俺のイタリアンを生んだ男: 異能の起業家・坂本孝の経営哲学」, 『クリーク&リバー社』, 2014年.
- 「君は本当に出世したくないのか」, 『クリーク&リバー社』, 2013年.
- 「社会変革期の成長戦略 グリーンラッシュで生まれる新市場を狙え」, 『クリーク&リバー社』, 2013年.
- 「投資銀行は本当に死んだのか」, 『日本経済新聞出版』, 2009年.
- 投資信託革命-21世紀の資産運用』, 『日本経済新聞社』, 1998年. (山崎養世, 高野真, 小島勝との共著)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「次世代環境ビジネス分析のフレームワーク」, 『サステイナブルマネジメント (環境経営学会)』2010年, 第9巻第3号, 47-67頁
- 「起業家の素顔と戦略に関する研究」, 『東京工科大学研究報告 (東京工科大学)』, 2009年, No.4, 47-65頁.
- 「創業プロセスのビジネス・モデルによる差異-創業ベンチャー6社の戦略比較-」, 『経営情報学会誌 (経営情報学会)』, 2006年, Vol.15 No.1, 63-78頁. (峯孝仁との共著)
- 「ツール型バイオベンチャーの経営戦略-トランスジェニック社の例を基に-」, 『経営行動研究

年報(経営行動研究学会)』, 2004年, 第13号, 47-51頁.

- 「芸術組織の成長モデル: 経営戦略構築のためのチェック・リストの作成」, 『京都マネジメント・レビュー(京都産業大学)』, 2004年, 第7号, 19-41頁.
- 「バイオベンチャーの経営課題に関する考察-外部機関とのアライアンスの重要性-」, 『アジア太平洋研究科論集(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科)』, 2004年, No.7, 133-150頁.
- 「補完代替医療領域におけるバイオベンチャー 特に外部機関とのアライアンスの重要性について」, 『日本補完代替医療学会誌(日本補完代替医療学会)』, 2004年, 第1巻第1号, 103-111頁.

3. その他国内論文

- 「米国バイオベンチャーにおける「成功」の研究」, 『日本ベンチャー学会誌(日本ベンチャー学会)』 2003年, 第4号, 85-95頁.

【2】 海外出版

1. 著書

- Green Inovation, 『次世代環境ビジネス・成功を導き出す7つの戦略』, (韓国語), E-Square, 2009年.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

2. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

- 日本ベンチャー学会
- 日本知財学会
- 研究・技術計画学会
- 環境経営学会

【4】 学会における活動

- 研究・技術計画学会理事(2013年-2015年)
- 日本知財学会 2010年全国大会実行委員長(2009年-2010年)
- 研究・技術計画学会幹事(2009年-2013年)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

- 科学研究費基盤(C), 「環境ビジネスにおける規制マネジメントの研究」 2013年-2015年.
- 科学研究費基盤(C), 「環境ベンチャーにおける効率的なマネジメント手法に関する研究」 2010年-2012年.

【7】 海外における研究・教育活動

- Nanyang Technological University, Graduate School of Business, (Visiting Professor)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

- 社会法人経済同友会 環境エネルギー委員会 副委員長(2014年-現在)
- 環境省「低炭素ビジネスWG」委員(2013年-現在)
- 環境省「環境ビジネス市場規模調査・雇用規模調査対象業種・サービス検討委員会」委員(2011年-現在)
- 経済産業省「ベンチャー企業の創出・成長に関する研究会」委員(2009年-2010年)
- 財務省「財務投資に関する基本問題検討会 産業投資ワーキングチーム」委員(2009年-2010年)

ひさもとひさお
36. 久本久男

職名 准教授

学位 経済学修士（神戸大学）（1979年）

生年 1952年

学歴

1977年3月 神戸大学経済学部卒業

1979年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
前期課程修了

1981年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程
後期課程退学

職歴

1981年4月 神戸大学経営学部助手

1984年4月 神戸大学経営学部講師

1988年2月 神戸大学経営学部助教授

1999年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 経営数学入門，外国書講読，経営学入門，
研究指導

大学院（一般）統計的方法論特殊研究（確率モデル）
演習

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「多様相論理とタブロー法」『国民経済雑誌』，第211巻第4号，2015年，61-67頁．
2. 「様相述語論理におけるシークエント計算とタブロー法」『国民経済雑誌』，第207巻第4号，2013年，59-69頁．
3. 「知らないことを知る」，『国民経済雑誌』，203巻・4号，2011年，57-64．
4. 「ケーニッヒの補題の拡張（増補）」，『国民経済雑誌』，第199巻，第4号，2007年，69-75．
5. 「様相論理におけるシークエント計算とタブロー法」，『国民経済雑誌』，第189巻，第2号，2004年，33-41．
6. 「母数模型分散分析の幾何学的解釈」，『国民経済雑誌』，第185巻，第6号，2002年，57-77．
7. 「被支配戦略と論理」，『国民経済雑誌』，第182巻，第4号，2000年，35-46．
8. 「被支配戦略と決定」，『国民経済雑誌』，第178巻，第5号，1998年，45-54．
9. 「合理性と計算可能性」，『国民経済雑誌』，第169巻，第6号，1994年，93-107．
10. 「ゲーム理論はコミュニケーションをどのように取り扱ってきたか」，『国民経済雑誌』，第163巻，第6号，1991年，55-93，（末廣英生と共著）．
11. 「合理的プレーヤーは合理的か？」，『国民経済雑誌』，第161巻，第4号，1990年，95-126，（末廣英生と共著）．
12. 「戦後日本鉄鋼業の設備投資競争」，『国民経済雑誌』，第155巻，第4号，1987年，93-123．
13. Production, Investment and Production Technique, *The Annals of the School of Business Administration*, Kobe University, No.30, 1986, 83-104.

（他学術論文12編，解説・書評等9編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本統計学会
2. 日本経済学会
3. 日本経営学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー：International Economic Review

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 澤村正鹿学術奨励基金，1991年（池田新介と共同）

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Northwestern University,
1986-1989
(他学会報告のため海外渡航)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 繰り返しゲームにおける均衡パターン:繰り返しゲームにおけるサブゲームパーフェクト均衡のパターン構造を分析する. 均衡におけるパターン複雑度の特徴を把握することができる.
2. 認識の階層構造とゲーム:ゲームの均衡がプレーヤに要請する認識構造を分析する. 認識論理におけるシンタックスにおいて利用される統合的方法を利用して, 認識の階層構造にアプローチする.

【10】 社会活動・実務経験

1. 非常勤講師: 京都大学 (1993年度), 流通科学大学 (2003年度)

37. 宮原 泰之

職名 准教授

学位 博士（経済学）（神戸大学）（2000年）

生年 1971年

学歴

1995年3月 神戸大学経営学部卒業

1997年3月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了

2000年9月 神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2000年6月 神戸大学経済経営研究所講師
（研究機関研究員）

2001年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 組織と情報，研究指導，経営学入門演習，
経営学入門

大学院 （一般）決定分析特殊研究（ゲーム理論），
組織と情報研究

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) なし

学内役職

学部教務委員（2012年4月-2013年3月）

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「評判におけるステルス・マーケティングの影響に関するゲーム理論的分析」、『国民経済雑誌』，第209巻3号，2014年，73-83頁。（日野 喜文との共著）
- 「有限回繰り返しゲームにおける非自明均衡について」、『国民経済雑誌』，2012年，第205巻，第4号，39-53.
- 「組織におけるモニタリング構造に関する一考察」、『国民経済雑誌』，2010年，第201巻，第5号，79-95.
- 「申告納税制度の契約構造」、『産業経理』，第66巻，第2号，2006年，109-116，（鈴木一水と共著）.
- 「隠れた行動と情報における効率性に関する分析」、『国民経済雑誌』，第190巻，第5号，2004年，27-39.
- 「観測費用を伴う繰り返し囚人のジレンマ・ゲームにおける評判の形成：ランダム・マッチング・モデル」、『国民経済雑誌』，第188巻，第2号，2003年，97-108.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Finitely repeated games with monitoring options, *Journal of Economic Theory*, Vol. 148, pp. 2013,1929-1952. (coauthored with Tadashi Sekiguchi)
- The Folk Theorem for Repeated Games with Observation Costs, *Journal of Economic Theory*, Vol.139, 2008, 192-221, (coauthored with Eiichi Miyagawa and Tadashi Sekiguchi).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

- Econometric Society
- 日本経済学会

【4】 学会における活動

なし

1. レフェリー：Games and Economic Behavior,
Japanese Economic Review

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「観測費用のある長期的関係に関する実験研究」, 2012-2016年度.
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「報酬制度における主観的評価とモニタリングに関する分析」, 2008-2010年度.
3. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「世代重複モデルにおける企業内インセンティブ・システム設計に関する研究」, 2003-2005年度. (海外長期出張のため2004年辞退)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Department of Economics,
Columbia University, U.S.A., 4-6, 2011
2. Visiting Scholar: Department of Economics,
Columbia University, U.S.A., 9-8, 2004-2005
3. Visiting Scholar: Department of Economics,
University of Pennsylvania, U. S. A., 1-8, 2004

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 観測費用のある無限回繰り返し囚人のジレンマ・ゲームにおける効率性について分析している。
2. 観測がオプションとなっている有限回繰り返しゲームにおける非自明均衡について分析している。
3. 組織内における最適な決定権の配分に関する分析を行なっている。

【10】 社会活動・実務経験

よ さ の ただのり
38. 與三野 禎倫

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2002年）

生年 1968年

学歴

1994年3月 京都大学経済学部卒業

1999年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2002年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

1994年4月 株式会社 日立製作所

1999年4月 日本学術振興会特別研究員（DC1）

2002年4月 岡山大学経済学部助教授

2004年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 国際会計

大学院（一般）会計制度特殊研究（国際会計）、会計
制度特論

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『知的資産ファイナンスの探求—知的資産情報と投資・融資意思決定のメカニズム』、中央経済社、2007年、（古賀智敏、榊原茂樹と共編著）。
- 『ストック・オプション会計と公正価値測定』、千倉書房、2002年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「企業の研究開発投資と株価形成」、『証券アナリストジャーナル』、2006年、44巻第7号、48-58、（榊原茂樹、鄭義哲、古澄英男と共著）。

3. その他国内論文

- 「企業の長期的発展と統合報告」、『企業会計』、第66巻第5号、2014年、46-56。
- 「財務と非財務の統合による経営と開示のダイナミズム：企業経営の視点」、『企業会計』、第64巻第6号、2012年、46-55。

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- Outperforming markets: IC and the long-term performance of Japanese IPOs, *Accounting Forum*, Volume 39, Issue 2, 83-96, 2015 (with Nielsen, C. and Rimmel, G.).
- Analysts' perceptions of intellectual capital information, *Australian Accounting Review*, Volume 20, Issue 3, 274-285, 2010 (with Sakakibara, S., Hansson, B. and Kozumi, H.).
- Intellectual capital disclosures in Japanese IPO prospectuses, *Journal of Human Resource Costing & Accounting*, Volume 13, Issue 4, 316-337, 2009 (with Rimmel, G. and Nielsen, C.).

3. その他海外論文

- Reporting on Intangibles: A Recent Survey from Japan in '*Intellectual Capital in Organizations -Nonfinancial Reports and Accounts*' (Routledge), 2015
- Systemic Complexity in Integrated Thinking, *Discussion Paper No. 2014-34 Graduate School of Business Administration, Kobe University*, 1-20, 2014 (with Bjurström, E. and Johanson, U.)
- Isomorphic Change of Accounting Standards against the Background of Globalization, *Proceedings of*

2011 Accounting Theory and Practice Conference, 2011.

4. The Role of Network Boundary Information in Intellectual Capital Measures, *Proceedings of 7th EIASM Interdisciplinary Workshop on Intangibles, Intellectual Capital & Extra-Financial Information*, 2011, 29-30.

【3】 主要所属学会

1. 日本会計研究学会
2. 国際会計研究学会
3. 日本知的資産経営学会

【4】 学会における活動

1. 理事：日本知的資産経営学会（2011年-現在）、国際会計研究学会（事務局長兼任）（2011年-現在）
2. レフェリー：The Japanese Accounting Review, The Journal of Intellectual Capital, 会計プロGRESS

【5】 学会賞等の受賞歴

1. PriceWaterHouseCoopers Award for the “Best Junior Contribution to the Development of Intangibles and IC theory and Practice” (2008)
2. 日本会計研究学会・太田・黒澤賞（著作賞）（2003年）

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(A), 「国際的なリスク・エクスポージャーと最適開示の制度設計に関する総合的研究」, 2011-2013年度.
2. 第30回大銀協フォーラム研究助成, 平成22年度, 特別賞, 「中小企業向け融資における非財務情報の活用実態調査」
3. 文部科学省科学研究費：基盤研究(B), 「企業の資本政策とディスクロージャーに関する理論的・実証的研究」, 2008-2010年度.
4. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「新株予約権の会計測定に関する理論的・実証的研究」, 2003-2005年度.
5. 文部科学省科学研究費補助金・特別研究員奨励費, 1999-2002年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar of Haas School of Business at University of California at Berkeley, U. S. (July 2009-present)
2. Visiting Researcher Fellow of school of Sustainable Development of Society and Technology at Mälardalen University, Sweden, (March 2009-July 2009)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Dynamic Reporting of Intangibles, A three continental approach, *The World Conference on Intellectual Capital for Communities*, 9th Edition, 7 June 2013 (co-presented with Inge, W. and Dust, S)

【9】 現在の研究活動

1. 知的資産の開示・評価モデルと資金調達スキームの構築に関する理論的・実証的研究
2. 企業の資本政策・ディスクロージャーと資本市場に関する理論的・実証的研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 日立製作所・経理部勤務（1994-1995年）
2. 三洋電機株式会社・過年度決算調査委員会事務局長（2007年）
3. 独立行政法人・中小企業基盤整備機構・中小企業知的資産経営研究会委員（2007年）
4. 独立行政法人・中小企業基盤整備機構・中小企業知的資産経営ファイナンス研究会（ワーキンググループ）委員（2007-2008年）
5. 独立行政法人・中小企業総合研究機構・平成20年度・OECD 中小企業作業部会・高成長中小企業の実態調査に関する研究会委員（2008年）
6. 経済産業省・産業技術環境局・産業技術政策課平成20年度・産業技術調査・技術評価による資金調達円滑化調査研究委員（2008-2009年）
7. 経済産業省・知的財産政策室・平成20年度・知的資産経営評価融資研究会副座長（2008-2009年）
8. 財団法人企業活力研究所・平成23年度・CSR研究会委員, 2011年10月-2012年3月.
9. 日本政策投資銀行・設備投資研究所・客員研究員, 2014年10月-2015年3月.

はたけだ たかし
39. 畠田 敬

職名 准教授

学位 博士（経済学）（大阪大学）（2002年）

生年 1970年

学歴

1993年3月 神戸大学経営学部卒業

1996年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期修了

1999年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学

職歴

1999年4月 流通科学大学商学部専任講師

2002年4月 日本大学経済学部専任講師

2003年4月 日本大学経済学部助教授

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 証券市場，研究指導

大学院（一般）ファイナンス特殊研究（証券市場），
演習，ファイナンス特論

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）ファイナンス応用研究，演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「日本における銀行信用波及経路の重要性」、『ファイナンス研究』，第22号，1997年，15-32.

3. その他国内論文

1. 「配当の平準化について—Lintner's Model による再検証」、『国民経済雑誌』，第211巻，第6号，2015，89-110.
2. 「日本における配当の硬直性」、『国民経済雑誌』，第207巻，第6号，2013，81-92.
3. 「平均-分散アプローチに基づく：地域金融機関の非効率性」、『国民経済雑誌』，第206巻，第1号，2012年，59-71.
4. 「日本における自社株買いに伴う利益マネジメントおよび収益性の推移」、『国民経済雑誌』，第203巻，第6号，2011年，67-84.
5. 「わが国の銀行部門における流動性需要について—共和分回帰分析による検証—」、『国民経済雑誌』，第196巻，第3号，2007年，43-55.
6. 「『説明困難な壁』を乗り越える挑戦（<第57回ワークショップ特集>配当政策の理論と実践）」、『Business insight: the journal for deeper insights into business』，Vol.15, No.2, 2007年，6-21.
7. 「ペイアウトと現金保有」、『証券アナリストジャーナル』，第44巻，第7号，2006年，6-20，（砂川伸幸，山口聖と共著）.
8. 「自己株式取得による株価への効果—2001年10月の商法改正以降のイベントを用いたマーケット・モデルによるイベントスタディ分析—」、『茨城大学人文学部紀要(社会科学論集)』，第42号，2005年，67-97，（池田義男と共著）.
9. 「収入に関する不確実性および費用に関する不確実性が設備投資に及ぼす影響」、『紀要』，第35号，2005年，99-109.
10. 「自己株式取得による株価への効果—2001年10月の商法改正以降のイベントを用いたマーケット調整済み収益モデルによるイベントスタディ分析—」、『産業経営研究』，第27号，2005年，27-48.
11. 「規制緩和と自社株買入れ発表による株価への効果」、『経済学集志』，第73巻，第3号，2003年，211-220.
12. 「企業の設備投資行動と資本市場の不完全性：近年の実証分析による展望」、『経済集志』，第72巻，第4号，2002年，127-136.
13. 「産業全体に関する錯乱的な要因による変動が与える設備投資への短期的・長期的な効果」、『経済集志』，第72巻，第3号，2002年，595-612.
14. 「わが国の信用市場において」、『政策メッセ 99

論文集』, No.1, 2000年, 100-109.

15. 「わが国の信用市場における株価(資産価格)の役割」, 『流通科学大学論集—経済・経営情報編』, 第8巻, 第3号, 2000年, 33-45.
16. 「流動性制約と銀行貸出の関係について」, 『流通科学大学論集—経済・経営情報編』, 第8巻, 第3号, 2000年, 21-32.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Factors Influencing Corporate Environmental Protection Activities for Greenhouse Gas Emission Reductions, *Environmental and Resource Economics*, Vol.53, No.4, 2012, 455-481, (with Katsuhiko Kokubu, Takehisa Kajiwara, Kimitaka Nishitani).
2. Stock Price Behavior Surrounding Stock Repurchase Announcements: Evidence from Japan, *Pacific-Basin Finance Journal*, Vol.12, No.3, 2004, 271-290, (with N. Isagawa).
3. Bank lending behavior under a liquidity constraint, *Japan and the World Economy*, Vol.12, No.2, 2000, 127-141.

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: Japan and the World Economy, 金融経済研究, 現代ファイナンス, 日本経営財務研究

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「日本の資金調達に関する実証分析」, 2015-2017年度
2. 公益財団法人日本証券奨学財団, 「金融仲介機関は取引企業の倒産リスクにどう影響を及ぼすか?」, 2013-2014年度.
3. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「自社株買いによる富の移転について」, 2010-2013年度.
4. 文部科学省科学研究費: 若手研究(B), 「銀行による流動性需要について」, 2006-2007年度.
5. 全国銀行学術研究振興財団, 「Bank's Share Repurchase Behavior: Evidence from Japan」, 2005年度.

(他2件)

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 1983年以降から直近までの法人企業統計調査の個票データからパネルデータを構築し, それを最近の手法を用いて, 日本企業の資金調達行動を実証分析する.
2. 将来の企業倒産の可能性に対して, 金融仲介機関がどのような影響を及ぼすかを実証的に明らかにする.
3. 企業の配当政策と株式市場の流動性も関係を我が国のデータを用いて実証的に検証することで, 企業が行う利益還元政策の意義を考察する.

【10】 社会活動・実務経験

なし

まつしま のぼる
40. 松嶋 登

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2002年）

生年 1973年

学歴

1997年3月 琉球大学法文学部経済学科卒業
1999年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了
2002年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2002年4月 東京都立大学経済学部講師
2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授
2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国書講読，経営学基礎論，研究指導
大学院（一般）経営管理特論，定性的方法論研究，
経営管理特殊研究（組織行動），演習
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）演習

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『現場の情報化』有斐閣，2015年。
2. 『制度的企業家』ナカニシヤ書店，2015年，（桑
田耕太郎・高橋勅徳と共編）。

（他4編）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「イノベーションの闘争モデル：大学発ベンチ

ヤーの生き残りをかけた闘争過程」、『日本経営学
会誌』，第27号，2011年，27-40，（山田仁一朗，
高橋勅徳と共著）。

2. 「制度的企業家というリサーチ・プログラム」，
『組織科学』，Vol.43，No.1，2009年，43-52，（高
橋勅徳と共著）。
3. 「経営情報学における解釈主義の「実践」」，『日
本情報経営学会誌』，Vol.29，No.2，2008年，14-25。
4. 「制度的戦略のダイナミズム：オンライン証券業
界における企業間競争と市場の創発組織科学」，
『組織科学』，Vol.42，No.2，2008年，4-18，（水
越康介と共著）。
5. 「病院組織の情報経営：都立病院における電子カ
ルテ導入事例の計量的モノグラフ」，『日本情報経
営学会誌』，第28巻，第1号，2007年，67-76。
6. 「経営学における技術研究の理論的射程」『科学
技術社会論研究』，第4号，2006年，15-29。
7. 「組織における電子コミュニケーション研究の
新展開」，『経営行動科学』，第15巻，第3号，2002
年，189-203。

（他2編）

3. その他国内論文

1. 「情報経営研究の学問的アイデンティティ」，
『日本情報経営学会誌』Vol. 34，No. 4，2014年，
pp. 71-89，（早坂啓と共著）。
2. 「実証主義の科学的有用性：介入を目指す新
たな科学思想としてのアクション・サイエンス」，『日本情報経営学会誌』Vol. 34，No. 4，2014
年，pp. 59-70，（福本俊樹，古賀広志と共著）。
3. 「ビッグサイエンスと産業イノベーションに
関する試論的考察」，『首都大学東京社会科学研
究科 Research Paper Series』No. 122，2014年，1-9，
（桑田耕太郎ほかと共著）。
4. 「電子カルテの利用を通じた組織変革」，『国民経
済雑誌』，第204巻，第2号，2011年，80-109。
5. 「『緊プロ』の社会的構成に接続される知識生産：
社会構成主義再訪」，『日本情報経営学会誌』，
Vol.31，No.3，2011年，66-80，（浦野充洋，金井
壽宏と共著）。
6. Institution works on innovation WORK: The
linguistic institutionalization with bureaucratic
principles in an innovative Japanese electronics
company, *Kobe University Discussion Paper Series*,
2011-12, 2011, 1-21, (Mitsuhiro Urano と共著)。
7. 「企業家研究のビッグストーリー：方法としての
ナラティブアプローチ」，『国民経済雑誌』第200

卷, 第3号, 2009年, 47-69, (高橋勅徳と共著).

8. 「制度変化の理論化: 制度派組織論における理論的混乱の克服に関する一考察」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第4号, 2007年, 33-63, (浦野充洋と共著).

(他論文61編, 書評2編, 翻訳1編, 寄稿3編)

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Industrial innovation in Japan*, Routledge, 2008, (with T. Hara, N. Kambayashi).

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

1. Institutional change and the emergence of electronic transactions in the Japanese manufacturing industry; Beyond the dichotomy of technical efficiency and social legitimacy in institutions, edited by Hara, T., Kambayashi, N. and Matsushima, N., *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008, 38-68, (with Miyamoto, T. and Urano, M.).
2. Emerging competitive value in use with materiality: Competitive transformation of business system about online securities market in Japan, edited by Hara, T., Kambayashi, N. and Matsushima, N., *Industrial Innovation in Japan*, Routledge, 2008, 174-191, (with Mizukoshi, K.).

【3】 主要所属学会

1. 組織学会
2. 日本経営学会
3. 経営学史学会
4. 日本情報経営学会
5. 経営情報学会
6. 科学技術社会学論学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: 組織学会, 日本経営学会, 日本情報経営学会, 経営行動学会, イノベーション・マネ

ジメント研究センター (法政大学), 労働政策研究・研修機構

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本情報経営学会論文賞 (2009年)
2. テレコム社会科学学生賞 (1999年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部省科学研究費: 基盤研究(C), 「経営学における「リガーvs.レリバンス」問題に対する実証的研究」, 2013-2017年度.
2. 文部省科学研究費: 若手研究(B), 「経営学における効率性・市場・技術概念の理論的・経験的検討: 制度派組織論の視点から」, 2009-2012年度.
3. 文部省科学研究費: 若手研究(B), 「経営戦略論における競争観の理論的刷新に関する研究」, 2006-2008年度.

(他4件)

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 「現場の情報化」: 組織の現場レベルの実践として情報技術の利用を捉える理論的・経験的研究。
2. 「制度的企業家」: 制度に埋め込まれながら制度を変更するという一見するとパラドキシカルな命題に対して、制度理論の刷新とともに挑む。
3. 「計算と経営実践」: 近代資本主義社会において正統な計算実践の働きを捉えるための理論的・経験的研究。

【10】 社会活動・実務経験

1. 東京都病院経営研修 (2003-2005年)
2. 日本情報処理開発協会「IT経営の総合評価に関する調査委員会」委員, 「IT経営力総合評価モデル構築WG」主査 (2007-2009年)
3. 中小企業診断協会試験委員 (2012年-現在)

さんこのぶひろ
41. 三古展弘

職名 准教授

学位 博士（工学）（名古屋大学）（2005年）

生年 1975年

学歴

1999年3月 名古屋大学工学部卒業

2001年12月 フランス国立ポンゼシヨセ工科大学国際経営大学院修了（MBA）

2002年3月 名古屋大学大学院工学研究科博士課程（前期課程）修了

2005年3月 名古屋大学大学院環境学研究科博士課程（後期課程）修了

職歴

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 外国語講読，交通論，研究指導，社会科学のフロンティア

大学院（一般）統計的方法論特殊研究（非集計データ分析），サーベイリサーチ法特殊研究

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「世帯単位で見た居住地・自動車保有・自動車旅

行距離の関係の経時分析」、『土木計画学研究・論文集』，Vol.21，2004年，523-530，（森川高行と共著）。（他論文4編）

3. その他国内論文

1. 日本交通学会編，『交通経済ハンドブック』，2011年，（分担執筆）。
2. 神戸大学経済経営学会編，『ハンドブック経営学』，2011年，（分担執筆）。（他論文・学会会報25編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Contrasting Imputation with a Latent Variable Approach to Dealing with Missing Income in Choice Models, *Journal of Choice Modelling*, Vol.12, 2014, 47-57, (coauthored with S. Hess, J. Dumont, and A. Daly).
2. Travel Demand Forecasts Improved by Using Cross-Sectional Data from Multiple Time Points, *Transportation*, Vol.41, No.4, 2014, 673-695.
3. Household Car and Motorcycle Ownership in Bangkok and Kuala Lumpur in Comparison with Nagoya, *Transportmetrica A*, Vol.10, No.3, 2014, 187-213, (coauthored with D. Dissanayake, S. Kurauchi, H. Maesoba, T. Yamamoto, and T. Morikawa).
4. Estimation Efficiency of RP/SP Models Considering SP Design and Error Structures, *Journal of Choice Modelling*, Vol.6, 2013, 60-73, (coauthored with T. Yamamoto).
5. Post-Project Evaluation of Travel Demand Forecasts: Implications from the Case of a Japanese Railway, *Transport Policy*, Vol.27, 2013, 209-218, (coauthored with T. Morikawa and Y. Nagamatsu).
6. Temporal Transferability of Updated Alternative-Specific Constants in Disaggregate Mode Choice Models, *Transportation*, Vol.37, No.2, 2010, 203-219, (coauthored with T. Morikawa).
7. Choice Models Using Matching Data, In : R. Kitamura, T. Yoshii, and T. Yamamoto (eds.), *The*

Expanding Sphere of Travel Behaviour Research: Selected Papers from the 11th International Conference on Travel Behaviour Research, 2009, 571-594, (coauthored with T. Morikawa).

(他論文 3 編)

3. その他海外論文

1. Trade-off between Data Newness and Number of Observations for Travel Demand Forecasting, Compendium of Papers of the 94th Annual Meeting of the Transportation Research Board, 2015.
2. Best Practice in SP Design, Proceedings of European Transport Conference, 2002, (coauthored with A. Daly and E. Kroes). (他論文・学会会報 13 編)

【3】 主要所属学会

1. 土木学会
2. 日本交通学会
3. 日本都市計画学会
4. The International Association for Travel Behaviour Research

【4】 学会における活動

1. レフェリー：European Journal of Transport and Infrastructure Research, IATSS Research, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Journal of Transport Geography, Transport Policy, Transportmetrica A, Transportation, Transportation Research (Parts A and E), Transportation Research Board, 土木学会論文集, 土木計画学研究・論文集, 交通学研究, 交通工学 (他数件)
2. 委員：土木学会・土木計画学研究委員会「都市間旅客交通研究小委員会」(2013年6月-現在)
3. 委員：土木学会・土木計画学研究委員会「土木計画のための態度・行動変容研究小委員会」(2005年6月-2008年5月)

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本交通学会賞 (論文の部) (2011 年度)
2. 日本都市計画学会論文奨励賞 (2005 年度)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 学術研究助成基金助成金：基盤研究(C), 「パラメータの時点変化を考慮した長期交通需要予測モデルの構築」, 2013-2015 年度.
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「個人の交通手段選択行動と世帯の自動車保有行動の変遷に関する中長期的分析」, 2010-2012 年度.
3. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「回答形式に着目した選好意識調査設計に関する基礎分析～交通行動分析を対象として～」, 2007-2009 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Research Fellow (Institute for Transport Studies, University of Leeds, U.K.), (Sep. 2012-Aug. 2014)
2. インターンシップ (Surface Transport and Aviation Programme at RAND Europe, Leiden, the Netherlands), (Aug.-Dec. 2001) (フランス国立ポテンゼショセ工科大学国際経営大学院在学時)

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Cost and Time Damping: Evidence from Aggregate Rail Direct Demand Models, hEART 2014 - 3rd Symposium of the European Association for Research in Transportation, Leeds, U.K., Sep. 2014. (coauthored with A. Daly and M. Wardman). (他 6 件)

【9】 現在の研究活動

1. 「交通行動の長期的分析」：繰り返し断面データを用いた 1970 年代からの交通行動の変遷の分析.
2. 「先進国と途上国の交通行動分析」：先進国における研究成果の途上国への適用可能性の検討.
3. 「調査設計」：需要予測のための調査時点とサンプル数に関する検討.

【10】 社会活動・実務経験

1. 関西鉄道協会 都市交通研究所「環境問題と都市交通委員会」(委員) (2006年11月-2010年10月)
2. 名古屋工業大学大学院工学研究科 非常勤講師 (2009 年度)
3. 関西大学工学部 ゲストスピーカー (2006 年度)

42. 馬岩

職名： 准教授

学位： 博士（商学）（神戸大学）（2005年）

生年： 1973年

学歴

1994年7月 中国長春工業大学電気電子工学部卒業

1997年6月 中国吉林大学大学院商学研究科博士課程前期課程修了

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

1997年7月 中国吉林大学経済学部助手

1999年7月 中国吉林大学経済学部講師

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 外国語講読, 国際貿易

大学院(一般) 市場経済分析特殊研究(市場と均衡),
Globalization and International Trade,
数学的方法論

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

- 「Skill Sensitivity and Offshoring between Similar Countries: A Note」, 『国民経済雑誌』, 第208巻第2号, 2013年8月, pp.91-97.
- 「Offshoring and Supermodularity」, 『国民経済雑誌』, 第204巻第3号, 2011年9月, pp.33-46. (Wanida Ngienthi と共著)
- 「Offshoring and Supermodularity」, 『国民経済雑誌』, 第204巻, 第3号, 2011年, 41-49, (Wanida Ngienthi と共著).
- 「流通部門の技術進歩および比較優位」, 『国民経済雑誌』, 第200巻, 第3号, 2009年, 33-46.
- 「関税と垂直的生産チェーン」, 『国民経済雑誌』, 第196巻, 第5号, 2007年, 63-78.
- 「Yano and Dei モデルの拡張 : 企業数の内生化」, 『六甲台論集』, 第51巻, 第1号, 2004年, 1-13.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- “The Product Cycle Hypothesis: the Role of Quality Upgrading and Market Size,” *International Review of Economics and Finance*, 2015.
- “Learning by Doing and Fragmentation” , *Pacific Economic Review* , vol. 18(5), 2013, pages 603-627. (with Eric Bond)
- Supermodularity and Global Supply Chains without the South, *Review of International Economics*, 2015, (with Wanida Ngienthi and Fumio Dei).
- Trade Theorems in a Model of Vertical Production Chain, *International Review of Economics and Finance*, Vol.18, Number 1, 2009, 70-80.
- Product Quality, Wage Inequality, and Trade Liberalization, *Review of International Economics*, Vol.17, Issue 2, 2009, 244-260, (with Fumio Dei).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経済学会
2. International Economics and Finance Society Japan

【4】 学会における活動

1. レフェリー：Review of International Economics, Economics Bulletin, Keio Economic Studies, International Review of Economics and Finance, Pacific Economic Review, International Journal of Economic Theory, International Economic Journal

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 二十一世紀文化学術財団学術奨励金(2013年-2014年)
2. 文部省科学研究費：基盤研究(C)「人的資本、貿易及び経済成長に関する理論的研究」, 2012-2015年度.
3. 平成20年度大学改革推進等補助金：大学改革推進事業・大学教育の国際化加速プログラム(海外先進教育研究実践支援)(研究実践型), 「プロダクト・サイクルに関する理論的研究」, 2008年12月9日-2009年3月29日

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar, Vanderbilt University, The United States, December 2008-May 2009, August 2010-July 2012.
2. Visiting Scholar, Vanderbilt University, the United States, December 2008-May 2009.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. “Supermodularity, Comparative Advantage, and Global Supply Chains,” 15th Society for the Advancement Economic Theory, Cambridge University, UK, July 27-31, 2015.
2. “Innovation, Growth and the Distribution of Human Capital,” 10th Australasian Trade Workshop, University of Sydney, Australia, April 7-8, 2015.
3. “Innovation, Growth and the Distribution of

Human Capital,” Fall 2014 Midwest Economic Theory and International Trade Meetings, Kansas University, USA, October 17-19, 2014.

4. “Supermodularity, Comparative Advantage, and Global Supply Chains,” 10th Asia Pacific Trade Seminars, Sogang University, Korea, June 28-29, 2014.
5. “Foreign Investment and Border Carbon Adjustments,” The 4th International Conference on Economics of Global Interactions: New Perspectives on Trade, Factor Mobility and Development, Bari University, Italy, September 17-18, 2013.
6. “Foreign Investment and Border Carbon Adjustments,” The 9th Annual Meeting of Asia and Pacific Trade Seminars, Southeast University, Nanjing, China, June 27-28, 2013.
7. “Learning by Doing and Fragmentation,” The 15th Annual Conference of European Trade Study Group, University of Birmingham, U.K., September 12-14, 2013.
8. “Learning by Doing and Fragmentation,” the 10th Biennial Pacific Rim Conference, Keio University, Japan, March 14-17, 2013.

【9】 現在の研究活動

1. 人的資本、貿易および経済成長に関する理論的研究
2. 人的資本、貿易および経済成長に関する理論的研究
3. 直接投資と環境問題
4. フラグメンテーションに関する動学的理論研究

【10】 社会活動・実務経験

なし

43. 山崎尚志

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2005年）

生年 1978年

学歴

2000年3月 神戸大学経営学部卒業

2002年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2005年4月 神戸大学大学院経営学研究科 COE 研究員

2005年7月 神戸大学大学院経営学研究科助手

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 保険論（主：リスク・マネジメント）、
外国書講読、研究指導

大学院（一般）ファイナンス特論、ファイナンス特
殊研究（リスクマネジメント）

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『野球人の錯覚』、東洋経済新報社、2008年。（加藤英明との共著）

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「株価変動の季節性と投資家心理—新聞記事に見る将来見通しとデカンショ節効果—」、『証券アナリストジャーナル』、第51巻、第12号、2013年、96-105。（岡田克彦、山崎高弘、榊原茂樹との共著）
2. 「わが国株式市場における長期異常収益率の分析」、『経営財務研究』、第28巻、第1号、2008年、15-37.
3. 「上場変更企業における Managers Opportunism の検証—裁量的会計発生高と Post Listing Return—」、『現代ファイナンス』、No.23、2008年、109-130。（岡田克彦との共著）
4. 「人員削減と株価パフォーマンス」、『経営財務研究』、第27巻、第2号、2007年、4-63。（清水一との共著）
5. 「損保の株価パズル」、『証券アナリストジャーナル』、Vol.45、No.12、2007年、114-123。（井上光太郎、加藤英明との共著）
6. 「上場変更と株価の長期パフォーマンス—Post Listing Puzzle の日本市場における検証—」、『現代ファイナンス』、第18巻、2005年、27-45。（岡田克彦との共著）

3. その他国内論文

1. 「企業不動産マネジメント—不動産保有は企業価値に影響を及ぼすのか？—」、『国民経済雑誌』、第210巻、第2号、2014年、75-83。（福島隆則との共著）
2. 「なぜ企業はリスクマネジメントを行うのか？：理論研究と実証研究のサーベイ」、『商学論究』、第61巻、第4号、2014年、87-102.
3. 「日本企業はクロスボーダーM&Aが本当に不得意なのか？」、『一橋ビジネスレビュー』、第60、巻4号、2013年、100-117。（井上光太郎、奈良沙織との共著）

（他 24 編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. “The Effect of the Great East Japan Earthquake on

the Stock Prices of Non-Life Insurance Companies,” *Geneva Papers on Risk and Insurance - Issues and Practice*, 2013, Vol.38, No.3, pp.449-468. (with Astushi Takao, Takuya Yoshizawa, Shuofen Hsu)

2. “The Calendar Structure of the Japanese Stock Market: The ‘Sell in May Effect’ versus the ‘Dekansho-bushi Effect’,” *International Review of Finance*, 2013, Vol.13, Issue.2, pp.161-185. (with Sigeki Sakakibara, Katuhiko Okada)

3. その他海外論文

1. A Proposal to Construct a Behavioral Insurance Theory, *The IUP Journal of Risk & Insurance*, 2010, Vol.7, No.3, 50-58. (with Atsusi Takao)

【3】 主要所属学会

1. 日本経営財務研究学会
2. 日本保険学会
3. 日本ファイナンス学会
4. 行動経済学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー：Asia-Pacific Financial Markets, 行動経済学会, 経営財務研究学会, 日本リスク学会

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本経営財務研究学会 (学会賞)：2009年

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「自然災害が及ぼす保険会社への財務的・制度的影響に関する研究」, 2015-2019年.
2. 文部科学省科学研究費：若手研究(B), 「全社的リスクマネジメントの理論・実証に関する研究」, 2009-2011年.
3. 損保総研：損害保険研究費助成金, 2006-2008年.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar: Duke University, 2012-2013.
2. Visiting Scholar: University of Michigan, 2013-2014.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Midwest Finance Association, “Managerial Overconfidence: Evidence from Japanese CEOs,” Chicago, 2013.

【9】 現在の研究活動

1. 自然災害が及ぼす保険会社への財務的・制度的影響に関する研究
2. リスクマネジメントと企業価値に関する実証研究
3. CEOおよびCFOの個人属性と企業行動に関する実証研究

【10】 社会活動・実務経験

なし

44. 堀口 真司

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)(2006年)

生年 1978年

学歴

2001年3月 神戸大学経営学部卒業

2003年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2006年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2006年4月 神戸大学大学院経営学研究科助教授

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2013-2015年度)

学 部 経営学入門, 社会環境会計

大学院(一般) 定性的方法論研究, 会計制度特殊研究
(学際的会計研究)

大学院(GMAP/SESAMI)なし

大学院(MBA) 現代経営学応用研究(環境経営)

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「ステイクホルダー・エンゲージメントの理論的
定位」, 『社会関連会計研究』, 第20号, 2008年,
65-75.

3. その他国内論文

- 「フーコディアン会計研究の視座」『国民経済
雑誌』, 210巻, 第1号, 2014年, 25-42.
- 「エンロン, ワールドコム事件の倫理的側面
—Gibson(2007)Ethics and Businessのエピローグより
—」, 『国民経済雑誌』, 第206巻, 第4号, 2012
年, 115-129.
- M.パワー著『リスクを管理する』, 中央経済社,
2011年, (翻訳).
- 「相対主義的会計研究の現代的地平を求めて—
会計研究における科学哲学の意味を理解するた
めに—」, 『国民経済雑誌』, 第202巻4号, 2010
年, 57-75.
- 「企業の社会的責任を追及する視点—アカウン
タビリティの陥穽の傍証として—」, 『会計』, 第
176巻, 第1号, 2009年, 61-76.
- 「学際的会計研究の軌跡—Accounting,
Organizations and Society, 1976-1985—」, 『国民経
済雑誌』, 第198巻, 第5号, 2008年, 47-61.
- 「会計のテクノクラート化と公共性の確保」, 『会
計』, 第172巻, 第5号, 2007年, 100-115.
- M. パワー著『監査社会』, 東洋経済新報社, 2003
年, (國部克彦と共訳).
- 「会計の科学性と反実在思考」, 『産業経理』, 第
66巻, 第3号, 2006年, 88-98.
- 「会計技術の専門性に関する研究」(博士論文),
神戸大学大学院経営学研究科提出, 2006年.
- 「ラトゥーリアン会計研究の視座」, 『六甲台論集
—経営学編—』, 第51巻, 第3号, 2004年, 77-98.
- 「オートポイエシス・システム論に基づく会計研
究の可能性」, 『六甲台論集—経営学編—』, 第50
巻, 第3号, 2003年, 17-34.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本会計研究学会
2. 日本社会関連会計学会
3. 企業と社会フォーラム

なし

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金(若手研究(B)):「会計制度の社会的分析に関する基礎的研究」, 2012-2015年度.

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting Scholar, Said Business School, Oxford University, 2010-2011.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Rereading the Japanese management: From ethical point of view, European Business Ethics Network Annual Conference 2014, ESMT, Germany June 2014.
2. A Critique of the Civil Corporation in Japanese Context, European Business Ethics Network Annual Conference 2013, EDHEC Business School, France September 2013.
3. Offence and Defense of Accountability: Analysis of Pros and Cons of the Concept, European Business Ethics Network Annual Conference 2012, IESE Business School: Spain, September, 2012.
4. Policy Incoherence of Accountability, European Business Ethics Network Research Conference 2012, Newcastle University: England, June, 2012.

【9】 現在の研究活動

1. 企業・会計制度の社会的・環境的側面に関する研究

しまだともあき
45. 島田 智明

職名 准教授

学位 Ph.D. (INSEAD) (2005 年)

生年 1969 年

学歴

- 1993 年 3 月 京都大学工学部情報工学科卒業
1995 年 3 月 東京大学大学院理学系研究科情報科学
専攻修士課程修了
2000 年 3 月 シンガポール国立大学大学院経営学研
究科 MBA (修士課程) 修了
2002 年 7 月 フランス INSEAD 大学院経営学研究科
MSc (修士課程) 修了
2005 年 8 月 フランス INSEAD 大学院経営学研究科
PhD (博士課程) 修了

職歴

- 1995 年 4 月 A.T.カーニー
1996 年 1 月 フラマトムコネクターズインターナシ
ョナル(FCI)シンガポール
1998 年 5 月 富士通コンピューターズシンガポール
2005 年 1 月 国際大学大学院国際経営学研究科アシ
スタントプロフェッサー
2007 年 1 月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目 (2013-2015 年度)

- 学 部 Operations Strategy, 外国書講読(taught in
English), 研究指導
大学院 (一般) Advanced Operations Strategy
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) 現代経営学応用研究 (サーベイリサ
ーチ法)

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Effect of Information Systems and Supply Chain Capability on Inventory Turnover, *Journal of Japanese Operations Management and Strategy*, Vol.5, No.1, 2014, pp.1-19, (with Osamu Sato, Yoshiki Matsui, Hideaki Kitanaka, and Yutaka Ueda).
2. 医薬品企業の CSR 活動が医師の医療用医薬品選定に与える影響に関する探索的研究, 『医療と社会』, 第 21 巻第 2 号, 2011 年, 189-203 頁, (瓜生原葉子と共著).

3. その他国内論文

1. 「地方自治体の経営: 広島県庁の事例研究」, 『国民経済雑誌』, 第207巻第4号, 2013年, 71-86頁, (瓜生原葉子, 湯崎英彦と共著).
2. 「オペレーション戦略における競争能力としての持続可能: 理論的研究」, 『国民経済雑誌』, 第204巻第4号, 2011年, 35-52頁.
3. 「グローバル市場における内資系製薬企業の戦略的ポジショニング」, 『経済セミナー』, 第654号, 2010年, 61-65頁, (瓜生原葉子と共著).
4. 「大型小売店における環境活動と財務パフォーマンスの関係に関する実証研究: 消費者を対象とした店頭意識調査の結果に基づいて」, 『国民経済雑誌』, 第200巻第4号, 2009年, 69-73頁.
5. 「グローバル超競争: 日本企業における事例研究」, 『国民経済雑誌』, 第200巻第2号, 2009年, 67-84頁, (梅澤高明と共著).
(他学術論文 7 編, 教材・ケース 12 編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Manufacturing Strategy and Competitive Performance: An ACE Analysis, *International Journal of Production Economics*, Forthcoming, 2015. (with James Ang Soo-Keng, Ser Aik Quek, and Eugene Lim).
2. Knowledge-based Simulation of Regulatory Action

in Lambda Page, *International Journal on Artificial Intelligence Tools*, Vol.4, No.4, 1995, 511-523, (with Masami Hagiya, Masanori Arita, Shin-ya Nishizaki and Chew Lim Tan).

3. その他海外論文

1. Product Introduction and Retirement: An Empirical Investigation of Mainframe Computers, *Proceedings of the 22nd Annual International EurOMA Conference*, Neuchâtel Switzerland, 2015, IPS-27(10 pages), (with James Ang Soo-Keng and Karl Liu), (レフェリー付き).
2. Comparison of Antecedents to Competitive Performance in Established and Emerging Manufacturing Countries, *Proceedings of the 21st Annual International EurOMA Conference*, Palermo Italy, 2014, REG-03 (9 pages), (with James Ang Soo-Keng and Eugene Lim), (レフェリー付き).
3. Perception of Quality across Countries with a Traditionally Strong Manufacturing Presence, *Proceedings of the 20th Annual International EurOMA Conference*, Dublin Ireland, 2013, TQM-11 (6 pages), (with James Ang Soo-Keng, Yoshiki Matsui, Osam Sato, Yutaka Ueda, and Hideaki Kitanaka), (レフェリー付き).
4. CrimsonLogic: The 'E' volution of the Trading Community via a B2B E-Commerce Hub, *INSEAD Case*, 2004, ECCH Reference Number: 604-066-1, (with Arnoud De Meyer), (レフェリー付き).

(他学術論文 12 編)

【3】 主要所属学会

1. Academy of Management
2. INFORMS
3. Decision Sciences Institute
4. EurOMA

【4】 学会における活動

1. Associate Editor: *Electronic Commerce Research Journal*.
2. Regular Reviewer: *Journal of Supply Chain Management*.
3. Occasional Reviewer: *Organization Science*, *Marketing Science*, *Decision Sciences*, *IEEE*

Transactions on Automation Science and Engineering, *International Journal of Information Management*, *Journal of Organizational Computing and Electronic Commerce* 他.

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費：基盤研究(C), 「アジアにおける循環型サプライチェーンの形成に関する実証研究」, 2013-2015 年度
(他 3 件)

【7】 海外における研究・教育活動

1. Member of High Performance Manufacturing Global Survey Project

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

1. New Public Management of Local Government in Japan: An Action Study, The 74th Academy of Management Annual Meeting, Philadelphia, Pennsylvania: USA, August 2014.
(他 14 件)

【9】 現在の研究活動

1. 循環型サプライチェーンの構築
2. サプライチェーンにおける企業間情報システム
3. サプライチェーンにおける組織間関係
4. 医薬品企業における CSR 活動
5. 地方自治体における NPM 活動

【10】 社会活動・実務経験

1. 国際大学非常勤講師 (2007-2008 年)
2. 名古屋商科大学非常勤講師 (2010-2015 年)
3. 兵庫県長期ビジョン審議委員 (2014-2015 年)
4. 奈良県北葛城郡王寺町創生本部顧問 (2015 年)

たかだともみ
46. 高田知実

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）

生年 1979年

学歴

2002年3月 関西大学商学部卒業

2004年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2007年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2007年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 経営学入門，監査論

大学院（一般）会計制度特殊研究（国際会計・監査），
会計制度特論，監査研究

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『監査法人の独立性と組織ガバナンス』，同文館，2014年。（朴大栄と共著）
- 『会計情報のファンダメンタル分析』，中央経済社，2013年。（櫻井久勝，音川和久，行待三輪と共著）
- 『わが国監査報酬の実態と課題』，日本公認会計士協会出版局，2012年，（松本祥尚，林隆敏，町田祥弘，矢澤憲一と共著）。
- 『実証監査理論の構築』，同文館出版，2012年，（伊豫田隆俊，松本祥尚，浅野信博，林隆敏，町

田祥弘と共著）。

- 『企業価値評価の実証分析 モデルと会計情報の有用性検証』，中央経済社，2010年，（須田一幸と共著）。
- 『テキスト 国際会計基準[第5版]』，白桃書房，2010年，（櫻井久勝と共著）。
- 『テキスト 国際会計基準[第3版]』，白桃書房，2008年，（櫻井久勝他と共著）。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「会計発生高ポートフォリオの情報属性と企業属性」，『経営財務研究』，2011年，第30巻，第1・2合併号，38-60，（須田一幸と共著）。
- 「監査報酬と監査環境の変化がゴーイング・コンサーンの開示に及ぼす影響の実証分析」，『現代監査』，2010年，第20巻，110-121。
- 「保守主義の指標相互における関連性分析」，『現代ディスクロージャー研究』，第8巻，2008年，65-74。
- 「経営者の裁量行動と継続企業の前提に関する追記の開示」，『会計プロGRESS』，第9巻，2008年，61-77。

3. その他国内論文

- 「監査事務所の業種特化が利益属性に及ぼす影響に関する考察」，『会計』2014年，第186巻第3号，335-347頁。
- 「倒産企業における監査人の交代と会計操作」，『現代ディスクロージャー研究』2013年，第13号。（浅野信博と共著）
- 「大手監査事務所の保守的行動に関する分析」，『国民経済雑誌』2013年，第208巻第4号，53-68頁。（村宮克彦と共著）
- 「業務執行責任者の特徴に関する実証研究の考察」，『会計』2013年，第183巻第6号，84-96頁。
- 「監査サービスの変容が利益の保守性に及ぼす影響に関する実証分析」，『国民経済雑誌』，2010年，第201巻，第2号，65-79，（村宮克彦と共著）。
- 「クライアントとの経済的関係が監査人の独立性に及ぼす影響－精神的独立性と外見的独立性の観点から－」，『国民経済雑誌』，2009年，第200巻，第6号，17-35。
- 「監査人の意識と行動の関係の研究のための序説－企業の継続性判断に関する監査人への訪問

調査から」、『企業会計』, 2009年, 企業会計, (柴健次と共著).

8. 「保守主義の定量化とその機能 (1) (2)」, 『企業会計』, 第 61 巻, 第 1 号, 2009 年, 124-125, 第 2 号, 2009 年, 124-125.
9. 「継続企業の監査人の判断に関する調査」, 『週刊経営財務』, No.2841, 2007 年, 20-27, (柴健次と共著).
10. 「利益/株価比率を利用した保守主義の定量化」, 『経済経営研究(年報)』, 第 56 号, 2007 年, 1-38.
11. 「財務会計における保守主義の定量化-その有効性の実証研究-」, 神戸大学大学院経営学研究科博士論文, 2007 年.
12. 「訴訟リスクと監査人の保守的態度」, 『六甲台論集-経営学編-』, 第 53 巻, 第 1 号, 2006 年, 23-42.
13. 「ストック・オプションの権利付与と会計上の損失に関する予備的証拠」, 『国民経済雑誌』, 第 192 巻, 第 5 号, 2005 年, 37-54, (音川和久と共著).
14. 「会計における保守主義の役割と定量化」, 『六甲台論集-経営学編-』, 第 51 巻, 第 2 号, 2004 年, 57-77.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Managerial Ownership and Accounting Conservatism in Japan: A Test of Management Entrenchment Effect, *Journal of Business Finance & Accounting*, 2010, Vol. 37, Nos. 7/8, 815-840, (with Akinobu Shuto).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. European Accounting Association
3. ディスクロージャー研究学会
4. 日本会計研究学会
5. 日本監査研究学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: *Managerial Auditing Journal*, 国民経済雑誌, *The Japanese Accounting Review*, 日本会計研究学会学会誌『会計プロGRESS』, 兼松フェローシップ

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 神戸大学経済経営研究所 兼松フェローシップ入賞 (2005 年)
2. 日本会計研究学会平成 20 年度学会賞 (2008 年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費: 若手研究 (スタートアップ), 「企業会計における保守主義の機能に関する研究」, 2007-2008 年度.
2. 文部科学省科学研究費: 基盤研究(C), 「監査サービスの変容が会計情報と資本市場に及ぼす影響の実証分析」, 2009-2012 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. Partner tenure, familiarity effect, and auditor choice, *International Symposium on Audit Research*, Novotel Sydney Brighton Beach: Australia, July 2013, (jointly presented with Katsushi Suzuki)
2. Asymmetric earnings/return relationship: Further evidence, *European Accounting Association Annual Congress*, Paris-Dauphine University: France, May 2013, (jointly presented with Katsuhiko Muramiya)

【9】 現在の研究活動

1. 監査の機能に関する実証分析.
2. 企業の所有構造と財務報告の関連性に関する実証分析.

【10】 社会活動・実務経験

なし

ひらのきょうへい
47. 平野 恭平

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2008年）

生年 1979年

学歴

2003年3月 北九州市立大学経済学部経営情報学科卒業

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2008年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

職歴

2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 経営史入門

大学院（一般）経営制度特殊研究（経営史），経営制度特論

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『1からの経営史』，碩学舎，2014年，（宮本又郎・岡部桂史との共編著）。
- 『産業経営史シリーズ3 繊維産業』，一般財団法人日本経営史研究所，2013年，（阿部武司との共著）。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「国産合成繊維ビニロンの熱処理をめぐって

—鐘淵紡績のカネビヤンを中心に—」，『化学史研究』，第42巻，第2号，2015年6月，17-24.

- 「戦時期日本の代用繊維開発と戦後への継承—鐘淵紡績のカネビヤンの挫折—」，『歴史と経済』，第225号，2014年10月，1-15.
- 「The Development of Domestically Produced Synthetic Fiber Vinyon and its Substitution of Natural Fibers: The Case of Kurashiki Rayon」，『Japanese Research in Business History』，Vol.30，2014年9月，11-37.
- 「戦前日本の化学繊維工業と化学技術者—応用化学科卒業生の分析を中心として—」，『技術と文明』，第18巻，第1号，2013年12月，47-60.
- 「Establishing R&D Capability in the Prewar Japanese Rayon Industry: The Organization of Technical Staff and Institutionalization of R&D」，『Japanese Research in Business History』，Vol.27，2011年11月，67-92.
- 「戦時期・復興期の日本企業の技術開発と最適市場の創出—倉敷レイヨンのビニロン工業化を中心として—」，『経営史学』，第45巻，第3号，2011年3月，3-28.
- 「合成繊維事業への後発進出をめぐる技術選択と企業家の決断—1960年代の呉羽紡績のナイロン進出を中心として—」，『企業家研究』，第5号，2008年6月，1-22.
- 「戦後の日本企業の技術選択と技術発展—東洋紡績の合成繊維への進出を中心として—」，『経営史学』，第42巻，第3号，2007年12月，35-67.

3. その他国内論文

- 「戦間期日本企業の研究開発能力の構築—レーヨン工業を中心として—」，『国民経済雑誌』，第209巻，第2号，2014年2月，67-81.
- 「戦後の紡績企業の合成繊維への進出と技術選択—アクリル先発企業とナイロン後発企業の事例を中心として—」，博士学位請求論文，神戸大学大学院経営学研究科提出，2008年3月。
（他 書評3編，解説3編）

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 経営史学会
2. 社会経済史学会
3. 政治経済学・経済史学会
4. 日本産業技術史学会
5. 化学史学会
6. 企業家研究フォーラム
7. 日本経営学会
8. 産業考古学会
9. 近畿産業考古学会
10. 日本歴史学会

【4】 学会における活動

1. 幹事：企業家研究フォーラム（2009年-現在）
2. 幹事：日本経営学会（2010年-現在）
3. 機関誌編集委員：日本経営学会（2010年-2014年）
4. 学会賞審査委員：日本産業技術史学会（2012年-2013年）

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 経営史学会賞（2011年）

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

1. 科学研究費補助金，若手研究（B），「戦前日本の繊維産業にみられた繊維資源の有効利用」，2015年度-2016年度.
2. 科学研究費補助金，若手研究（B），「羊毛企業にみられた天然繊維代替の展開と限界」，2013年度-2014年度.

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況（過去3年間）

なし

【9】 現在の研究活動

1. 戦時期・復興期の日本の資源代替技術の開発についての研究
2. 合成繊維の登場による日本の繊維企業の経営革新についての研究
3. 戦間期の日本の企業内技術者についての研究
4. 高等商業学校についての研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 東洋紡株式会社社史編集室編『東洋紡百三十年史』，東洋紡株式会社，2015年，（編纂委員として分担執筆）.
2. 『松本重太郎の功績および哲学調査報告』，京丹後市委託調査，2014年，（共同研究者として分担執筆）.

きたがわのりお
48. 北川 教央

職名 准教授

学位 博士(経営学)(神戸大学)

生年 1980年

学歴

2003年3月 神戸大学経営学部卒業

2005年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
前期課程修了

2008年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
後期課程修了

職歴

2008年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目(2013-2015年度)

学 部 外国語講読, 初級簿記, 商業簿記Ⅰ, 商業
簿記Ⅱ

大学院(一般) 財務会計特殊研究(財務報告),
財務会計特殊研究(資本市場研究)

大学院(GMAP/SESAMI) なし

大学院(MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「わが国の会計制度改革期における利益の質と個別リスクとの関係について」、『証券アナリストジャーナル』, Vol.49, No.8, 2011年, 91-100, (奥田真也と共著).

2. 「組織再編企業の利益調整と株価形成」、『会計ブ

ログレス』, 第10号, 2009年, 16-27.

3. その他国内論文

1. Product market competition and overreaction to information transfers, 『Discussion Paper, Graduate School of Business Administration, Kobe University』 2015年, No.2015-03, pp.1-44.

2. 「会計情報の波及効果と市場の効口性」『国民経済雑誌』 2014年, 第210巻第6号, 59-74.

3. Managerial discretion over their initial earnings forecasts, 『Working Paper (Available at SSRN)』 2014年. (Akinobu Shuto, Takuya Iwasaki との共著)

4. 「会計情報の波及効果に関する研究動向(1)・(2)」, 『企業会計』 2014年, 第66巻第3号・第66巻第4号, pp.86-87・pp.102-103.

5. 「特別損失の計上頻度による将来業績の予測可能性(特集 財務情報による将来業績の予測)」, 『証券アナリストジャーナル』 2013年, 第51巻第12号, 27-36.

6. Management forecasts, idiosyncratic risk, and information environment, 『Discussion Paper, Graduate School of Business Administration, Kobe University』 2013年, No.2013-38, pp.1-43. (with Shin'ya Okuda)

7. 「Credibility of management earnings forecasts and future returns」 『RIEB Kobe University discussion papers series』 2013年, No.2013-31, pp.164. (Akinobu Shuto との共著)

8. 「特別損失の計上頻口による将来業績予測」, 『会計情報のファンダメンタル分析』 2013年, 第7章, pp.125-148. (池田健一, 小谷学との共著).

9. 「会計利益と課税所得の差額情報による将来業績予測」 『会計情報のファンダメンタル分析』 2013年, 第8章, pp. 149-174. (池田健一, 金光明雄, 音川和久との共著)

10. 「第13章 収益(IAS18)」, 「第29章 金融商品の認識および測定(IAS39)」(桜井貴憲との共著), 「第36章 売買目的で保有する非流動性資産および非継続事業(IFRS5)」, 「第38章 金融商品の開示(IFRS7)」(桜井貴憲との共著), 「第40章 金融商品(IFRS9)」, 『テキスト国際会計基準(第6版)』, 2013年, pp.95-100, pp.206-216, pp.262-266, pp.272-278, pp.287-290(分担執筆).

11. 「国際会計基準の導入と利益の品質(1)・(2)」『企業会計』2011年, 第63巻第1号・第63巻第2号, pp.108-109, pp.172-173.
12. 「The effect of non-financial risk information on the evaluation of implied cost of capitals」, 『神戸大学大学院経営学研究科ディスカッション・ペーパー』, 2011年, 2011・6号, 1-34, (Masatoshi Gotoh, Hyonok Kim と共著).
13. 「国際会計基準の適用に関する実証的評価」, 『国民経済雑誌』, 第202巻第6号, 2010年, 65-91.
14. 「資本コストの推計」, 『桜井久勝(編著) 企業価値評価の実証分析』, 2010年, 407-442, (後藤雅敏と共著).
15. 「利益の品質と負債コストの関連性」, 『神戸大学ディスカッション・ペーパー』, 第2010・32号, 2010年.
16. 「業績の影響をコントロールした裁量的発生高の有効性に関する検証」, 『国民経済雑誌』, 第199巻, 第2号, 2009年, 53-88, (後藤雅敏と共著).
17. 「利益情報の価値関連性と株主資本コストの関係」, 『神戸大学ディスカッション・ペーパー』, 第2009・23号, 2009年, (笠井直樹と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Implied cost of capital over the last 20 years, *The Japanese Accounting Review*, Vol.1, 2011, 71-104, (with Masatoshi Gotoh).
2. “The Effect of Managerial Ownership on the Cost of Debt: Evidence from Japan,” *Journal of Accounting Auditing and Finance*, 2011, Vol.26, No.3, 590-620, (with Akinobu Shuto).

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association
2. ディスクロージャー研究学会

3. 日本会計研究学会
4. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

1. レフェリー: The Japanese Accounting Review, 兼松フェロウシップ, 現代ディスクロージャー研究, 経済経営研究年報
2. 幹事: 日本会計研究学会

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金: 若手研究(B), 「利益の品質と資本コストおよび負債コストとの実証的関連性」, 2009-2012年度.
2. 科学研究費補助金: 若手研究(B), 「会計情報の国際的波及効果」, 2015-2016年度(予定).

【7】 海外における研究・教育活動

1. Visiting scholar: University of California, Berkeley, 2013年8月-2015年3月.

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. The effect of product market competition on discretionary management forecasts, American Accounting Association Midyear Meeting of International Accounting Section, USA, January 2015.
2. Credibility of management earnings forecasts and future returns, American Accounting Association Annual Meeting, USA, August 2014.

【9】 現在の研究活動

1. 会計情報の波及効果に関する実証研究。
2. 経営者による予想利益の裁量的調整行動の存在と動機, および経済的帰結に関する実証研究。

【10】 社会活動・実務経験

なし

ば ば しんいち
49. 馬場 新一

職名 准教授

学位 学士（商学）（関西学院大学）（1976年）

生年 1953年

学歴

1976年3月 関西学院大学商学部卒業

職歴

1976年3月 江崎グリコ株式会社入社

1977年4月 営業部菓子MD1課

2001年1月 江崎グリコ株式会社お客様相談室長

2013年4月 江崎グリコ株式会社お客様センター長

2013年10月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 CSR論, トップマネジメント講座

大学院（一般）管理会計特殊研究「消費者問題」

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

社会連携委員室（2014年4月-現在）

入試試験機械化委員会（2014年5月-現在）

【1】 国内出版

1. 著書

1. 図解でわかる部門の仕事「お客様相談室」改訂
2版 共著

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

なし

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

1. 文部科学省科学研究費：挑戦的萌芽研究「震災復興のためのCRM（コズリレーテッド・マーケティング）モデルの開発」

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況（過去3年間）

なし

【9】 現在の研究活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

1. 神戸市消費生活会議 消費者教育検討部会
委員（2011年4月-現在）

2. ひょうご消費生活三者会議 委員
(2013年2月-現在)
3. 兵庫県消費者教育コーディネーター養成講座
検討会 委員 (2015年6月-現在)
4. 公益社団法人 消費者専門家会議 理事 西
日本支部 支部長 (2012年5月-2014年4月)

なかむら えり
50. 中村 絵理

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2011年）

生年 1984年

学歴

2006年3月 神戸大学経営学部卒業

2008年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了

2011年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了

職歴

2011年4月 信州大学経済学部 講師

2014年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国語講読

大学院（一般）市場経済分析特殊研究（公益事業論）

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「組織スラックはR&D投資と環境投資を促進するのかわ」、『日本経営学会誌』、2011年、15-26頁。

3. その他国内論文

1. 「組織スラックが企業活動に与える影響についての実証研究」、『博士論文（神戸大学）』2011年。
2. 「組織スラックと企業のパフォーマンスの関係に関する実証研究」、『修士論文（神戸大学）』2008年。
3. The Effect of Demand Response on Electricity Consumption in Japan, 『Kobe University Discussion Paper Series』2015年。（with Fumitoshi Mizutani, Takuro Tanaka）
4. An Analysis of Household Electricity Saving Behavior Using the Stochastic Frontier Function, 『Kobe University Discussion Paper Series』2015年。（with Fumitoshi Mizutani）
5. Postal Services: Governments and Firms' Perspective, 『神戸大学ディスカッションペーパー』2014年。（Fumitoshi Mizutani, Shuji Uranishiとの共著）
6. What Most Affects A Firm's Costs : Internal or External Factors, or Both?, 『神戸大学ディスカッションペーパー』、2014年。（Fumitoshi Mizutaniとの共著）
7. The Difference between Observed Level and Theoretically Possible Level of CSR Investments: Analysis of CSR Slack using Stochastic Frontier Model, 『信州大学スタッフペーパーシリーズ』、2013年、13-01号。
8. The Bidirectional Relationship between CSR Activities and Economic Performance: Analysis using a Simultaneous Equations Model, 『信州大学スタッフペーパーシリーズ』、2012年、12-01号。
9. 「組織スラックと企業のパフォーマンスの関係についての分析：同時方程式による推定」、『六甲台論集』、2010年、第57巻、第2号、29-42頁。
10. 「組織スラックは非効率か」、『国民経済雑誌』、2010年、第201巻、第4号、29-41頁。
11. 「日本企業における組織スラックの推定：確率フロンティアモデルによる分析」、『六甲台論集』、2010年、第56巻、第4号、1-16頁（神戸大学大学院経営研究会）。

【2】 海外出版

1. 著書

なし

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The bidirectional CSR investment – economic performance relationship, *Journal of Global Responsibility*, 2015, Vol. 6 Iss: 1, pp.128 - 144.
2. “The Impact of Shareholders’ Types on Corporate Social Responsibility: Evidence from Japanese firms, *Journal of Global Responsibility*, 2013, Vol. 4, Issue 1, pp.113-130.
3. Managerial Incentive, Organizational Slack, and Performance: Empirical Analysis of Japanese Firms’ Behavior, *Journal of Management and Governance, Published online*, 2012.
4. Does Environmental Investment Really Contribute to Firm Performance? An Empirical Analysis Using Japanese Firms, *Eurasian Business Review*, 2011, Vol. 1, No. 2, pp.91-111.
5. The Effect of Public Involvement on Firm Inefficiency: Evidence using Japanese Private Firms,” *Review of Managerial Science*, 2010, Vol.4, pp.217-258.

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本経営学会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金「取引費用理論による公益事業の最適組織形態と効率性の決定要因に関する実証研究」2015-2017年度.

【7】 海外における研究・教育活動

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Is the Current Implementation of Corporate Social Responsibilities at the Appropriate Level? Analysis of “CSR Slack” using Stochastic Frontier Model, 2013 International Academic Conference organized by International Institute of Social and Economic Sciences in Prague, the Czech Republic, 1-4, Sep. 2013.
2. The Impact of Shareholders’ Types on Corporate Social Responsibility: Evidence from Japanese firms, Eurasia Business and Economics Society (EBES) 2013 Conference at Sapienza University, Rome, Italy, 11-13, Jan. 2013, 平成23年度科学研究費「研究活動スタート支援」による業績.
3. The Bidirectional Relationship between CSR Activities and Economic Performance: Analysis using a Simultaneous Equations Model, Eurasia Business and Economics Society (EBES) 2012 Conference at the Marriott Hotel, Warsaw, Poland, 31.Oct.-3.Nov. 2013, 平成23年度科学研究費「研究活動スタート支援」による業績.

【9】 現在の研究活動

1. 公益事業の組織のガバナンスに関する取引費用理論に基づいた実証研究

【10】 社会活動・実務経験

なし

51. 各務 和彦

職名 准教授

学位 博士（経済学）（大阪大学）（2007年）

生年 1977年

学歴

2000年3月 南山大学経済学部経済学科卒業
 2002年3月 神戸大学大学院経済学研究科経済システム分析専攻博士前期課程修了
 2007年3月 大阪大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程修了 博士（経済学）

職歴

2007年4月 千葉大学法経学部講師
 2009年4月 千葉大学法経学部准教授
 2014年4月 千葉大学法政経学部准教授
 2015年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 経営統計
 大学院（一般）統計的方法論研究, Statistics
 大学院 (GMAP/SESAMI) なし
 大学院 (MBA) なし

学内役職

六甲台電算機合同委員会・委員長(2015年4月-現在)

【1】 国内出版

1. 著書

1. 『基本演習 統計学』, 新世社, 2012年 (大屋幸輔との共著)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「道路利用における直接効果と間接効果の計測」, 『日本統計学会誌』2015年.
 2. 「階層ベイズ・モデルによるクレジット・スコアリング・モデル: 住宅ローンコンソーシア

ム・データへの応用」, 『日本統計学会誌』, 第42巻1号, 2012年, 25-53頁. (奥村拓史との共著)

3. 「地域間所得分布と所得収束仮説」, 『日本統計学会誌』2011年, 第41巻第1号, 181-200頁. (和合肇, 大塚芳宏との共著)
4. 「パレート分布を用いた経済格差の検定」, 『日本統計学会誌』第38巻2号, 2009年, 151-164頁. (西埜晴久, 大鋸崇との共著)
5. 「集積の経済と外生的な技術進歩」, 『地域学研究』, 第35巻第1号, 2005, 143-153頁. (福重元嗣との共著) (他共著3編)

3. その他国内論文

1. 「家計調査からみた日本の所得分配: Singh-Maddala 分布による検討」, 『千葉大学経済研究』, 第28巻第3号, 2013年, 83-99頁.
2. 「ベイズ型パネル空間プロビット・モデルを用いた地域景気循環モデル」, 『ファイナンス・景気循環の計量分析 (浅子和美・渡部敏明編著, ミネルヴァ書房)』, 第6章, 2011年, 135-168頁. (和合肇との共著) (他共著3編)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Comment on " Measuring the performance of nations at Beijing summer Olympics using integer-valued DEA model, *Journal of Sports Economics, Forthcoming*. (with Yang Wang)
2. A random walk stochastic volatility model for income inequality, *Japan and the World Economy, Forthcoming*. (with Haruhisa Nishino)
3. To introduce recycling or not: A panel data analysis in Japan, *Resources, Conservation & Recycling, Vol.101*, 2015, pp.84-95. (with Takehiro Usui, Mitsuko Chikasada)
4. Comparison of the sampling efficiency in spatial autoregressive model" *Open Journal of Statistics, Vol.5*, 2015, pp.10-20. (with Yoshihiro Ohtsuka)
5. Integrated purchase model using Gaussian Copula,

Behaviormetrika, Vol.41, No.2, 2014, pp.147-167.
(with Genya Kobayashi, Eisaku Sato, Hideo
Kozumi) (他単著 2 編・共著 14 編)

3. その他海外論文

1. “School choice effects in Tokyo metropolitan area: A Bayesian spatial quantile regression approach,” in Jeliaskov, I. and Yang, X.-S. eds., *Bayesian Inference in the Social Sciences*, John Wiley & Sons, Ltd., Ch.14, 2014, pp.317-329. (with Hajime Wago)
2. “On the roles of spatial interaction and heteroscedasticity in crime modeling,” in Hasselm, A.E. ed., *Crime: Causes, Types and Victims*, Nova Science Publisher, Ch.13, 2011, pp.211-220. (with Yoshihiro Ohtsuka, Syuhei Arasawa) (他共著 3 編)

【3】 主要所属学会

1. Econometric Society
2. International Society for Bayesian Analysis
3. 日本経済学会
4. 日本統計学会
5. 日本応用経済学会
6. 日本財政学会
7. 日本地域学会
8. 応用地域学会
9. 生活経済学会

【4】 学会における活動

1. 雑誌編集委員 : 日本応用経済学会編集委員(2015年-2017年)
2. レフェリー : *Annals of Regional Science*, *Applied Economics*, *Computational Statistics*, *Computational Statistics & Data Analysis*, *Econometric Theory*, *Economic Modelling*, *Economics Bulletin*, *Empirical Economics*, *Environmental Economics and Policy Studies*, *Geographical Analysis*, *Hitotsubashi Journal of Economics*, *Japanese Economic Review*, *Journal of the Japan Statistical Society*, *Journal of the Operational Research Society*, *Regional Studies*, *Review of International Economics*, *Review of Urban & Regional Development Studies*, *ジャフイー・ジャーナル*, *地域学研究*, *応用地域学研究*,

応用経済学研究, 日本統計学会誌, 経済研究 (一橋大学), 経済研究 (東京国際大学), 統計数理

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 日本学術振興会科学研究費補助金: 基盤研究(C), 「所得格差の要因分析のための基礎的研究」, 2014-2016年度.
2. 文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B), 「大規模空間データに対する計量手法の開発とその応用」, 2011-2013年度
3. 文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B), 「時空間計量モデルの経済データへの応用」, 2008-2010年度

【7】 海外における研究・教育活動

1. Project assistant: Department of Economics and Finance, Institute for Advanced Studies, 2005-2006. (他 1 件)

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

1. 24th International Workshop on Matrices and Statistics, Hainan Normal University, China, May 2015
2. European Seminar on Bayesian Econometrics, November 2014
3. ISBA 2014 World Meeting, Cancun, July 2014
4. Econometric Society Australian Meeting 2013, University of Sydney, July 2013

【9】 現在の研究活動

1. ベイズ統計学の空間計量経済モデルと所得分布の推定への応用

【10】 社会活動・実務経験

なし

52. 保田 隆明

職名 准教授

学位 博士（商学）（早稲田大学）（2016年）

生年 1974年

学歴

1998年3月 早稲田大学商学部卒業
 2010年3月 早稲田大学大学院ファイナンス研究科
 修了
 2013年3月 早稲田大学大学院商学研究科博士課程
 後期課程退学
 2016年3月 博士号授与（商学：早稲田大学）

職歴

1998年4月 リーマン・ブラザーズ証券会社入社
 2002年6月 UBS証券会社入社
 2004年3月 Life On株式会社入社
 2005年1月 ネットエイジキャピタルパートナーズ株式会社入社
 2006年1月 株式会社オフィスワクワク入社
 2009年3月 金融庁金融研究センター専門研究員
 2010年4月 小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻准教授
 2014年4月 昭和女子大学グローバルビジネス学部准教授
 2015年9月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国書講読
 大学院（一般）なし
 大学院（GMAP/SESAMI）なし
 大学院（MBA）現代経営学応用研究（アントレプレナーファイナンス）

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

- 『あわせて学ぶ 会計&ファイナンス入門講座』ダイヤモンド社，2013年（田中慎一との共著）
- 『証券市場のグランドデザイン：日本の株式市場はどこに向かうのか』中央経済社，2012年
- 『ベンチャーキャピタルによる新産業創造』中央経済社，2011年（岩井浩一との共著）
- 『企業ファイナンス入門講座』ダイヤモンド社，2008年。

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

- 「わが国の第三者割当増資に関する実証分析」、『経営財務研究』2011年，第31巻第2号，20-30頁
- 「自社株買いにおける流動性仮説の実証分析」、『証券アナリストジャーナル』2011年，49巻10号，76-87頁。
- 「わが国の新規株式公開企業の質の変遷（日本ベンチャー学会賞受賞）」、『日本ベンチャー学会誌 Venture Review』2011年，No.18，pp.35-44。（岩井浩一との共著）

3. その他国内論文

- Does Ownership Really Matter? The role of foreign investors in corporate governance in Japan, 『RIETI Discussion Paper Series』, 15-E-078, 2015. (Hideaki Miyajima, Ryo Ogawa との共著)
- Ownership, Control and Commitment : The Case of Japan since the Late 20th Century, 『Policy Research Institute』, Vol.11, No.3, pp.361-393, 2015. (Hideaki Miyajima との共著)
- 「株式所有構造と企業統治 ～機関投資家の増加は企業パフォーマンスを改善したのか～」、『フィナンシャル・レビュー』, 2015年，第1号，通巻第121号，3-36頁。（宮島英昭との共著）
- 「地方自治体のふるさと納税を通じたクラウドファンディングの成功要因」、『商学討究』2014年，64巻4号，257-272頁。
- 「変貌する日本企業の所有構造をいかに理解するかー内外機関投資家の銘柄選択の分析を中心としてー」、『金融庁金融研究センター ディスカッションペーパー』, 2012年。（宮島英昭との共著）
- 「第三者割当増資後の長期株価パフォーマンスと業績推移」、『商学討究』, 2011年，62巻2/3号，67-183頁。

7. 「地方証券取引所活性化についての検討」,『商学討究』, 2011年, 61巻4号, 141-159頁.
8. 「新興市場と新規株式公開のレビュー」,『金融庁金融研究研修センター ディスカッションペーパー』, 2010年. (岩井浩一との共著)

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

2. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本ファイナンス学会
2. 日本経営財務研究学会
3. 日本ベンチャー学会
4. 日本経済学会
5. 証券経済学会
6. 地域活性学会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 日本ベンチャー学会賞受賞 (2012年)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B), 「株主構成とペイアウト政策の関係性」, 2014-2016年度.
2. 文部科学省科学研究費補助金: 若手研究(B), 「我が国のエクイティファイナンスに関する実証分析」, 2011-2013年度.
3. 野村財団海外派遣助成, 「Liquidity, Ownership Structure, and Market Share Repurchases:

Evidence from Japan」, 2011年度.

4. 野村財団研究助成, 「我が国の第三者割当増資に関する実証分析」, 2010年度.

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. クラウドファンディング
2. ペイアウト
3. ふるさと納税

【10】 社会活動・実務経験

1. 文部科学省 地域イノベーション戦略支援プログラム審査委員 (2014年-現在)
2. 経済産業研究所 企業統治分析のフロンティア: 企業成長・価値創造と企業統治プロジェクト研究員 (2013年-現在)
3. 小林産業株式会社 独立社外取締役 (2015年-現在)

53. 宮尾 学

職名 准教授

学位 博士（経営学）（神戸大学）（2010年）

生年 1975年

学歴

1998年3月 京都大学工学部工業化学科卒業
 2000年3月 京都大学大学院工学研究科高分子化学
 専攻博士前期課程修了
 2006年9月 神戸大学大学院経営学研究科現代経営
 学専攻専門職学位課程修了
 2010年3月 神戸大学大学院経営学研究科現代経営
 学専攻博士後期課程修了

職歴

2000年4月 サンスター株式会社
 2011年4月 滋賀県立大学人間文化学部生活デザ
 イン学科助教
 2014年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国語講読
 大学院（一般）経営制度特殊研究（製品開発）
 大学院（GMAP/SESAMI）なし
 大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「技術の普及プロセスにおける再発明：技術
 の社会的形成アプローチによる検討」、『日本経
 営学会誌』2014年，第33巻，61-72頁。（原拓

志と共著）

2. 「製品カテゴリを再定義する新製品開発 —
 技術の社会的形成アプローチによる検討」、『組
 織科学』2011年，44巻，3月号，120-131頁。
3. 「製品カテゴリの社会的形成」、『日本経営学会
 誌』2009年，24巻，3-15頁。

3. その他国内論文

1. 「技術の社会的形成」、『組織学会編『組織論レ
 ビュー・外部環境と経営組織』』，2013年，所収，
 89-136頁。
2. 「象印マホービン株式会社による圧力IH炊飯
 ジャー『極め炊き』の開発」、『人間文化』，2013
 年，第33巻，45-52頁。
3. 「三菱電機株式会社「本炭釜 NJ-WS10」の開発」，
 『神戸大学大学院経営学研究科 ディスカッシ
 ョン・ペーパー』，2013年，2013-15。
4. 「三菱電機株式会社「蒸気レス IH NJ-XS10J」
 の開発」、『神戸大学大学院経営学研究科 ディス
 カッション・ペーパー』，2013年，2013-16。
5. 「シャープ株式会社「ヘルシオ炊飯器」の開発」
 『神戸大学大学院経営学研究科 ディスカッシ
 ョン・ペーパー』，2013年，2013-17。
6. 「製品コンセプトのダイナミクス —株式会社
 イトーキによるオフィスチェア開発の事例研
 究」、『人間文化』，2012年，第32巻，24-35頁。
7. 「交通系ICカードのイノベーション：Suica・
 ICOCA・PiTaPaの事例研究」、『神戸大学大学院
 経営学研究科 ディスカッション・ペーパー』，
 2012年，2012-27。（原拓志との共著）
8. 「新製品開発と製品カテゴリのダイナミクス」，
 『神戸大学大学院経営学研究科博士論文』，2010
 年。
9. 「技術の社会的形成アプローチによる新製品開
 発研究」、『神戸大学大学院経営学研究科博士課
 程後期課程第二論文』，2008年。
10. 「健康食品業界における製品開発 —研究開発
 による「ものがたりづくり」—」、『神戸大学大
 学院経営学研究科専門職学位論文』，2006年。

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

なし

3. その他海外論文

1. International supplier system of the Japanese Traditional Industry: The case study on outsourcing of Shibori (tie-dye) manufacturing from Arimatsu Japan to China," *Proceedings of the 12th World Congress of the IFSAM*, 2014. (with Yousuke Fujiki, Kaori Ueda)
2. New product development in an emerging market: Case studies in the premium rice cooker market, *Proceedings of the 12th World Congress of the IFSAM*, 2014.
3. Concept shifting in the product development and factors moderating it: Investigation in the comparative case studies, *Proceedings of the 11th World Congress of the IFSAM*, 2012.

【3】 主要所属学会

日本経営学会, 組織学会

【4】 学会における活動

機関誌編集委員 (日本経営学会)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金(研究活動スタート支援) 課題番号: 23830053, 研究課題名: 開発途中での製品コンセプト変更の効果的なマネジメントに関する理論と方法の構築, 2011年度-2012年度
2. 科学研究費補助金(若手研究B) 課題番号: 15K17113, 研究課題名: 製品開発における組織的な曖昧さへの耐性が開発成果に与える影響の研究, 2015年度-2018年度

【7】 海外における研究・教育活動

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. New product development in an emerging market: Case studies in the premium rice cooker market, IFSAM2014 World Congress in Tokyo, Meiji University : Japan, September 2014.
2. International supplier system of the Japanese Traditional Industry: The case study on outsourcing of Shibori (tie-dye) manufacturing from Arimatsu Japan to China, IFSAM2014 World Congress in Tokyo, Meiji University: Japan, (with Yousuke Fujiki, Kaori Ueda) , September 2014.

【9】 現在の研究活動

1. イノベーションを成し遂げようとする際に現れる様々な「壁」を乗り越える方法を明らかにするために, 1) 新たな市場を形成する製品の開発プロセスの解明, 2) 開発初期の曖昧な段階での諸活動についての調査, などの研究課題に取り組んでいる。

【10】 社会活動・実務経験

1. 2000年4月-2011年3月: サンスター株式会社にて, 製品開発, 研究管理, 商品企画に従事。

54. 森村 文一

職名 准教授

学位 博士（商学）（神戸大学）（2010年）

生年 1982年

学歴

2005年3月 立命館大学経済学部経済学科卒業
 2007年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
 前期課程修了
 2010年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程
 後期課程修了博士（商学）取得

職歴

2010年4月 神戸大学経済経営学研究科研究員
 2011年4月 京都産業大学経営学部助教
 2014年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国書講読
 大学院（一般）マーケティング特殊研究
 大学院（GMAP/SESAMI）なし
 大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「ITベースのマーチャンダイジングにおける
 店舗従業員の情報処理と店舗マネジャーのリー
 ダーシップに関する実証研究」、『流通研究』
 2014年、第16巻第4号、35-53頁。

3. その他国内論文

1. 「サービス・イノベーション IKEA Japan の事

例 - グローバル製造小売業におけるサービ
 ス・イノベーション - 」、『平成22年度内閣府
 経済社会総合研究所 サービス・イノベーショ
 ン政策に関する国際共同研究 製造業研究会
 報告書』、2011年、第2章。（南知恵子との共著）

2. 「信念概念によるブランド信頼性の再検討」、
 『神戸大学大学院博士課程モノグラフシリー
 ズ』、2010年、No.1007。

3. 「ロイヤルティ・モデルの再検討 - ロイヤルテ
 ィ概念とコミットメント概念の統合的視点 - 」、
 『神戸大学大学院博士課程モノグラフシリー
 ズ』、2009年、No.0925。

4. 「積極的ロコミ、及び消極的ロコミに与える影
 響要因としての顧客満足、コミットメントに関
 する実証研究」、『神戸大学大学院博士課程モノ
 グラフシリーズ』、2009年、No.0924。

5. 「小売業における積極的ロコミ、及び再購買意
 図への影響要因としてのコミットメント」、『神
 戸大学大学院博士課程モノグラフシリーズ』、
 2009年、No.0923。

6. 「リテール・マーケティングにおけるサービ
 ス・エンカウンター革新 - イオンリテール（株）
 のセルフレジ導入のケース - 」、『季刊マーケテ
 イング・ジャーナル』、2009年、第113号、72 -
 86頁。（南 知恵子との共著）

7. 「インターナル・マーケティング」、『季刊マー
 ケティング・ジャーナル』、2009年、第113号、
 87-97頁。

8. 「IT サービス開発における知識移転の促進要
 因」、『六甲台論集 - 経営学編 - 』、2008年、第
 55巻3号、31 - 50頁。

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. ICT's Integration Effects on the Relationship
 Benefits and Business Process in Industrial Markets,
*The Proceedings of 2015 Academy of Marketing
 Science Annual Conference*, 2015. (with Chieko
 Minami, Kenichi Nishioka)

2. WAITING IN CHECKOUT LINES: HOW
 SELF-CHECKOUT SYSTEMS AFFECT

CUSTOMERS' PERCEPTIONS OF WAITING AND SATISFACTION, 2014 *Global Marketing Conference at Singapore Proceedings*, 2014, 2106-2116. (with Kenichi, Nishioka, Chieko, Minami)

3. Store Information Processing in IT Based Retail Merchandising, *Journal of Marketing Trends*, 2013, 2(1-2) , pp.65-72.
4. Waiting for Checkout: Toward an Understanding of Customers' Perceptions, *The Proceedings of the Academy of Marketing Science 16th Biennial World Marketing Congress*, 2013, Volume XVI Melbourne, Australia. (with Kenichi Nishioka, Chieko Minami)
5. Store Information Processing in Retailing Merchandising, *The Proceedings of 11th International Marketing Trends Conference*, 2012, Venice, Italy.
6. Customer Loyalty: Toward a Reexamined Conceptual Model about Customer Satisfaction, Commitment and Loyalty, *The Proceedings of 5th Conference on Retailing in Asia Pacific*, 2009, Hong Kong, China.

3. その他海外論文

1. Unifying Service Operations and Marketing with 'Branded Format' Strategy, *The Proceedings of the 4th Production & Operations Management World Conference*, 2012. (with Chieko Minami)

【3】 主要所属学会

1. Academy of Marketing Science
2. 日本商業学会
3. 日本消費者行動研究学会
4. オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会

【4】 学会における活動

1. 日本商業学会 関西部会幹事 (2013年-現在)
2. 日本消費者行動研究学会 幹事 (2014年-現在)

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況 (過去3年間)

1. Does "Servitization" contribute to business performance? An empirical study in Japan, *Frontiers in Service Conference 2015*, Marriott San Jose, USA, July 2015. (with Chieko, Minami and Kenichi, Nishioka)
2. ICT's Integration Effects on the Relationship Benefits and Business Process in Industrial Markets, *Academy of Marketing Science 2015 Annual Conference*, Westin Denver Downtown, USA, May 2015.(with Chieko Minami and Kenichi Nishioka.)
3. WAITING IN CHECKOUT LINES: HOW SELF-CHECKOUT SYSTEMS AFFECT CUSTOMERS' PERCEPTIONS OF WAITING AND SATISFACTION, 2014 *Global Marketing Conference at Singapore*, July 2014. (with Kenichi, Nishioka and Chieko, Minami)
4. Waiting for Checkout: Toward an Understanding of Customers' Perceptions, *Academy of Marketing Science 16th Biennial World Marketing Congress*, Langham Hotel : Melbourne, Australia, July 2013. (with Kenichi Nishioka and Chieko Minami)
5. Store Information Processing in IT Based Retail Merchandising, *12th International Marketing Trends Conference*, ESCP Europe : Paris, France, 2013.

【9】 現在の研究活動

1. ICT とサービス・オペレーションに関する研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 中小企業庁補助事業「地域中小企業・小規模事業者人材確保支援事業」採択事業, 神戸新聞社・兵庫県中小企業団体中央会主催・M ラボ委員 (分科会委員長) (2013年-現在)

は だ よしはる
55. 波田 芳 治

職名 特命准教授（社会人・留学生および GMAP 担当教員）

学位 工学修士（名古屋工業大学）（1975 年）

生年 1949 年

学歴

1973 年 3 月 名古屋工業大学工学部卒業
1975 年 3 月 名古屋工業大学大学院工学研究科金属工学専攻修士課程修了

職歴

1975 年 4 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業部長府北工場技術課
1980 年 2 月 株式会社神戸製鋼所特殊合金本部長府北工場品質保証課
1981 年 1 月 株式会社神戸製鋼所特殊合金本部技術部
1983 年 8 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼生産本部鋼管技術部
1987 年 1 月 株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所鋼板開発部薄板開発室主任研究員
1989 年 4 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部生産本部加古川製鉄所鋼板開発部薄板開発室主任研究員
1992 年 6 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部生産本部加古川製鉄所技術部冷延・表面処理鋼板技術室主任部員
1994 年 1 月 株式会社神戸製鋼所人事部付 (KOBE STEEL USA INC.DETROIT OFFICE)
1995 年 10 月 株式会社神戸製鋼所人事労政部付 (KOBE STEEL USA INC.DETROIT OFFICE)
1998 年 4 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部加古川製鉄所薄板部薄板技術管理室主任部員
1998 年 10 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼事業本部生産技術部主任部員
1999 年 4 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼カンパニー生産本部生産技術部主任部員
2000 年 6 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼部門生産本部

生産技術部主任部員

2000 年 6 月 株式会社神戸製鋼所鉄鋼部門デュッセルドルフ事務所長

2003 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科講師

2012 年 3 月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

2015 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科特命准教授

担当科目（2013-2015 年度）

学 部 外国書講読 (taught in English), 経営学入門演習

大学院（一般）日米欧産業経営特殊研究

大学院 (GMAP/SESAMI) 海外実習

大学院 (MBA) 日英産業事情応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

1. 「英語による参加型の経営専門教育を目指して」、『国民経済雑誌』, 別冊「経済学・経営学学習のために」, 平成 21 年度 前期号, 2009 年, 61-69.

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 神戸大学経済経営学会
2. 日本鉄鋼協会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. 日米欧の製造業における企業統治の形態比較と課題の整理
2. 研究開発投資に対する経営資源管理の研究

【10】 社会活動・実務経験

1. 日本鉄鋼協会の各種委員 (1998-2000年)
2. デュッセルドルフの日本商工会議所理事及び日本クラブ運営委員 (2000-2002年)
3. OECDの下部委員会委員 (2000-2002年)
4. IISIのULSABプロジェクト委員(1995-1998年)
5. 株式会社神戸製鋼所欧州、中東、アフリカ地区代表デュッセルドルフ事務所長 (2000-2002年)

56. Bishnu Kumar ADHIKARY

職名 特命准教授

学位 Ph.D. (アジア太平洋学) (立命館アジア太平洋大学) (2012年)

生年 1972年

学歴

1994年3月 ダッカ大学経営学部卒業
 1995年9月 ダッカ大学会計学経営学修士課程修了
 1998年6月 カルカッタ大学インド社会福祉経営学
 専門職課程修了
 2006年3月 立命館アジア太平洋大学大学院経営管
 理研究科博士課程修了
 2012年9月 立命館アジア太平洋大学大学院アジア
 太平洋研究科博士課程修了

職歴

1994年3月 バングラデシュ・インスティテュー
 ト・オブ・バンク・マネージメント
 講師
 2006年7月 バングラデシュ・インスティテュー
 ト・オブ・バンク・マネージメント
 助教授
 2008年4月 立命館アジア太平洋大学准教授
 2014年4月 神戸大学大学院経営学研究科特命教
 授

担当科目 (2013-2015年度)

学 部 Financial Management for the Small Business
 大学院 (一般) なし
 大学院 (GMAP/SESAMI) Introduction to Finance, R
 esearch Topics in Strategic
 Entrepreneurship: Small B
 usiness Finance, Introducti
 on to Finance Accounting,
 Financial accounting
 大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Determinants and impacts of foreign direct investment in south asia*, Lambert academic publishing.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Factors Influencing FDI in South Asian Economies: A Comparative Analysis. *Ruhuna Journal of Management and Finance*, Vol. 2, 2015, forthcoming.
2. Dynamic Effects of FDI, Trade Openness, Capital Formation and Human Capital on the Economic Growth Rate in the Least Developed Economies: Evidence from Nepal., *International Journal of Trade Economics and Finance*, Vol. 6, No.1, 2015.
3. Dynamic Effects of FDI, Trade Openness, Capital Formation and Human Capital on the Economic Growth Rate in the Least Developed Economies: Evidence from Nepal. *International Journal of Trade, Economics and Finance*, Vol.6, No.1, 2015, pp.1-7.
4. Board Structure and Firm Performance in Emerging Economies: Evidence from Vietnam, *Ruhuna Journal of Management and Finance*, Vol.1, No.1, 2014, pp.53-72. (with Le Huynh Gia Hoang)
5. The Success of Microcredit in Bangladesh: Supplementing Group Lending Explanation with

Institutional Understanding, *Review of Integrative Business and Economies*, Vol. 2. No. 1, , 2013 pp.471-490. (coauthored with Munim Kumar Barai)

なし

6. Trends and Dimensions of FDI in South Asian Economies — A Comparative Analysis. *Journal of World Investment and Trade*, Vol.13, No.5, 2012, pp. 729-768.
7. Impact of Foreign Direct Investment, Trade Openness, Domestic Demand, and Exchange Rate on Export Performance of Bangladesh. *Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies*, Vol. 31, 2012, pp. 25-38.
8. Foreign Direct Investment, Governance, and Economic Growth: A Panel Analysis of Asian Economies. *Asia Pacific World*, Vol. 2, No. 1, Spring 2011, pp. 72-94.
9. FDI, Trade Openness, Capital Formation, and Economic Growth in Bangladesh: A Linkage Analysis. *International Journal of Business and Management*, Vol. 6, No. 1, 2011, pp.16-28.
10. Does Good Governance Matter for FDI inflows? Evidence from Asian Economies”. *Asia Pacific Business Review*, Vol. 17, No. 3, 2011, pp.281-299.
11. The Grameen Bank “Empowering the Poor” Model of Microcredit: An Institutional Comparison with the Traditional Mode of the Japanese Banking System”. *Journal of Comparative Asian Development*, Vol. 10, No.1, 2011, pp. 129-156.
12. A “Bank Rent” Approach to Understanding the development of Banking System in Bangladesh”. *Contemporary South Asia*, Vol. 18, No. 2, 2010, pp. 155-173.

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

1. 科学研究費補助金：基盤研究(B), 「Exploring Crowdfunding Potential for Promoting Regional Small Businesses in Japan」, 2015-2017 年度

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

なし

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

やぎみちゆき
57. 八木 迪幸

職名 特命准教授

学位 博士（環境科学）（東北大学）（2013年）

生年 1984年

学歴

2008年3月 横浜国立大学経営学部経営学科卒業
2010年3月 横浜国立大学大学院国際社会科学研究
科経営学専攻博士前期課程修了
2013年3月 東北大学大学院環境科学研究科第1コ
ース博士後期課程修了

職歴

2013年4月 東北大学大学院環境科学研究科産学
官連携研究員
2013年5月 リーズ大学地球環境学部客員研究員
2013年8月 東北大学大学院環境科学研究科産学
官連携研究員
2014年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国語講読
大学院（一般）なし
大学院（GMAP/SESAMI）Project Research
大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「国内製造業の環境技術特許と財務パフォー
マンズの因果関係性分析」、『環境科学会誌（環
境科学会）』、2011年、第24巻、2号、114-122

頁。（藤井秀道，馬奈木俊介，金子慎治との共
著）

2. 「エネルギー技術進歩の要因分析」、『計画行政
（日本計画行政学会）』、2008年、第31巻、2
号、79-84頁。（馬奈木俊介との共著）
3. 「CSRと企業評価に関する分析」、『環境科学会
誌（環境科学会）』、2008年、第21巻、3号、
235-238頁。（馬奈木俊介との共著）
4. 「環境規制と技術イノベーション：SOx・NOxに
おける特許分析」、『環境科学会誌（環境科学
会）』、2008年、第21巻、1号、3-15頁。（馬奈
木俊介との共著）

3. その他国内論文

1. 「The characteristics of corporate governance
driving Environment Social Governance disclosure:
In Energy & Utility Industry in Four Regions」、『土
木学会環境システム研究論文発表会講演集』、
2014年、Vol. 42, pp.255-266.（Qi Wu, Katsuhiko
Kokubuとの共著）
2. 「The Role of Environmental, Social and
Governance Initiatives in Securing Employee
Retention」、『土木学会環境システム研究論文発
表会講演集』、2014年、Vol. 42, pp.245-254.
（Oksana Arshynnikova, Katsuhiko Kokubuとの
共著）
3. 「How do firms disclose environmental
information on climate change in aspects of both
business risks and opportunities?」、『土木学会環境
システム研究論文発表会講演集』、2014年、Vol.
42, pp.237-244.（Honami Sakaguchi, Katsuhiko
Kokubuとの共著）
4. 「Why Should Companies Implement
Environmental and Social Policies?」、『土木学会環
境システム研究論文発表会講演集』、2014年、
Vol. 42, pp.219-230.（Kohei Matsumoto,
Katsuhiko Kokubuとの共著）
5. 「Expand the horizon: an empirical study of
sustainable supply chain management and firm
performance」、『土木学会環境システム研究論文
発表会講演集』、2014年、Vol. 42, pp.211-218.
（Xichen Sun, Katsuhiko Kokubuとの共著）
6. 「Competition and innovation: an inverted-U
relationship using Japanese industry data」、『RIETI
Discussion paper』、2013年、13-E-62.（馬奈木俊

介との共著)

7. 「日本漁業における費用削減の可能性：Catch Limit の実証分析」, 『日本水産学会誌 (日本水産学会)』, 2009 年, 第 75 巻, 6 号, 1079-1080 頁.
(馬奈木俊介との共著)

【2】 海外出版

1. 著書

1. 『「序章 本書の経済成長と技術進歩に関する背景と目次紹介」, 馬奈木俊介編 環境・エネルギー・資源戦略—新たな成長分野を切り拓く』, 日本評論社, 2013 年. (馬奈木俊介との共著)
2. 『「第 4 章 日本の漁業における費用削減の可能性」, 寶多康弘, 馬奈木俊介編 資源経済学への招待—ケーススタディとしての水産業』, ミネルヴァ書房, 2010 年. (馬奈木俊介との共著)

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Water Use and Wastewater Discharge of Industrial Sector in China, *International Journal of Ecological Economics and Statistics*, 2014, vol.32, No.1, pp.33-43. (with S. Managi)
2. Catch Limits, Capacity Utilization and Cost Reduction in Japanese Fishery Management, *Agricultural Economics*, 2011, vol.42, No.5, pp.577-592. (with S. Managi)
3. Environmental efficiency of energy, materials, and emissions, *Journal of Environmental Management*, 2015, vol.161, pp.206-218. (with H. Fujii, V. Hoang, and S. Managi)

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

なし

【4】 学会における活動

1. レフェリー：The Japanese Accounting Review, Agricultural Economics, Sustainability, Issues in

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

1. 科研費若手研究(B) 環境効率に着目した自動車保有のコホート分析, 2014 年度-2016 年度.

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

なし

タナカ ナカソネ グスタボ
58. Tanaka Nakasone Gustavo
アドルフォ ト シ ロ
Adolfo Toshiro

職名 特命准教授

学位 博士（先端マネジメント）（関西学院大学）（2015年）

生年 1966年

学歴

1991年3月 ペルー・カトリック大学経営科学卒業
2003年12月 ジョージア州立大学経営学研究科修了
2015年9月 関西学院大学大学院 経営戦略研究科
先端マネジメント専攻 修了

職歴

1989年4月 GG Racionalización y Consultaría,
Financial Manager
1990年6月 Indumex SA, Controller
1991年3月 Newton College 講師
1991年3月 Institute of Sciences and High
Technology 講師
1995年3月 Pontifical Catholic University Peru 講師
1995年8月 Navy School of Peru 講師
1999年8月 Daisuki S.A., Lima, Peru CFO
2003年6月 SunTrust Robinson Humphrey Capital
Markets, Atlanta, USA Analyst
2005年8月 Temple University 講師
2011年10月 同志社大学大学院ビジネス研究科講
師
2012年10月 同志社大学大学院ビジネス研究科准
教授
2016年1月 神戸大学大学院経営学研究科特命准
教授

担当科目（2013-2015年度）

学部 なし
大学院（一般）なし
大学院（GMAP/SESAMI）なし
大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. The movements toward the convergence of accounting standards in Peru. *International Review of Business*. No. 14, 2015, pp.25-60
2. The influence of cultural, legal, economic and financial, historical and political factors on the accounting system: Peruvian case. *Studies in Business and Accounting*. Vol.7,2015. pp.25-45.

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

1. 著書

1. *Accounting and Financial Analysis: Peruvian Context*, The Pontifical Catholic University of Peru 2015.
2. *Analysis of Financial Statements for Decision Making, published in Spanish*, The Pontifical Catholic University of Peru, 2001.

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Environmental Accounting in Peru: A Proposal Based on the Sustainability Reporting in the Mining, Oil and Gas Industries. *Contabilidad y Negocios*, Vol 10, No 19, 2015.
2. Value relevance of International Financial Reporting Standards (IFRS): Evidence from Peruvian companies. *Indian Journal of Accounting*. Vol XLVII (1),2015.

3. その他海外論文

1. Accounting Standards in Peru: Issues and Challenges. *Standardization of Financial Reporting and Accounting in Latin American Countries*, 2015.
2. Corporate social Disclosure Practices in Japanese Corporations: The Case of Meiko Electronics, **Corporate Social Disclosure Critical Perspectives in China and Japan**, 2015.

【3】 主要所属学会

1. American Accounting Association (AAA)
2. International Accounting Association of Educators and Researchers (IAAER)

【4】 学会における活動

1. Editorial Board : Accounting Education: An International Journal - IAAER

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金 (研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況 (過去 3 年間)

1. International Financial Reporting Standards (IFRS) and Value Relevance of Financial Statements in Peruvian corporations, Chicago 2015 - AAA - Annual Meeting and Conference on Teaching and Learning in Accounting, Illinois, USA.
2. Corporate Governance and Financial Performance in Peruvian corporations, Chicago 2015 - AAA - Annual Meeting and Conference on Teaching and Learning in Accounting, Illinois, USA.
3. Corporate Social Responsibility (CSR) in Peru: Financial Performance of Social Responsible Companies, The 12th World Congress of Accounting Educators and Researchers – IAAER,

Research Forum, Florence, Italy.

4. Accounting Education and the Accounting Profession in Peru: Analysis and Proposals, The 12th World Congress of Accounting Educators and Researchers – IAAER, Parallel Session: Accounting Education: International Issues, Florence, Italy.
5. Accounting Standards and Value Relevance of Financial Statements: The Case of Peru, The 12th World Congress of Accounting Educators and Researchers – IAAER, Florence, Italy.
6. Corporate Governance in Peru: The Link between Corporate Governance and Financial Performance, The 11th Workshop on Corporate Governance, St Gallen, Switzerland.
7. The need for International Accountings Standards The 22nd Annual Conference on Pacific Basin Finance, Economics, Accounting and Management, Nagoya, Japan.
8. Financial Accounting in Peru: Is Peru actually complying with IFRS?, Atlanta 2014 - AAA - Annual Meeting and Conference on Teaching and Learning in Accounting – Concurrent Session, Georgia, USA.
9. Proposal to improve Sustainability Reporting in Peru: New Environmental Accounting System, Atlanta 2014 - AAA - Annual Meeting and Conference on Teaching and Learning in Accounting -, Georgia, USA.
10. Corporate Social Responsibility (CSR) in Peru: Financial Performance of Social Responsible Companies, 5th Annual Academic Conference on Social Responsibility, University of Washington (Tacoma), USA.
11. The Actual Application of IFRS for SMES in Peru, 25th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues, Bali, Indonesia.

【9】 現在の研究活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

1. University of Tsukuba (MBA Program) – Instructor
2. Doshisha University (Institute for Liberal Arts) – Instructor

なかいまさとし
59. 中井 正敏

職名 講師（社会人・留学生担当教員）

学位 学士（経済学）（一橋大学）

生年 1955 年

学歴

1978 年 3 月 一橋大学経済学部卒業

職歴

1978 年 (株)東京銀行（現三菱東京 UFJ 銀行）入行
丸の内支店，国際投資部，資本市場部等を経て

1987 年 同行ロンドン支店

1990 年 スイス東京銀行

1993 年 営業本部，法人部

1998 年 マレーシア東京三菱銀行

2003 年 (財)国際通貨研究所出向 開発経済調査部
主任研究員

2004 年 (株)東京三菱銀行与信監査室

2006 年 (株)三菱東京 UFJ 銀行（合併により）

2009 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科講師

担当科目（2013-2015 年度）

学 部 外国書講読，企業と経営

大学院（一般）日米欧産業経営特殊研究

大学院 (GMAP/SESAMI) なし

大学院 (MBA) 日英産業事情応用研究

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

1. 日本金融学会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況(過去 3 年間)

なし

【9】 現在の研究活動

1. FTA における金融の自由化と資本規制

【10】 社会活動・実務経験

1. (株)東京銀行, (株)三菱東京銀行, (株)三菱東京UFJ銀行勤務(1978年4月-2009年3月). 国際投融资, 外国為替等, 主として国際部門に従事。ロンドン支店支店長代理, スイス東京銀行為替資金課長, マレーシア東京三菱銀行市場部門総括責任者, 同執行副頭取として海外駐在。
2. 同行在籍中に(財)国際通貨研究所出向(2003年1月-2004年4月). 開発経済調査部次長兼主任研究員。財務省委嘱調査「東アジアの決済システム」を共同執筆。外部委嘱調査「FTAによる金融の自由化と資本規制に関する調査」を共同執筆(主査)。
3. その他, 「アジア通貨危機とマレーシア」(国際金融2004年6月1日号(財)外国為替貿易研究会発刊)を執筆。

にしむら ゆきひろ

60. 西村 幸宏

職名 講師

学位 修士（国際関係）（コロンビア大学）（1984年）

生年 1959年

学歴

1981年12月 ニューヨーク州立大学バッファロー校 卒業

1984年5月 コロンビア大学大学院開発経済専攻修了

職歴

1984年8月 チェースマンハッタン銀行東京支店

1985年10月 スイスユニオン銀行東京駐在員事務所

1987年10月 プルデンシャル・ベーチェ証券東京支店国際金融部 バイスプレジデント

1991年10月 ナショナルウェストミンスター銀行東京支店 ディレクター兼デリバティブ営業部長

1998年8月 CDC マルシェ証券東京支店 副支店長兼マネージングディレクター

2011年4月 グローバルコラボレーションLLC、パートナー

2014年4月 神戸大学大学院経営学研究科講師

担当科目（2013-2015年度）

学 部 外国語講読（Taught in English），経営学入門演習

大学院（一般）日米欧産業経営特殊研究，国際経営システム特殊研究

大学院（GMAP/SESAMI）なし

大学院（MBA）なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他国内論文

なし

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

なし

3. その他海外論文

・

【3】 主要所属学会

1. 日本ファイナンス学会

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

なし

【6】 主な研究助成金（研究責任者のみ）

なし

【7】 海外における研究・教育活動

なし

【8】 国際学会での発表状況（過去3年間）

なし.

【9】 現在の研究活動

なし

【10】 社会活動・実務経験

1. チェースマンハッタン銀行東京支店(1984年-1985年)
2. スイスユニオン銀行東京駐在員事務所東京駐在代表補佐(1985年-1987年)
3. ナショナル・ウエストミンスター銀行東京支店金融部部長 (1987年-1991年)
4. CDC マルシェ証券東京支店 (現ナティクシス日本証券) 副支店長兼マネージング・ディレクター (1998年-2008年)
5. グローバルコラボレーション、パートナー (2010年-2012年)

ひ お き こ う い ち
61. 日置 孝一

職名 講師

学位 修士 (文学)

生年 1978 年

学歴

2002 年 3 月 信州大学人文学部人間情報学科卒業
2004 年 3 月 神戸大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了
2008 年 3 月 神戸大学大学院文化学研究科博士課程後期課程単位取得退学

職歴

2008 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科助教
2012 年 4 月 神戸大学大学院経営学研究科講師

担当科目 (2013-2015 年度)

学 部 情報基礎
大学院 (一般) なし
大学院 (GMAP/SESAMI) なし
大学院 (MBA) なし

学内役職

なし

【1】 国内出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. 「集団の実体性が集合的意図と責任の判断に及ぼす影響」、『心理学研究』, vol. 81, 2010 年, 9-16, (唐沢穰と共著).
2. 「フィードバック情報が作業パフォーマンスに与える影響—Need for Cognition を用いた実験的検討」『原価計算研究』, 第 37 巻 第 1 号, pp.29-39,

2013. (末松栄一郎, 三矢裕と共著)

3. その他国内論文

1. 「行動選択における意思決定要因の検討」、『国民経済雑誌』, Vol.203, 2011 年, 67-77, (小西琢, 吉永直生, 田仲理恵, 板谷聡子, 土井伸一, 山田敬嗣と共著).

【2】 海外出版

1. 著書

なし

2. レフェリー付き雑誌に掲載された論文

1. Organic bazaar consumers in India: A case study of the IIRD, India, Aurangabad,” *Journal of Food, Agriculture & Environment*, Vol.10, No.2, 2012, 132-136, (coauthored with Joshi Abhay).
2. Affective Information in Context and Judgment of Facial Expression: Cultural Similarities and Variations in Context Effects Between North Americans and East Asians, *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 2011, XX(X), 1-17, (coauthored with Kenichi Ito, Takahiko Masuda).
3. N400 Incongruity Effect in an Episodic Memory Task Reveals Different Strategies for Handling Irrelevant Contextual Information for Japanese than European Canadians. *Cognitive Neuroscience*. DOI:10.1080/17588928.2013.831819, 2013.(coauthored with Masuda, T., Russell, M. J., Chen, Y. Y., and Caplan, J. B.)
4. Seeking help from close, same-sex friends: Relational costs for Japanese and personal costs for European Canadians. *Journal of Social and Personal Relations*, 2015, 32(4), 529-554, doi:10.1177/0265407514539780, (coauthored with Kenichi Ito, Takahiko Masuda, and Asuka Komiya.)

3. その他海外論文

なし

【3】 主要所属学会

日本心理学会, 日本社会心理学会, 行動経済学会,
Society for Personality and Social Psychology

【4】 学会における活動

なし

【5】 学会賞等の受賞歴

1. 若手研究者奨励賞 (2005)

【6】 主な研究助成金(研究責任者のみ)

なし

【7】 海外における研究・教育活動

1. リサーチスペシャリスト : University of Alberta,
2009年11月-2009年12月

【8】 国際学会での発表状況(過去3年間)

1. Hioki, K., Suematsu, E., & Miya, H. (2014). The Effects of Quantity and Characteristics of Accounting Measures on Performance Evaluations: An Experimental Study on the Relationship between Accounting Measures and Manager's Cognitive Style. European Accounting Association, Tallinn, Estonia.
2. Hotta, S., Hioki, K., & Fujita, M., (2014). A Neuroscientific Approach to Trademark Genericide, The 2014 Annual Meeting of the Law and Society Association, Minneapolis, U.S.A.
3. Hotta, S., Hioki, K., & Fujita, M. (2013). A Neuroscientific Analysis of Language Used in Japanese Mixed Jury Trials: Preliminary Study, The 2013 Annual Meeting of the Law and Society Association, Boston, U.S.A.
4. Hotta, S., Hioki, K., & Fujita, M., (2012). A Neuroscientific Approach to Language and Law: Exploring Psycholinguistic Aspects of Legalese Used in the Deliberation in Japanese Lay-Judge Trials (A Preliminary Study), The Regional Conference of International Association of Forensic Linguists 2012, Kuala Lumpur, Malaysia.

【9】 現在の研究活動

1. 会計実務に関する実験的研究
2. 神経生理学を用いた文化差や言語認知プロセスの検証

【10】 社会活動・実務経験

1. データ分析実習講師 大阪ガス・OGIS 総研・日経BP (2011年度-現在)